

末 日 聖 徒 イ エ ス ・ キ リ ス ト 教 会 ・ 1 9 9 9 年 3 月 号

リア村



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。

月刊—イタリア語、英語、オランダ語、韓国語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語。**隔月刊**—インドネシア語、タイ語。**季刊**—アイスランド語、ウクライナ語、ギルバート語、セブアノ語、タガログ語、チェコ語、ハンガリー語、フィジー語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順)

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会: ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長: ジャック・H・ゴーズリンド

顧問: ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長: ロナルド・L・ナイトン

企画編集ディレクター: プライアン・K・ケリー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹: マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐: R・バル・ジョンソン

編集副主幹: デビッド・ミッチェル

編集補佐: ジェニファー・グリーンウッド

工程管理: ベス・デーリー

出版補佐: コニー・シェークスピア

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー: M・M・カワサキ

アートディレクター: スコット・パン・カンペン

デザイナー主任: シェリー・クック

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

制作: ジナルド・J・クリステンセン、トーマス・S・グローバーク、デニス・カービー、ジェーン・L・マンフォード、ディーナ・L・ソレンソン

デジタルプリプレス: ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター: ケイ・W・ブリッグス

配送部長: クリス・クリステンセン

マーケティング部長: ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「リアホナ」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 理工印刷株式会社

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines March, 1999.

Japanese. 99983 300

March 1999 no.3. LIAHONA (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150.

U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah.

Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



試練によって得た祝福

『聖徒の道』1998年5月号のジェームズ・E・ファウスト第二副管長の大管長会メッセージ「逆境から生まれる祝福」を読んだとき、天のお父様がどれほどわたしたちを愛してくださっているか、そして指導者がわたしたちに分かち合ってくれる知識が、どれほど偉大なものかが分かるようになりました。わたしは中央幹部同様、地元の指導者も愛しています。なぜなら、彼らはわたし自身ももっと善い人間になれるよう助けてくれるからです。

この記事を読んでわたしは、父を亡くしたときにどれほどつらかったかを思い出しましたが、同時にその父と永遠に住めることが、どれほどすばらしいことなのかを理解することもできました。

どんな経験でも、わたしたちを進歩成長させてくれます。困難のおかげで、祝福がどれほどすばらしいものか分かります。今、専任宣教師としてわたしはこの真理をほかの人々に伝えています。チリ・オソルノ伝道部
マルセロ・リーバ長老

否定的な力に打ち勝つ

『リアホナ』(英語版)を受け取るようになってからというもの、わたしは毎月の記事を勉強することにますます興味を持つようになりました。これらの記事を読んでいくうちにイエス・キリストへの信仰が増し、わたしたちの人生を取り巻く否定的な力にどのようにして打ち勝てばよいのかが分かるようになりました。毎日の生活に必要な、より大きな力を得ました。

フィリピン・モンタルバン地方部、
サンマテオ支部
エルドリック・B・ボンサウェル

真実の教会を見つける

わたしは人間に対する神様の計画をいつも知りたいと願っていました。何年もいろいろな教会に行って神様の計画を心から探し求めましたが、それらの教えに納得できませんでした。今では御霊の勧めにより末日聖徒イエス・キリスト教会に入り、この教会がイエス・キリストのまことの教会であることを知っています。わたしは、自分が常に主の教会にふさわしい会員であるよう望んでいます。

次号の『レトワール』(フランス語版。「星」の意)が待遠しいです。ハイチ・ポルトーランスステーキ、カレフォー・フォイクワード
デガゾン・ニストーン



霊感を与える赦しの模範

『リアホナ』(ポルトガル語版)1998年6月号、「赦す心」というすばらしい記事をありがとうございます。ポール・ヒューム兄弟の模範は見事でした。

預言者ジョセフ・スミスがウィリアム・W・フェルプスを赦した偉大なすべについて読んだとき、彼が神の預言者であるというわたしの証はより堅固になりました。わたしは、フェルプス兄弟の書いた賛美歌「たたえよ、主の召したまいし」(『賛美歌』16番)の重要性をもっと理解することができました。彼は預言者ジョセフ・スミスの愛と優しさを実によく知っていたのです。ブラジル・クリティーバルツステーキ、アローカリアワード
レニリー・A・C・L・ド・モルエス



イエスを愛する人々

第一副管長

トーマス・S・モンソン

夏の日差しを浴びながら高速道路をドライブするのは、そうかいなもの。一度のドライブで、雄大な山々の眺めと海辺のうっとりするような景色とを味わうこともできます。しかし、道路がこんでいるときには、山や海には目もくれず、ひたすら前の車に神経を集中させなければなりません。あるとき、1台の車がそのような混雑した流れを縫って、次々と追い越して行きました。ふと見ると、ぴかぴかに磨き上げたその車のバンパーに、実に興味深いステッカーがはってありました。それにはこう書いてあったのです。「イエスを愛するなら、警笛を鳴らせ。」しかしだれも鳴らしませんでした。その身勝手な乱暴な運転には、皆迷惑させられたと思います。それにしても警笛を鳴らすことは、全人類の贖い主、世の救い主、神の御子に対する愛を表す方法として適切なものでしょうか。ナザレのイエスは、そのようには教えておられません。

救い主の愛

主は、永続する真の愛を日々表すことの大切さについて、分かりやすく教えておられます。イエスを試そうとした律法学者が進み出て、大胆にもこう尋



イエスはこう説かれた。
「心をつくし、精神をつくし、
思いをつくして、
主なるあなたの神を愛せよ。」
これがいちばん大切な、
第一のいましめである。
第二もこれと同様である、
『自分を愛するように
あなたの隣り人を愛せよ。』
(マタイ22：37-39)

ねました。「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。」

マタイはイエスの答えを次のように記録しています。『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』¹

マルコの記録によれば、救い主は最後にこう言っておられます。「これより大事ないましめは、ほかにない。」²

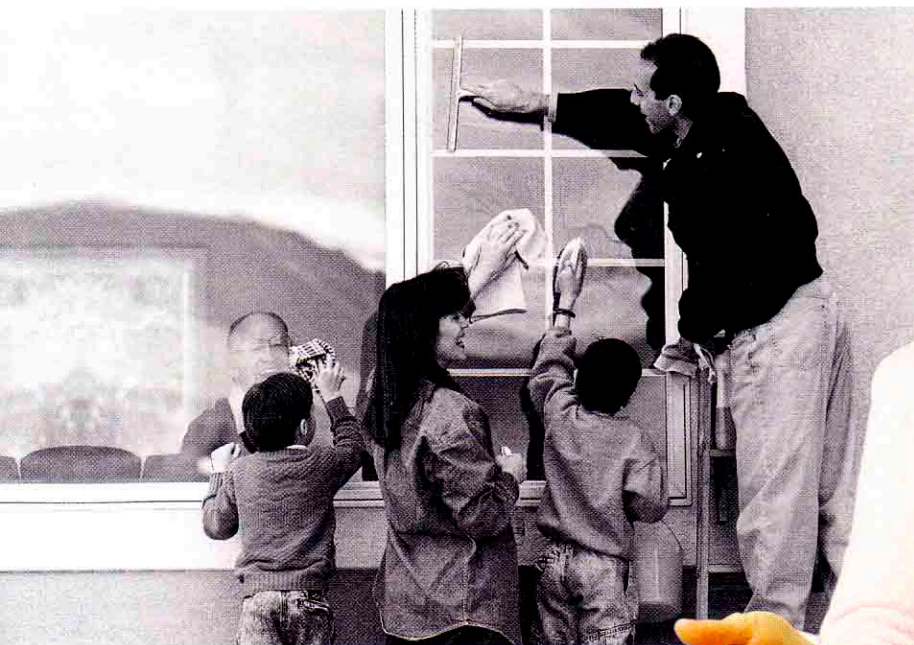
主の答えは、申し分のないものでした。御自身の行いがその言葉を実証していたからです。主は完全な生活を送り、御自身の神聖な使命を全うすることにより、神に

対する純粋な愛を示されました。また決して尊大にならず、高ぶることなく、いつも忠実で、へりくだり、まごころと真実を尽くされました。

主は御霊によって荒野へ導かれ、そこで偽りの頭である悪魔に誘惑されました。しかし、40日40夜の断食で肉体的に弱り空腹であったにもかかわらず、悪魔の最も強く狡猾な誘惑を受けたとき、イエスは正しいと信じることから離れるのを拒絶し、自らの模範によって神に対する真の愛を示されました。³

イエスはその奉仕の生涯において、病人を祝福し、目が見えない人や耳の聞こえない人、足の不自由な人を癒されました。また、人を赦すことによって赦しについて教え、人々を思いやることによって思いやりについて教

写真/ジェド・クラーク、ロンギン・ロンクツィナ・ジュニア



今日わたしたちが直面し、乗り越えなければならぬチャレンジは、戦場に出て行って命をささげることではありません。むしろ、人生という戦場において、わたしたちの行いが神とその御子イエス・キリスト、そしてわたしたちの同胞に対する真の愛を反映したものとなるように、生活し奉仕することです。





イエスはその奉仕の生涯において、病人を祝福し、目の見えない人や耳の聞こえない人、足の不自由な人を癒されました。また、人々を思いやることによって思いやりについて教え、御自身を与えることによって献身について教えられました。

え、御自身を与えることによって献身について教えられました。イエスの教えは、すべて模範によるのです。

主の生涯について深く考えていくと、有名な賛美歌の歌詞が心に響いてきます。

主イエスの愛に ただ驚く
 恵みの深きに われ惑う
 罪人のため 十字架にて
 流されたる血に 身は震う⁴

愛を示す

感謝の気持ちを表すために、わたしたちも命をささげるように求められているのでしょうか。そのような人もいます。

オーストラリアの美しい都市メルボルンには、厳粛なたたずまいの戦没者記念館があります。中に入って静まりかえった廊下を歩いて行くと、最大の犠牲を払った人々の勇敢な行為と功績をたたえる大理石の碑が目に入ります。その前に立っていると、大砲のとどろきやロケット弾の鋭い音、負傷者のうめき声などが聞こえてきます。そして勝者の喜びを感じると同時に、敗者の絶望をも感じ取ることができるのです。

ホールの中央には、記念館のテーマというべき言葉が刻まれています。天窓が取ってあるので文字は読みやすく、まるで語りかけてくるように思えます。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」⁵

今日わたしたちが直面し、乗り越えなければならないチャレンジは、戦場に出て行って命をささげることではありません。むしろ、人生という戦場において、わたし

たちの行いが神とその御子イエス・キリスト、そしてわたしたちの同胞^{ほらから}に対する真の愛を反映したものとなるように、生活し奉仕することです。これは、車のバンパーにはられたステッカーの巧みな言葉で実現できるものではありません。

イエスはこのように教えておられます。「もしあなたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。……」

わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう。⁶

だいぶ昔のことですが、わたしたちは次のような歌に合わせてよく踊ったものです。「愛しているという言葉、裏切らないという言葉、口先だけならいくらでも。見せてよ、それを行いで。」

初等協会のレッスンで習った詩を思い出します。「だれがほんとに愛したか」という題でした。

「愛しているよ、お母さん」
 小さなジョンが 言いました
 でもお手伝いは そっちのけ
 帽子をかぶって ブランコ遊び
 水くみ薪割り 母さん任せ

「愛しているわ、お母さん」
 小さなネルが 言いました
 「とってもとっても 大好きよ」
 でもわがまま言って 膨れ顔
 遊びに出たので ほっと一息

「愛しているわ、お母さん」
 小さなファンが 言いました
 「今日は、たくさん手伝うわ
 学校なくて うれしいの」
 まず赤ちゃんを 寝かしつけ

ほうきを持って 床掃除
 部屋の中も 整とんし、



「どのようにして」あるいは「なぜ」、フライベルク神殿が建てられるに至ったかという質問に答えるには、ドイツの教会員の信仰や献身、愛について知る必要があります。当時、会員数は5,000人に満たなかったのですが、活発さでは世界中のどこにも負けませんでした。

その日一日 朗らかに
 子供にできる お手伝い
 ファンの心は とても幸せ

「愛しているの、お母さん」
 もう一度みんなが 言いました
 子供は3人 ベッドの中
 さあ考えて 御覧なさい
 だれがほんとに 愛したか?

時が流れ、子供のころの記憶は薄れても、真理は変わりません。初等協会で覚えたこの詩は、今日の真理にたやすく当てはめることができます。真の愛とは、心の中の確信が行いになって現れるものなのです。

奉献の祈り

ドイツの歴史的な都市、フライベルクのなだらかな丘の上に、奉献された美しい神の神殿が建っています。この神殿は、愛に満ちた天の御父が忠実な聖徒たちにお授けになる究極の祝福、すなわち永遠の祝福をもたらしてくれるのです。

1975年4月27日の安息日の朝、わたしはドレスデンとマイセンの中間にある小高い丘の岩の上に立ち、エルベ川を見下ろしました。そして聖なる御霊の導きのままに、その国と民とを奉献する祈りをささげました。祈りの中で、会員たちの信仰に触れました。また、神殿の祝福を切望する会員たちの抑え難い気持ちを強調しました。平和を嘆願し、神の助けを願い求め、そしてこう祈りました。「父なる神よ、この国の教会員にとって、これが新たな時代の始まりとなりますように。」



奉献するころには、この珍しい建造物であるフライベルク神殿に国際的な報道機関の注目が集まりました。これは一般公開の期間中にとりわけ顕著に見られ、8万9,872人の人が神殿を訪れました。

そのとき突然、はるか下の谷あい^{せんとう}で、教会の尖塔の鐘が鳴り始め、おんどりの鋭い鳴き声が早朝の静けさを破り、1日の始まりを告げました。わたしは目を閉じていましたが、顔や手や足に暖かい太陽の光を感じました。そんなことがあるでしょうか。その日はひっきりなしに雨が降っていたのです。祈りを終えて天を見上げると、厚い雨雲の切れ目から一筋の光が差して、わたしたちのいる場所を照らしているではありませんか。こうしてわたしは、神の助けが身近にあることを確信したのです。)

やがて政府の十分な協力もあって、スペンサー・W・キンボール大管長とその副管長は、熱意のこもった認可を下しました。神殿が計画され、用地が選ばれ、鉋入れ式が行われ、建築が始まりました。奉献するころには、この珍しい建物に国際的な報道機関の注目が集まり、「どのようにして」とか「なぜ」とかいう質問が頻繁に寄せられました。これは一般公開の期間中にとりわけ顕著に見られ、8万9,872人の人が神殿を訪れました。時には、雨の中を3時間も待たされる人々もいました。しかし、ためらう人はいませんでした。そこにいたすべての人が神の宮を見たのです。

愛の模範

奉献式では、ゴードン・B・ヒンクレイ副管長^{あかし}が奉献の祈りをささげ、賛美の歌、真実の証、感謝の涙と祈りが、この歴史的な行事を飾りました。「どのようにして」あるいは「なぜ」という質問に答えるには、その国の教会員の信仰や献身、愛について知る必要があります。当時、会員数は5,000人に満たなかったのですが、活発さでは世界中のどこにも負けませんでした。

わたしはこの地域で長年責任を果たしてきましたが、

まだ見たことのないものがあります。それは、手入れの行き届いた緑の芝生や花壇に囲まれ、多くの教室を備えた美しい教会堂です。教会の図書と言え、標準聖典と『賛美歌』が1冊ずつ、それにほかの本が1, 2冊あるだけです。個々の会員の蔵書も同じようなものです。しかし、それらの書物は本棚に置かれる暇がないくらい利用されています。その教えは教会員の心に刻み込まれ、日々の生活の中に反映されています。仕えることは特権なのです。42歳のある支部長は、人生の半分に当たる21年半の間、その責任を果たしてきました。決して不平を言わずに、感謝の言葉を述べています。ライブチヒの集会所で、冬の寒い日に暖房設備が壊れたことがありますが、それでも集会は続けられました。会員たちはオーバーをまとい、肩を寄せ合い、シオンの賛美歌を歌って神を礼拝したのです。主はこう言っておられます。「あなたがたは、たゆまずに良い働きをしなさい。」「わたしについてきなさい。」「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」⁸

使徒パウロはコリント人に次のように教えました。「人が神を愛するなら、その人は神に知られているのである。」⁹ この忠実な会員たちが神とその御子イエス・キリストに対して、また永遠の福音に対して抱いている愛は、まさに日々の行いによって確立されています。それは、『モルモン書』に描かれているヤレドの兄弟の示した愛を思わせます。公平で慈悲深く、愛にあふれた天の御父は、祝福を与えずにはおられなかったのです。信仰は奇跡をもたらします。今や永遠の儀式が執行され、永遠の聖約が結ばれています。神の愛が再びその民にもたらされたのです。

イエスを愛する人々にとって、次の預言の言葉には崇高な響きがあります。

「おお、天よ、聞け。おお、地よ、耳を傾けよ。そこに住む者よ、喜べ。主は神であり、主のほかに救い主はおられないからである。

主の知恵は偉大であり、主の道は驚くべきものであって、……

主の目的が達せられないことはな [い]。

主はこのように言う。すなわち、主なるわたしは、わ

たしを畏れる者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。

彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄光は永遠である。」¹⁰

イエスを愛する人々には、そのような祝福が約束されているのです。わたしたち一人一人がこの偉大な報い、永遠の栄光にふさわしくなれますように。□

注

1. マタイ22：36-39
2. マルコ12：31
3. マタイ4：1-11参照
4. 「主イエスの愛に」『賛美歌』109番
5. ヨハネ15：13
6. ヨハネ14：15, 21
7. Joy Allison, in *Best-Loved Poems of the LDS People*, edited by Jack M. Lyon and others (1996), 217-218
8. 2テサロニケ3：13, マタイ4：19; 教義と聖約112：10
9. 1コリント8：3
10. 教義と聖約76：1-3, 5-6

ホームティーチャーへの提案

1. イエスはこう説いておられる。『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』(マタイ22：37-39)

2. 主は言われた。「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。」(ヨハネ14：21)

3. 主に対するわたしたちの愛は、第二次世界大戦後のドイツ民主共和国に住んでいた忠実な聖徒たちの中に見られたようなものとすべきである。

4. 主は言われた。「主なるわたしは、わたしを畏れる者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。」(教義と聖約76：5)

A woman with dark, curly hair is looking out of a large window. She is wearing a red ribbed sweater under a black vest with white floral embroidery. The window shows a cityscape with buildings, a harbor, and a church spire. The text is overlaid on the right side of the image.

神はわたしと
ともにいます

アンナ・アルバノ



写真／ステイブ・ハンダーソン
「ボリスを取つて」はモルモン教の聖文「マンマ、ウエルズ」
© TONY STONE IMAGES

それは試験当日の朝のことで、わたしは急いでかばんに勉強道具を詰めていました。忘れ物は何一つありません。教科書も、眼鏡も、頼りにしている『モルモン書』も、全部ありました。その全部の中には不安な気持ちも入っていました。この不安な気持ちは、大学の建物が目に入ると同時にもっと大きくなりました。

まだ時間が早くて、教授も到着していませんでしたが、ほかの生徒とともにわたしは待っていました。ほかの皆はおしゃべりをしていましたが、わたしはほとんどパニック状態で、黙りこくって座っていました。もう逃げ出すことはできません。今回のテストはわたしとわたしの家族にとってほんとうに大切なテストなのです。というのは、わたしは親戚の人たちに、たとえ教会のことにたくさんの時間を使っても、勉強をおろそかにしてはならないということを証明しなければならなかったからです。わたしはどうしてもこの口頭試験に合格しなければなりません。ただ、不安な気持ちがいっぱいで、とても顔にはほほえみを浮かべる心境にはなれませんでしたし、学んだことを思い出すこともできませんでした。

わたしは窓から外を見ました。その日、イタリアの美しい町ナポリには、信じられないほど青い空が広がっていて、わたしの思いはすぐに神の方に向けられました。数分間、わたしは諸天の広大な広がりをかいまみ、天父と言葉を交わしました。すると平安な気持ちに満たされました。神がわたしとともにおられるという確信を感じたのです。

ほかの生徒はお互いにおしゃべりを続けていましたが、わたしはかばんの中から『モルモン書』を取り出して、読み始めました。読んだ聖文の内容から慰めを受けるにつれ、わたしは自分を取り巻くすべてのことから解放されました。そのとき突然、ある考えが頭

に浮かんだのです。「ここにいて何の意味もない。あなたは教授の質問に答えることができない。ここから立ち去りなさい。試験は来週受けなさい。」わたしは誤ったメッセージを受け取ったと気づかずに、再び非常に孤独感と恐怖感に襲われました。その言葉にわたしの胸は刺し貫ぬかれ、すぐにも『モルモン書』を閉じて成功できないと思い込んだままその場を立ち去ろうとしたのです。

そのときです。わたしはついさっき天父に祈ったときのことを思い出しました。心に感じた平安な気持ちも思い出しました。あらん限りの力を振り絞って、わたしは心の中で叫びました。「神様、わたしとともにいてください。」

今度は、喜びで心が満たされ、恐怖感がなくなりました。天からの確信という温かい光の中で不安な気持ちは消え去りました。

とうとう教授が到着しました。質問を受ける自分の順番が来たときに、わたしは心の中に感じていた平安な気持ちをほんの少しでしたがその表情に浮かべて教授の部屋に入りました。そして輝くばかりの笑顔でわたしは部屋から出て来たのでした。教授のあらゆる質問に答え、最高の得点を取ったのです！

落胆はサタンの用いる最大の武器の一つです。サタンは、今回もし自分の望んだ結果を出すことができなければ、きっと教会を批判する口実をわたしの家族に与えることができると思います。たかひに、

しかし天父の助けによって、わたしは疑いや落胆を克服しました。今わたしは、もし自分の分を果たすならば、天父は助けてくださると知っています。恐れる必要はないのです。神が自分とともにおられるのを知ることほど、大きな喜びはありません。□



MANN

ワードという家族の 一員となる

十二使徒定員会会員
ロバート・D・ヘイルズ

もしわたしたちに、愛と奉仕の精神をもって自分自身をささげる気持ちがあるなら、ワードや支部の中で愛を示したり、温かな手を差し伸べたりする機会は数限りなくあります。

末日聖徒イエス・キリスト教会がその会員に与えているメッセージは、決して結婚している人々、あるいは何か特定の状態にある人々だけに向けられたものではありません。その輝かしいメッセージは、天の御父とイエスが生きておられ、御二方がわたしたち一人一人を個人として愛してくださっているというものです。そして、わたしたち一人一人が、父なる神とその御子イエス・キリストのもとへ戻るのに必要な知識と儀式を得られるようにするために、イエス・キリストの福音が回復されました。天の御父の子供の中には、結婚している人もいれば、結婚していない人々もいます。しかし、福音はすべての人に当てはまるものです。その教えは普遍的なものです。

20年以上前に教会の中央幹部として召されたとき、わたしは教会の独身成人会員に関する責任を与えられました。そして彼らのために働く中で、すばらしい兄弟姉妹たちから数多くのことを学びました。わたしは長い間、教会の独身成人会員たちから、彼らの特別な状況、思い、祝福、問題、そしてすばらしい機会について学ばせてもらいました。苦々しい思い、孤独感、絶望を抱え込んで

助けを必要としている人に手を差し伸べることにより、わたしたちは孤独感を取り除き、自分は不完全な者だという気持ちをめぐい去ることができます。そして、それらの感情を、希望、愛、励ましに代えることができます。

自分の殻の中に閉じこもる兄弟姉妹たちもいました。また自分が接するすべての人の心を明るく照らし、励まし、力づけながら、大きく成長していく人々の姿も見てきました。そのような人々の成功談を聞きながら、喜びを分かち合ってきました。また、自分の願いをまったく見いだせない状況の中において、心の苦しみや挫折感を打ち明けてくれた人の話を聞きながら、ともに涙を流したこともあります。

苦しみを味わっている人々の中には、教会の幹部たちに自分の試練や苦しみを理解することはできないと思っている人々がいるかもしれせん。しかし、わたしたちは心の底からそのような人々を気にかけています。

またわたしは今日までの20年以上にわたり、主がわたしたち一人一人をどのように愛しておられるかについても、非常に多くのことを学んできました。そして、人にはだれでも問題、苦しみ、妨げがあるということを理解し始めてきました。この世の人生の現実を逃れられる人はだれもないのです。「それは、すべての事物には反対のものがなければならぬからである。」(2ニーファイ2:11)

バプテスマのすばらしい祝福を理解すれば、だれでも心に励ましを得ることができます。わたしたちはバプテスマを受けたとき、この世を離れ去って、神の王国に入りました。神の王国では、どのような環境にあるかにかかわらず、すべての人に救いへの道が開かれています。既婚者、独身者、子供のいる人、いない人、富める人、貧しい人、若い人、年老いた人、すべてに開かれています。その可能性は無限です。また十人十色で、人はそれぞれに違います。しかし、わたしたちは皆、優しい天の御父の子供です。天の御父は、わたしが成功を収め、そのみもとへ戻ることを望んでおられます。この点にお

いて、わたしたちは皆、同じです。わたしたちは孤独な存在ではありません。わたしたちは皆愛されている存在なのです。

自らを教会の群れから遠ざけたり、切り離したりするような恐れのあるレッテルを、自分自身にはるようなことのないように注意しなければなりません。例えば、独身の人々が、自分の所属するワードや支部に対して『ファミリーワード』『ファミリー支部』という呼び方をすることをよく耳にします。それは、ほとんどが子供のいる既婚者で構成されている教会ユニットという意味です。それよりは、自分自身を、兄弟姉妹が互いに助け強め合う、大人、若者、子供たちで構成される『ワードファミリー』あるいは『支部ファミリー』の一員と見る方がよくはないでしょうか。神の愛は無限です。わたしたちが置かれている環境や状況に左右されるものではありません。

わたしたちは皆、聖徒の共同体に属し、互いを必要とし、同じ目標に向けて前進しています。わたしたちは一人一人が違った存在ですから、だれでもこの『ワードファミリー』との交わりを絶つ可能性はあります。しかし、わたしたちは自ら自覚しているそのような違いを理由にして、素晴らしい機会に対する扉を閉ざしてはなりません。そうではなく、自分の賜物や才能を人々と分かち合い、希望や喜びを伝え、それによって自らの霊を高めていこうではありませんか。

ある日の朝早く、わたしは妻と、自分たちの両親の死について話し合っていました。妻の両親もわたしの両親も、どちらもすでにこの世を去っていました。結論としてどどり着いたのは、自分たちはすでに60代に入っているので、幼児期や青年期に親を失う場合のような影響はないということでした。わたしたちはすでに、親を亡くした寂しい状態を脱していました。そのことで、自分たちの成長が左右されることはなくなっていました。

それと同じように、いつかわたしたちには、結婚していないからといって、それが自分の成長の妨げになったりはしないということに気づく時がやって来ます。結婚していないという状態を、特別なものだと思込みすぎたり、くよくよ考えたりしていると、わたしたちは自分自身を孤独な状況に追いやってしまう可能性があります。神の王国において、孤独感、本人が自分自身に課したものである場合がよくあります。

わたしたちは、皆さん一人一人が『ワードファミリー』あるいは『支部ファミリー』の中に溶け込み、それぞれの賜物や才能を生かして、すべての兄弟姉妹の生活に良い影響を及ぼす必要があるということを感じるように願っています。もしわたしたちに、愛と奉仕の精神をもって自分自身をささげる気持ちがあるなら、ワードや支部の中で愛を示したり、温かな手を差し伸べたりする機会は数限りなくあります。

1, 2年ほど前、わたしたちは農場のある家で、子供や孫たちと一緒に暮らしていました。家族は皆それぞれに様々な活動を楽しんでいましたが、一人の孫だけが例外でした。ある日の午後、彼は何をすることもなく台所に入って来ると、祖母にこう言いました。「ほく、何もしたいことがないんだ。」それは、彼が自ら自分に課した状況を表現した言葉でした。

その後の数日、妻はその孫に何か楽しみを与える代わりに、この機会を生かして非常に大切な教訓を彼に教えることで、すばらしい知恵を示しました。まず彼にほうきを渡して、幾つかの仕事を手伝わせました。次に、1枚の紙と鉛筆を渡して、台所のテーブルに着かせました。そして冷蔵庫のドアにはりつけてある家族の活動予定表を見せました。それからその若い孫に、自分もしてみたいと思う活動を、その中から選んで書き出すように言いました。そのリストはとても長いものでした。さらに妻は彼に、何か達成したいと思うことを、自分自身のリストに加えるように言いました。リストの項目が増えていきました。間もなく、彼はいろいろな活動に関心を示して、忙しい生活をするようになりました。

孫はそのリストを書いてからは、いろいろな活動に楽しく参加するようになり、以前のように何もすることがなくて仕方がないというようなことはなくなりました。妻は彼に、幸せになるのは自分自身の責任であり、人に依存せず、喜びと幸福のある生活をするように自ら努力する必要があるということ、愛をもって教えたのです。

この体験は、どのような環境にあるかに関係なく、すべての人々に当てはまります。わたしの孫の場合と同じ

助けを必要としている人々を愛し、慰めるときに、皆さんは主の御霊を注がれ、自分自身の生活の中に愛と慰めを見いだすことでしょう。



ように、わたしたちは自分自身の幸福については、自らに責任を求められるのです。わたしたちも、自らの生活の中に、またほかの人々の生活の中に喜びと幸福をもたらすためには、自分自身の生き方についてリストを作る必要があるのではないのでしょうか。そのリストの中には、次のような項目を入れることができますと思います。

- 祈る。「あなたの荷を主にゆだねよ。主はあなたをささえられる。」(詩篇55：22)
- 聖文を研究する。
- 監督、定員会の指導者あるいは扶助協会会長と話を
- 人のために奉仕する。
- 人を励まし、力づける。

リストには、このほかにもいろいろと付け加えることができますでしょう。

主はわたしたち一人一人に対するその大いなる愛のゆえに、すべての人々に幸福になってほしいと望んでいらっしゃる。主は預言者リーハイを通して「人が存在するのは喜びを得るためである」と言われました(2ニーファイ2：25)。わたしたちが話しているこの喜びは、今味わうことができるものです。状況が変わったり、幕のかなたへ行って永遠の栄光を受けたりするその日まで待つ必要はありません。わたしたちは今、その喜びを見いだすべきなのです。イエス・キリストの福音を愛しているなら、たとえどのような状況にあっても、喜びを見いだすことができるのです。

現在孤独にさいなまれている人々も、いつまでもその心の殻の中に閉じこもっているべきではありません。そのようにして引きこもった生活を続けていると、サタンの闇の力に飲み込まれ、落胆、孤独感、挫折感、そして無力感に襲われるようになる危険性があります。自分を価値のない人間だと思ってしまうようになると、人は繊細で霊的なきずなを壊してしまうような人々との交わりの中に向きを変え、霊的な事柄の受信アンテナと送信機を役に立たないものにしてしまうこともよくあります。自分自身がどの方向へ進んでいるかも分からない人や、耳障りのよいことばかりを言う人に助言を求めて、一体何のよいことがあるのでしょうか。最高の目標に到達できるよう助けを与えてくれる優しい両親、神権指導者、扶助協会の指導者、友人に心を向ける方がよいのではないのでしょうか。

この教会のすばらしい面の一つとして、各ワードや支部が地理的な区分によって組織されているということがあります。それによって指導者は会員と密接なつながりを持ち、彼らを理解し、養うことができます。地理的に分けられたこれらのユニットに属する教会員たちはそれぞれの集会場に集うことができ、神権指導者や扶助協会の会長と親しく交わることができます。

わたしたちは『教義と聖約』の中で次のように言われています。「主なるわたしは、すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて裁くからである。」(教義と聖約137：9) 信仰に忠実な生活をしながら、この世において結婚の機会に恵まれない人々がいますが、そのような人々もやがて、永遠の結婚の聖約を交わし、尊ぶ人々に授けられる祝福、昇栄、栄光を受けるためのあらゆる機会に浴することができます。わたしたちが自らに問いかけなければならない重要なことは「自分自身は何を望み、何を目指しているのだろうか」ということです。

わたしたちは、その忠実さ、従順、献身のゆえに、独身成人会員の皆さんを敬い、尊んでいます。わたしたちは教会が定めた活動に積極的に参加し、自分自身を特別扱するような考え方に陥らなければ、主のすべての祝福にあずかることができます。わたしたちは聖徒が形作る共同体において、ワードあるいは支部という家族に属しています。そこでわたしたち一人一人が自分に与えられた賜物と才能をもって奉仕をすることができます。救い主は十字架の上で苦しみを受けておられた間に、母親の世話と、御自分を苦しめる人々の罪の赦しを心にかけておられました。そのときの救い主の模範に倣うのは、わたしたちすべてにとってすばらしいことではないのでしょうか。わたしたちもほかの人々が必要としている事柄に心を向ける必要があります。助けを必要としている人に手を差し伸べることにより、わたしたちは孤独感を取り除き、自分は不完全な者だという気持ちをぬぐい去ることができます。そして、それらの感情を、希望、愛、励ましに代えることができます。

皆さんが賜物、才能、温かな思いを分かち合うなら祝福を授けられると約束いたします。助けを必要としている人々を愛し、慰めるときに、皆さんは主の御霊を注がれ、自分自身の生活の中に愛と慰めを見いだすことでよい。□

モルモンメッセージ

指導者

に従おう



イエス・キリストに従うようにという招きを受け入れましょう。
そうすれば、主が行く道を導いてくださるので、人生に喜びがもたらされるでしょう
(2ニーファイ31：10-12参照)。

の
開拓者たち

コートジボアール

アフリカのこの国に住む教会の開拓者の会員たちの物語は、犠牲と忍耐の物語です。そして、最も重要なことは、それが、イエス・キリストを信じる信仰の物語だということです。

ロバート・L・マーサー

写真/ロバート・L・マーサー、ファレス・ホーマン

「**主**^{みなま}の御霊がまさにアフリカを覆いつつあります。」十二使徒定員会のジェームズ・E・ファウスト長老が、そう語ったのは、1992年にアフリカを訪問中のことでした。実際、当時コートジボアールで働いていた専任宣教師たちは、その国民が回復のメッセージを受け入れ始め、改宗者の数も増えていったため、その御霊の影響力をひしひしと感じていました。

1978年、忠実で資格あるすべての男性に神権を授けること



ができる、という啓示が発表されましたが、それに対してコートジボアールでは、アフリカの英語圏の国々ほど、急激な衝撃はありませんでした。英語で書かれた教会の出版物は、例えば、ガーナやナイジェリアといった国々では、広く受け入れられ始め、その影響で人々は教会に宣教師の派遣を要請するようになっていました。しかし、西アフリカのリベリアとガーナの間にあるフランス語圏のコートジボアールでは、福音は別の扉を通じて入って来たのです。

コートジボアールの教会開拓者の物語は、困難と犠牲、勤勉と忍耐の物語です。そして、最も大切なことは、救い主に寄せる信仰と愛の物語だということなのです。

フィリップ・アサードとアネリス・アサード

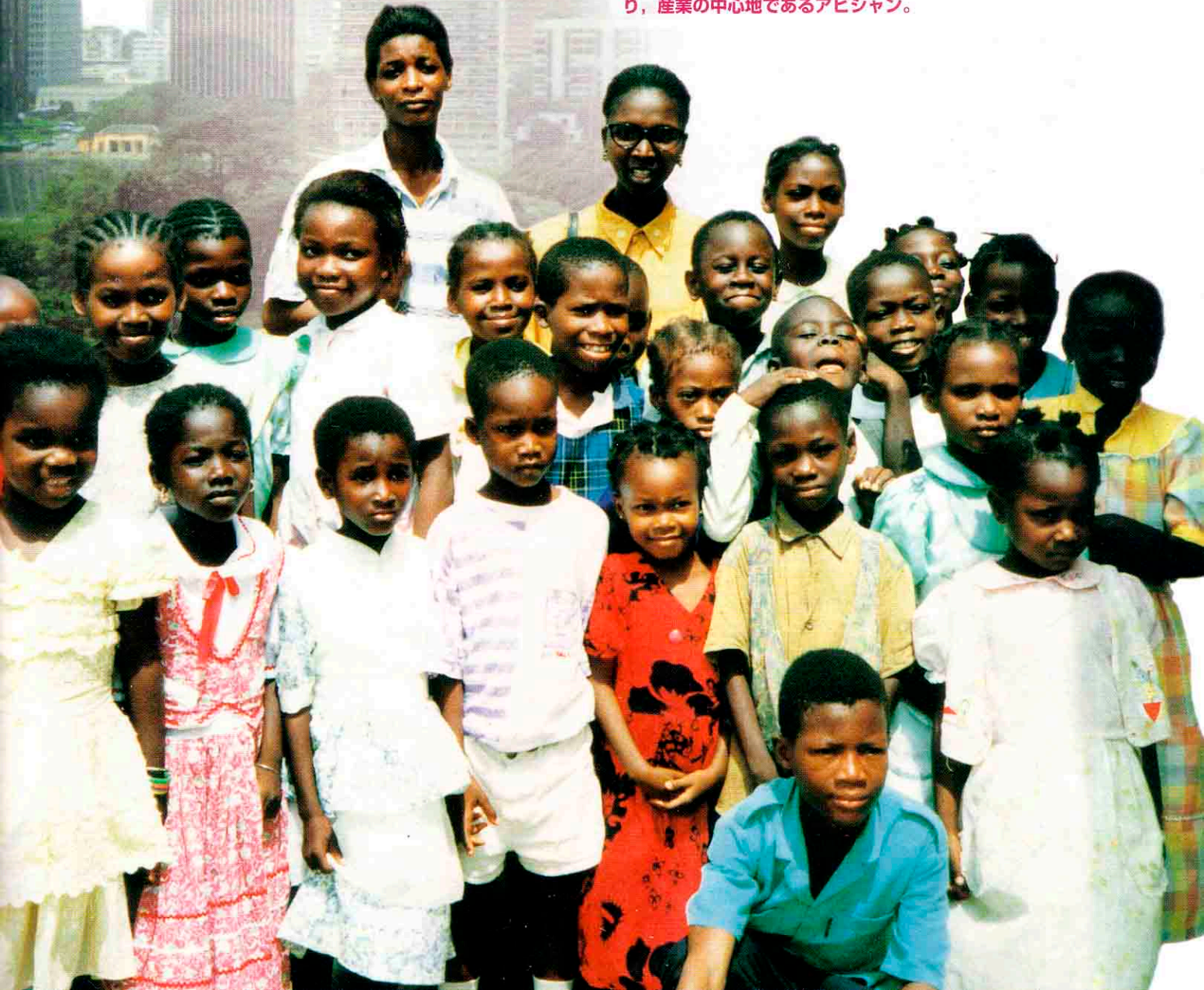
経済的なゆとりのあるコートジボアールの国民の中には、教育を受けるためにヨーロッパの大学へ行く人がよくいます。1970年代と1980年代には、そのようにしてヨ

ーロッパへ出かけて行ったかなりの数のコートジボアール出身の大学生が、現地で福音を聞き、受け入れています。そのようにして祖国へ帰国した末日聖徒たちは、福音が根付き、成長するうえで大きな助けとなったのです。

そのような大学生の一人にフィリップ・アサードがいました。フィリップは1971年にドイツのケルンへ行き、そこで工学系の大学に入学しました。そこで勉強中に、アネリス・マルギッタという女性と出会います。それは、彼女のふるさとのレムシャイトという町で開かれたダンスパーティーでのことでした。程なくして、二人は結婚し、フィリップには仕事も見つかったため、そこで家族としての生活を始めたのです。

1980年、二人の専任宣教師が彼らの家のドアをノックし、回復のメッセージを伝えたところ、二人はすぐに福

この写真のような初等協会の子供たちこそコートジボアールの教会の将来を表しています。背景——国の最大の都市であり、産業の中心地であるアビジャン。



音を受け入れました。やがて、二人はバプテスマを受けました。それは、アサード兄弟の言葉を借りて表現すれば、「数々の祝福に圧倒される思い」でした。フィリップとアネリスはスイス神殿で結び固めを受け、やがて、フィリップは新しい仕事に就きましたが、その仕事は、少しずつ人数の増えていく家族の必要を十分に満たすことのできるものでした。そのころまでに、家族には、息子のアレクサンダー・ジョセフと娘のドロシー・アンが加わっていました。

1993年にコートジボアールへ最初に召された4人の姉妹宣教師。背景—アビジャン近郊の農村地帯。この礁湖はギニア湾に通じている。



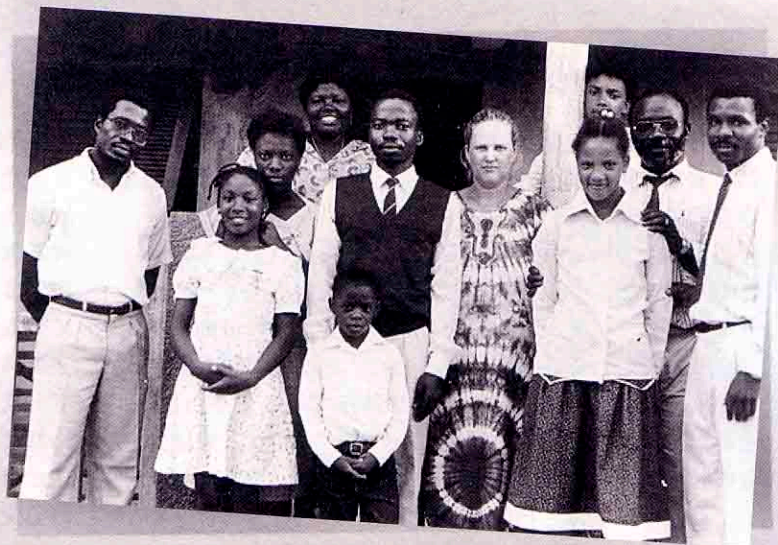
ドイツで生活していて、家族の経済的な状態も上向き、生活もだんだんと楽になってきたにもかかわらず、アサード兄弟は、自分の心が祖国のコートジボアールへ引かれていくのに気づき始めていました。彼は、祖国が必要とするような真の繁栄は、イエス・キリストの福音を通じて初めてもたらされることをよく理解していました。こうして、彼は祖国に福音を紹介するうえで何らかの役割を果たそうと決心したのです。コートジボアールで技術者を求めている会社に応募したのですが、反応がありませんでした。そこで、1984年、アサード兄弟は、休暇を取って祖国に戻り、自分で求職活動を試みることにしました。

祖国に戻ったアサード兄弟は、自分の応募した会社が財政的な問題を抱えていることを知って、がっかりしました。それ以外に就職の機会はまったくなかったからです。

「わたしはケルンに戻りました。でも、主を信じる信仰にはいささかの揺るぎもありませんでした。それは、わたしには、コートジボアールに福音を確立するという夢があったからです。」アサード兄弟は当時のことを思い出してそう語っています。「それで、1986年には、妻と一緒に祈って断食した後で、コートジボアールへ戻る決意をしたのです。それは、自分がそれまで頂いてきたものをお返しし、家族や祖国の人々の状況を改善するためでした。」

ドイツを出発する前に、アサード兄弟姉妹は二人で祝福師の祝福を受け、スイス神殿へ参入し、それから、フランクフルトまで旅行をして、そこでヨーロッパ地域会長会の長老たちに面会しました。当時の地域会長会には、現十二使徒定員会会員のジョセフ・B・ワースリン長老と現七十人名誉会員のラッセル・C・テラー長老がいました。アサード兄弟姉妹は、コートジボアールへ戻りたいという二人の希望について説明し、家族そろって「二人の幹部から祝福と励ましを受けました。」アサード兄弟の言葉です。「その後、ワースリン長老から、母国に住む全会員のリストを頂きましたが、その数はほんのわずかでした。」

アサード兄弟は仕事を辞め、家族は家や持ち物を売り払いました。そして、1986年4月10日、アサード家族はコートジボアールに向けて出発したのです。最初は、アビジャンの近くにある小さな村で、両親との同居から始まりました。アビジャンは、コートジボアールで最大の都市で、また産業の中心都市でもありました。アサード



最初の地元の教会員の集まり。
アサード家族とアフーイ家族も中にいる。

姉妹も子供たちもまったくフランス語が話せませんでした。それでも、アレクサンダーとドロシーは学校へ通い始め、アサード姉妹は、義理の父や母からフランス語を習い始めました。一方、アサード兄弟は職探しです。

まる1年間、アサード兄弟の求職活動はまったく実を結びませんでした。家族を養うという責任も彼の双肩に重くのしかかってきました。しかしながら、仕事を見つけることがどんなに困難であったとしても、主の業を押し進めるといふ彼の決意を阻むものではありませんでした。彼とアサード姉妹は、ドイツでもらったリストに従って会員たちに手紙を書き始めました。その手紙に初めてこたえてくれたのが、アビジャンに住むルシアン・アフーイ家族でした。二つの家族は、お互いに自分たちだけではないことを知って、喜び合いました。コートジボアールには、ほかにも連絡をくれた会員がいたのですが、遠くて会いに行くわけにはいきませんでした。

アサード兄弟は成長する支部の指導を続け、やがて、1987年には、十二使徒定員会のマービン・J・アシュトン長老と七十人のアレクサンダー・B・モリソン長老の訪問を受けました。このとき、アメリカ大使館の職員だったテリー・ブロードヘッド兄弟が初代の支部長に任命され、アサード兄弟が副支部長に召されました。アシュトン長老が1987年9月に福音伝道の地としてコートジボアールを奉獻したとき、この国には16人の会員がいただけでした。

アサード兄弟は、その後、コートジボアールの国民として初めての支部長に召されました。また、地方部長としても奉仕しました。アサード姉妹もこれまで、支部の扶助協会の会長や若い女性の会長、また、地方部の扶助

協会の会長なども歴任しています。さらに、音楽の才能にも秀でた彼女は、人々が教会の賛美歌を学ぼうとて大きな助けになっています。

俗世にかかわる祝福は、霊的な祝福を追いかけるようにやって来ました。失業状態が1年間続いた後で、アサード兄弟は、アビジャンにあるヨーロッパ系の自動車製造会社に雇われることになりました。フランス語もドイツ語もでき、加えて工学の学位を持っていることから、会社の求人条件に完璧に適合したのです。現在、彼は会社の技術部門の次長として働いています。

アサード家族は、自分たちに与えられた祝福とコートジボアールへと自分たちを導いてくれた影響力に永遠に感謝しています。その影響力のおかげで、アサード会長は、「福音を自分の母国の民の間で確立する」という自分の抱いていた夢が実現するのを、その目で見てきました。その夢の一部は、1997年8月17日にコートジボアール・アビジャンステーキが設立されたときに実現しました。このとき、フィリップ・アサードが会長に召されたのです。アサード姉妹は、自分の祖国となった地で最初のステーキが設立されたことについて、こう語っています。「わたしたちは、この日のために、11年間、働き続け、祈り続けてきました。」

コートジボアールで初めて開かれた教会のユースカンファレンスでリフレッシュメントをもらうために列を作る教会員たち。

ルシアン・アフーイとアガサ・アフーイ

ルシアン・アフーイが工業美術の勉強をするために、家族とともにフランスのリヨンへ渡ったとき、自分が受ける教育の中で最も重要なのが霊的な分野になろうとは思ってもみませんでした。ルシアンと妻のアガサ、そして二人の娘は、1980年に専任宣教師たちが彼らの家のドアをノックして間もなく、福音を受け入れました。ポルドー支部の会員たちは、この家族の加入を心から喜んでくれました。そして、十分に忠実であることを証明した後、アフーイ兄弟姉妹と二人の娘はスイス神殿で結び固めを受けたのです。

1984年にコートジボアールへ帰ったとき、アフーイ家族には小さな息子も加わっていましたが、ほかに教会員がだれもいないことに大いに失望しました。それでも彼らは自宅で熱心に集会を開き、ほかの末日聖徒の家族と接触のできる日を祈り求めました。

大変な時代でした。1964年までフランスの植民地だったコートジボアールでは、当時も今も、高給で働く機会ほとんどありません。大部分の産業は外国企業の所有です。この国では失業率も80%の高率に達しています。大部分の人々は小さな集落に住み、農業で生計を立てている状況です。

非常に困難な経済状況の中で、1986年4月に、アフーイ家族に喜びがもたらされました。アサード家族からの手紙が届いたのです。この二家族は間もなく、アサード家の裏庭で日曜日の集会を合同で開くようになりました。一緒になって働き、礼拝し、就職の機会を求めて祈るにつれ、二つの家族は親しさも増し、互いに霊的に強め合うよう

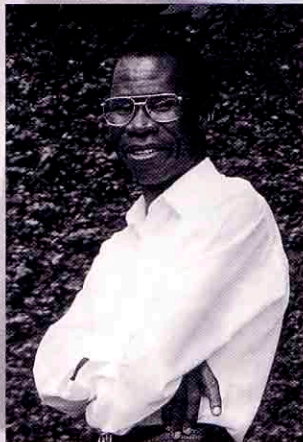




になっていきました。アフーイ姉妹とアサード姉妹は、まるでほんとうの姉妹のように親しくなったのです。

アフーイ家族の祈りがこたえられる日がやってきました。アフーイ兄弟に教師の仕事が見つかったのです。ブアケという、アビジャンの370キロほど北西にある国内で2番目に大きな都市です。アフーイ家族は、アビジャンで成長しつつある教会の仲間のもとを離れなければならなくなりました。しかし、証も信仰も強められたアフーイ家族は、1988年には、ブアケで教会の設立の手助けをすることになります。彼らはそこで、福音を広め、やがて、その地域に派遣された夫婦宣教師から温かい助けを受けて伝道活動を推進できるようになったのです。

アフーイ兄弟は、4年にわたって、支部長として働きました。さらに、支部の分割後も引き続き支部長として働きました。現在、彼は副伝道部長として働いています。アフーイ姉妹は扶助教会の会長として働き、一方、子供たちはクラスを教えたりして、様々な方法で小さな支部の運営を助けたのです。



アドルフ・マンデ・グー

アドルフ・マンデ・グー

1992年6月に、コートジボアールにフランス語の話せる伝道部長が初めて赴任し、1993年に、コートジボアールに新しい伝道部が開設されたのですが、それまで伝道活動は、ガーナのアクラにいる英語を話す伝道部長の指導を受けて行われていました。² 初期の時代のそうしたチャレンジにもかかわらず、教会員の成長には目を見張るものがありました。

1989年には、夫婦宣教師としてガーナに赴任していたロバート・M・ウォーカー、ローラ・ウォーカー夫妻がコートジボアールへ転任することになりました。二人はフランス語ができなかったため、通訳を雇ったり、コートジボアールに住むアメリカ人家族に助けを求めたりするよう、指示を受けました。

ウォーカー夫妻は多少の恐れを抱きながらも、新しい責任を果たすに当たっては主が助けてくださるという信仰をもって、その転任の要請に応じることにしました。アビジャンの教会の集会で、最初のころ、ウォーカー夫妻が理解できたことと言えば、御霊みたまの助けを受けて理解できたことに限られていました。ところがある集会のと

き、一人の青年が近づいて来て、何かお手伝いできることはないかと、りゅうちょうな英語で尋ねてくれたのです。この青年こそアドルフ・マンデ・グーという、ウォーカー夫妻がコートジボアールに14か月いる間に、雇い、教え、バプテスマを施した4人の通訳の中の、第1号となった青年だったのです。

アドルフはバプテスマを受ける以前から、レッスンやお話を通訳していましたから、福音については早くから精通していました。ウォーカー夫妻のために通訳として働いたことから、『モルモン書』について理解し、その証を得る備えができていたのです。その『モルモン書』を彼は3日で読み通しました。彼は、「聖霊によって、その本が真実であるという強い証がわたしに伝えられたために、ほとんど一息に読んでしまったのです」と言っています。

グー兄弟はウォーカー夫妻にこう言いました。「この本は、あなたのおっしゃっていることは神から来た教えであると証をしてくれています。ですから、わたしたちの家族もわたしもこの福音を受け入れなければならないと感じています。」

グー兄弟姉妹と4人の子供たちは、1988年にバプテスマを受けて以来、教会にあって実に果敢に働いてきました。グー兄弟は支部長に召され、後に、コートジボアールの教会教育部で働く最初の教師となりました。現在、彼は教会教育部の地域ディレクターとして働いています。グー姉妹もまた、地方部の若い女性の組織で会長を務めるなど、教会の中で様々な召しを受けて奉仕の働きをしています。

ママドゥ・ザディとジョゼフィン・ザディ

コートジボアールの開拓者の中には、生活が一変したことを身をもって実証している人たちが数多くいます。恐らく、そのような例の一つとして、国境警備隊員であったママドゥ・ザディの物語ほど「一変」という言葉に当てはまる話はないでしょう。

ザディ兄弟は、教会に加入するまで、アルコール依存症に起因する肝臓障害に悩まされ、健康を損ねていました。そんな状態であったにもかかわらず、彼は貯金をはたいてバーを開店することにしました。立地の良い場所を購入し、商売もしばらく順調にっていました。そのとき、彼は、妻のジョゼフィンが専任宣教師たちに出会ったのをきっかけに自分の生活が大きく変わっていくとは、夢にも思っていなかったのです。ジョゼフィンは宣教師たちのメッセージに心を動かされました。しかし、コートジボアールの文化では、宣教師から福音を学ぶためには夫の許可がどうしても必要でした。そ

の要望に対して、彼は許可してはくれたものの、彼自身は教会とは一切かかわりを持ちたくないと伝えました。自分が歩もうと決めていた人生は、福音の教えとは相いれないものであることを、彼自身自覚していたのです。

しかし、ジョゼフィンは、福音の知識が深まるにつれ、夫にもそれを伝えたいと思うようになりました。そして、ザディ兄弟は、彼女の熱心な祈りがあったからこそ、聖霊の影響力が自分の生活にも及び、自分としても宣教師の話に耳を傾ける気持ちになったと、力説しています。彼もまた、宣教師の話にすぐに心を動かされました。しかも非常に強く動かされたため、知恵の言葉に従った生活まで始めるようになったのです。劇的に健康が回復したことから、彼は福音が真実であると確信するようになりました。

ザディ夫妻のバプテスマは、教会員の数を二人増加させたわけではありませんでした。程なくして、この夫妻の親族が18人そろって教会に加入したのです。ザディ家族は、それだけではなく、今も数多くの親族に福音を宣べ伝えています。そして今では、息子とおいが、専任宣教師として、祖国のさらに多くの人々に回復のメッセ

ジを伝えているのです。

福音が生活の中心になったために、ザディ兄弟は所有していたバーを閉じ、その建物を教会の集会を開くために寄付しました。ザディ兄弟は今では、年金と不動産の賃貸収入で家族を養っています。それだけでなく、ザディ兄弟姉妹は、教会のために数多くの時間をささげて奉仕の業に励んでいます。ザディ兄弟はこれまで地方部長として働き、ザディ姉妹はドクイ支部の扶助協会の会長として働いています。

クリストフ・ムボモ

コートジボアールには1,400万人の人々が住んでいますが、国内が政治的に安定しているため、アフリカ中の国々から数多くの移民が流入して来ています。クリストフ・ムボモはより良い生活を求めて流入して来た移民の一人ではありませんでしたが、結果としては、そのより良い生活を見つけ出したのです。

クリストフは、故国のカメルーンでは、優秀な学生で、選抜されてカトリックの神学校に入学が許可されました。神学校を卒業すると、コートジボアールにあるカトリックの神学校の教師になるよう要請されました。コートジボア



ママドゥ・ザディ

エレーン・タノイ、アラン・タノイ（写真前）のような夫婦が、指導者としての召しを果たすことにより、教会を強めている。背景——同じ日にバプテスマを受けた新しい改宗者たち



ルでは、大部分の人々が昔ながらの部族信仰を守っており、クリスチャンは、国民の約30パーセントです。

アビジャンに到着したクリストフは、多くの青年たちが末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師たちに好意的に接していることを知りました。そして、自分がよく知っている3人の若者をはじめとして、何人かの青年が教会の宣教師として召されていることを知り、ひどく好奇心がかき立てられます。クリストフはこの新しい教会についていろいろな疑問を持ち、そんな教会のメッセージを伝えている者たちを「矯正」しようと決意したのです。

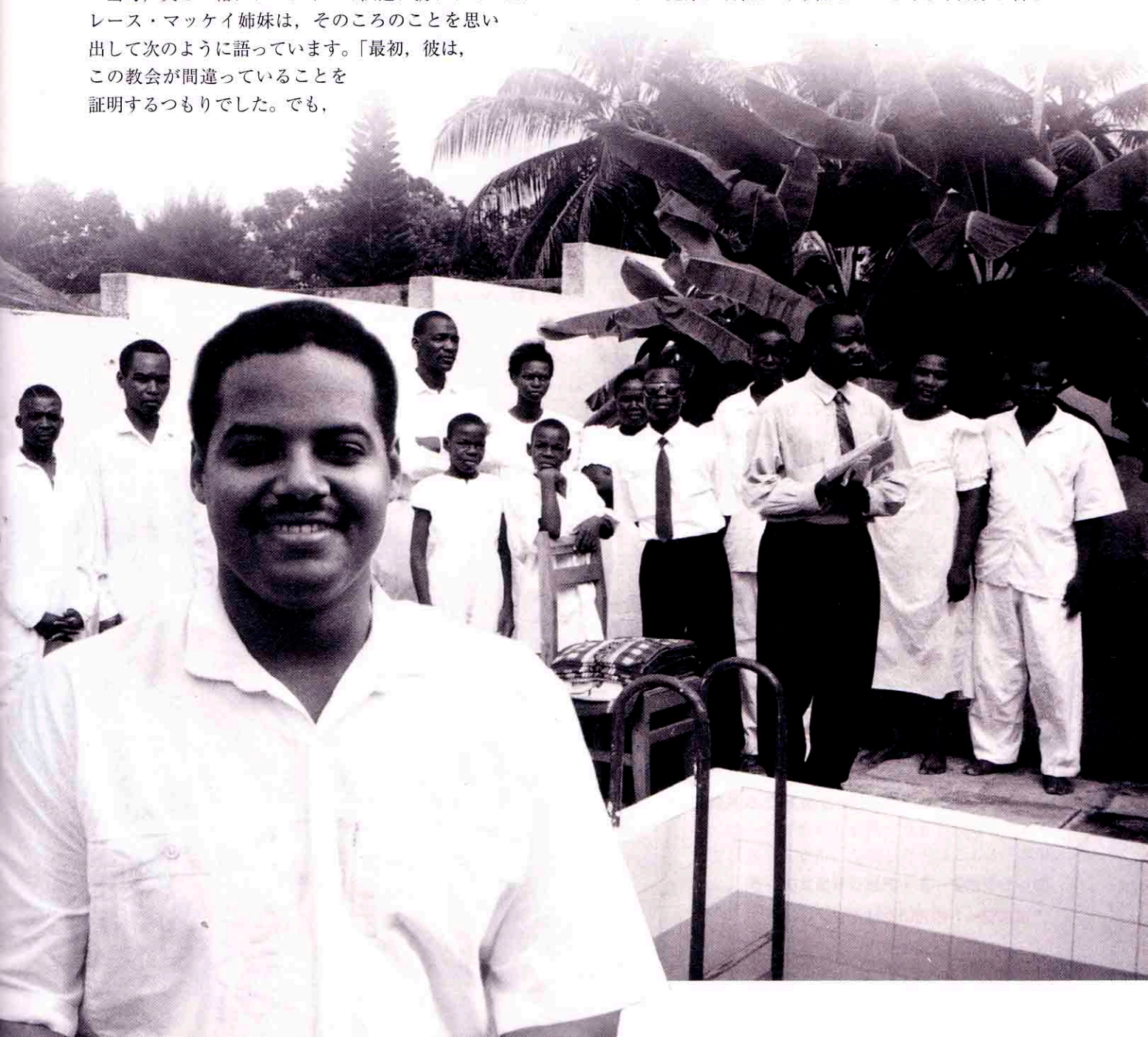
当時、夫と一緒にアビジャンで伝道に携わっていたグレース・マッケイ姉妹は、そのころのことを思い出して次のように語っています。「最初、彼は、この教会が間違っていることを証明するつもりでした。でも、

初めから彼は誠実に質問をしてきました。積極的に学ぶ気持ちがあったのですね。」

マッケイ長老姉妹と話を重ねるにつれ、クリストフは、自分としては答えがないと考えていた疑問に対しても答えがあることを知りました。救いの計画の見事さは、これが真実だと高らかに訴えかけ、贖い^{あがな}の意味も明瞭になってきました。

「わたしは、まだ選り抜きの学生だけを集めたぜいたくな神学校で専任の教師をしていたときに、すでに末日聖徒イエス・キリスト教会の教えに改宗していました。」

ムボモ兄弟は日記にそう記しています。「自分が新し



く見つけ出した信仰に従って生きるために、教会と出会って1年後に、わたしは教職を辞しました。そのとき、9年間在職したことに伴う特権やそのほかの優遇措置をことごとく失ってしまったのです。」

その後続いた数々のチャレンジは、ムボモ兄弟の信仰と忍耐強さを試すものとなりました。彼は思い出をこう語ります。「小学校の教師をしていた妻から離婚されました。また、アパートに3回も泥棒に入れられ、自分のものを全部盗まれてしまいました。さらに、自分の自慢の車を友人に「壊されて」しまいました。そのとき、突然、絶望的な状況にいたとしても、主に従おうと固く決意している自分に気づいたのです。」

1993年7月に、ムボモ兄弟は第二副伝道部長に召されました。その職で彼は優れた奉仕の業を続け、しかも、相変わらず様々なチャレンジに耐え続けています。しかし、その重荷も新しい教師の職を見つけたことで、少し軽減されました。

「わたしは、わたしの救い主が生きておられることを、そして、わたしのために、またすべての人のために亡くなられたことを知っています。」ムボモ兄弟は、天の祝福は地上のあらゆる試練をはるかにしのぐものがあると、強調して言っています。救い主とその福音に対する感謝の思いから「わたしは、救い主のためにできることはすべてしなければならないと感じています」と、彼は語っています。

忍耐強く待ち続けて

1992年には、コートジボアールには1,000人近くの会員しかいませんでした。その2年後には、教会員数は2倍以上の2,500人になっていました。現在は、約3,500人の会員がいます。アビジャンとブアケと首都のヤムスクロでステークが一つあり、11のワードと4つの支部で構成されています。またほかの都市でも小人数のグループで集会を開いています。

コートジボアールで教会初となる礼拝堂は、

コートジボアール・アビジャンステーク、アボボワードの若い女性たち。

1997年4月に奉献されました。福音伝道の地として奉献されてからちょうど10年、コートジボアールで最初のステークが設立される直前のことでした。自分たちの礼拝堂が持ったということは、コートジボアールの末日聖徒にとって、大きな出来事になりました。中でも、アフィー家族とアサード家族にとっては、11年前に二つの家族でふるさとの村の木の下で最初の集会を開いて以来、祖国に礼拝堂が建つというのは実に長く待ち望んだことだったのです。

このアフリカの国家にとって、将来のための最善の施策は、回復されたイエス・キリストの福音の中にあります。コートジボアールの末日聖徒にとって、輝かしい将来は現実のものになりつつあるのです。□

注

1. 1992年11月10日から11日まで、ケニアのナイロビで開催された伝道部長セミナー

2. 新しい伝道部は、1993年5月に伝道本部がアビジャンに引越すまで、カメルーン・ヤウンデ伝道部という名称だった。その後、この伝道部は、コートジボアール・アビジャン伝道部となった。



クリストフ・ムボモ



充実した生活をし、永遠に対して備える

わ たしたちのほとんどは、あるとき、ふと人生の目的について考えます。ブリガム・ヤング大管長は、このテーマについて次のように述べています。「わたしたちは何のためにこの地上にいるのでしょうか。さらに充実した生活を送るために学び、知識と経験を増し加えるためです。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』94)

人生の大切な経験の一つが「**艱難**」です。艱難は知識を増し加えてくれます。そして、苦しくても福音の原則に従い続ければ、大きな喜びがもたらされます。

試練の目的

リチャード・G・スコット長老は次のように述べています。「皆さんは神聖な目的のために地上に来ています。際限なく楽しみ、飽くことなく娯楽を追求するためではありません。神が用意された、さらなる祝福を受けられるよう、試され、自分自身を証明するために存在しているのです。……主は皆さんの個人的な進歩成長を望んでいらっしゃいます。」(「人生に喜びを見いだす」『聖徒の道』1996年7月号, 30)

試練はわたしたちの進歩成長を促します。ナイジェリアのラゴスに住むフローレンス・チャクラーの人生がそれを物語っています。チャクラー姉妹は若いときに、家族の苦しい生計を支えるために



休みなく働きました。「心から神に従うことによって貧しさから抜け出そうと決心しました」と、彼女は回想します。彼女は「両親と年輩者に従順であること、真剣に勉強すること、体を動かして一生懸命働くこと」を決心しました。そして、大変な努力と決意によって、家族の生活を支えながら教育を受け、ついには看護婦と助産婦の資格を得ることができたのです。しかし、彼女にとって、物質的な成功への望みよりもっと大きな望みは、家族に救い主とその教えに基づいた生活をさせることでした。彼女の夫は妻の霊的な飢えを感じ取りました。二人は真理を見いだせるように、一緒に熱心に祈りました。そして、この教会を紹介されたとき、二人は自分たちの祈りがかなえられたことを知ったのです。

今日、チャクラー姉妹は、数々の苦難に立ち向かって得た祝福を感謝しています。「主はわたしの祈りを聞いてくださいました」と、彼女は証します。「主は、輝く幸福な未来を探し求めて苦しむわたしを御存じでした。主はわたしの努力に対して数え切れないほど多くの祝福を下されました。教会に入ってから、わたしは平安な気持ちで毎朝を迎えています。わたしはいつも心の中で歌を歌っています。」(「フローレンス・チャクラーの奇跡」『聖徒の道』1996年6月号, 17)

永遠の進歩に喜びを見いだす

永遠の命に通じる道を旅するとき、苦しいこともよくあります。しかしこのことを忘れないでください。天の御父は、わたしたちがその旅の中で喜びを見いだすことを望んでおられるのです。地球は美しいもので満ちており、人生には、ほかの人々と良い関係を築く機会がたくさんあります。さらに、世の中の悲しみは、その多くが必要のないものです。M・ラッセル・バラード長老が説いているように、「幸福の計画は神のすべての子供に与えられます。もし人々がそれを受け入れて守るなら、平安と喜び、豊かさが地にあふれるでしょう。現在知られている苦難の多くは、……姿を消すことしましょう。」(「人生の疑問に答える」『聖徒の道』1995年7月号, 25-26)

イエス・キリストの福音は、充実した喜びのある生活を送って永遠に対して備えるためには知識と行いがなければならぬことを、わたしたちに教えてくれます。□



実物を使ったレッス



ジョン・R・ハウ 写真/ジェド・クラーク、クレーグ・ダイヤモンド

救 い主は聴衆に教え、靈感を与えるために、なくした銀貨、いなくなった羊や高価な真珠など身近なものを使って示されたことがしばしばありました。福音を教える教師として、わたしたちも実物を適切に用いることができます。そのためには、(1) 聖文を探求し (2) クラスに参加する人たちにとって身近なものを選び、そして (3) 想像力を使います。しかしそれには注意すべきことが3つあります。実物を使ったレッスンは手短にしてください。また簡素にまとめましょう。そしてレッスンそのものの影を薄くするようなものにならないようにしましょう。

ワードの教師たちがさらに効果的な実物を使ったレッスンを行うよう奨励するために、教師養成集会に出席する教師たちに電話をかけ、これまで見てきた実物を使ったレッスンや話の中で、最も印象に残っている例を思い起こすように頼みました。返ってきた反応はすばらしく、次の集会が普段にも増して興味深くなるだろうと思わ

れるものでした。集会の冒頭に妻のローズとわたしは、挙げられた30近くの例を黒板に列挙していきました。そして残りの時間、参加していた教師たちに、最も自分に影響を及ぼしたものを分かち合うように促しました。

扶助協会の教師であるユニス・ブラック姉妹は次のような例を挙げてくれました。ある話者は、彼の月収を表すりんごを10個並べました。そしてりんご1個を食費に「支払い」、2個を家賃に、というように、「^{じゅうぶん}自分のための最後の1個が残るまで支払っていきました。それから彼は監督に隣に立ってくれるように頼みました。彼は、まだ様々な支払いが残っていることを主が理解してくれるよう望みつつ、その月の自分の一部しか払えないと述べました。そしてりんごを大きくかじって、その食べかけのりんごを監督に渡したのです。この話はブラック姉妹に強い影響を与えました。それから彼女はまず**最初**に自分の一を払い、残りをやり繰り返すよう決心したのでした。

執事定員会のアドバイザーであるデビッド・バー兄弟

スンによる動機づけ



は、幾重にも重ねられた卵ケースに入れられ、その上からさらにテープで巻かれた1個の生卵の話をしてくれました。教師はクラスの生徒たちにその包みを壁にぶつけたり、床に落としたりするように頼みました。その後彼は包みを外し、守られて壊れなかった中の卵を生徒たちに見せました。彼は、福音は同様の方法で彼ら一人一人を守るために計画されたものであること、つまり戒めを守ること、福音は何層もの証あかしを築く助けをするものであると生徒たちに教えました。

初等協会のパム・ラロー姉妹は彼女のおばあさんが彼女を暗い部屋に連れて行き、ろうそくを灯し、どのように自分のろうそくによってほかのろうそくにも火を灯すことができるかを示してくれたときのことについて話してくれました。おばあさんはパム姉妹に模範となり、証を

分かち合うことの大切さを教えたのです。その話はとても印象的だったので、パム姉妹はおばあさんを訪ねる度に、同じその話を繰り返してくれるよう頼んだのでした。

わたしも好きな実物を使ったレッスンを分かち合いました。40年近く前に、副監督はきれいなあめを1個出し、執事たちのグループ一人一人が手に取れるよう順番に回しました。それから彼は、皆が手に取り、幾分べとついたそのあめを食べたい人がいればあげましようと申し出ました。だれも食べたいとは言いませんでした。この賢明な教師は、デートする年齢に達するときまでのレッスンを忘れないようにと促し求めました。わたしたちは自らを道徳的に清く保ち、デートする相手に敬意を払う必要があるのです。それは決して忘れることのできない純潔についてのレッスンでした。

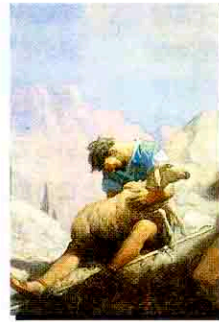
靈感によって与えられた実物を交えた霊的な準備は、わたしたちが原則をより明確に理解するのを助け、良い決断をするよう動機づけてくれるでしょう。□



子供が 道から迷い出たとき

七十人

ジョン・K・カーマック



道から迷い出た子供を持つ親たちは、福音の教えの中から導きと力を得ることができます。

主を愛し、主の戒めに従い、そして幸福で、実りある、健全な人生を歩む子供に育てようと最善の努力を払ってきたにもかかわらず、わたしたちの息子や娘たちは時々道から迷い出てしまいます。道から迷い出るとは、薬物の濫用、犯罪、不道德な行い、さらには親やほかの人々に対する虐待行為にかかわるという意味が含まれています。このほかにも、与えられた務めに全力を尽くさないとか、学校を中退するとか、人生に目的や幸福を見いだせず無為な生活を過ごすとかといった状態も含まれることでしょう。これらはさほど深刻ではないかもしれませんが、親にとっては悩みの種でしょう。

こうした子供の親のほとんどが、悲しみ、失望、絶望、憂うつ、罪悪感、至らなさ、失敗感に襲われます。それ

と同時に、怒りやあきらめの気持ちを味わい、責任を放棄したいと感じることもあります。親たちのこれらの反応は通常、事態をますます悪化させ、問題を深刻化させます。

わたしたち夫婦の友人で、息子が取った行動のために前述のほとんどすべての気持ちを味わった人がいます。彼ら夫婦にとってこの5年か6年間はまさに恐ろしい悪夢の連続でした。彼らはあらゆる方法を試しました。大金を払って回復プログラムに参加させたりもしました。そのプログラムに参加した息子は最初の意気込みこそよかったのですが、わずか1週間でやめてしまいました。

父親の嘆きと、そして希望が次の言葉に表されています。「わたしたちの息子のような若人を持つ両親にとって、いわゆる『何々を解決する方法』『何々

英ページ—写真／FPG INTERNATIONAL—右—「七十人」N.C. ウィンズ画「レベテ」全
福音博物館の館内にあり複製・写真の人物は記事の内容とは関係ありません

を克服する方法』といった本はどれを読んでも役に立ちません。主の導きによって正しい考えを持ち、正しい行動が取れるように祈り、正しい判断を下せるように願ひ続けるしかありません。」それでも揺るぎない信仰を持ち続けたこの夫婦は次のように明言しています。「息子は神殿でわたしたちに結び固められています。たとえ今はサタンによって生活を支配されているとはいえ、このサタンのきずなよりも永遠の聖約のきずなの方がはるかに強いのです。わたしたちはそこに最後の望みを託しています。いつか息子が永遠の家族のもとへ帰って来て、自分の行いを悔い改める日が来ることを願ひながら毎日の生活を過ごしています。」

この友人のように、堪え忍ぶ力の限界を超えるような試練を受けている人はほかにも大勢います。親にとって試練の時は通常、子供の成長期にやってくる。けれどもこれらの試練が訪れる時期は必ずしも子供の年齢と関係があるわけではありません。親は大人になっても子供のことが心配なのです。

子供の行いで悩んでいる両親を理解し、助けの手を差し伸べるために、わたしは以下の事柄が有益だと考えています。(1) 一部の家族が直面している二つの関連性のある問題に目を向ける(2) 両親がこれらの問題やまたほかの重大な問題に取り組むうえで基本となる教義を調べる。(3) 苦難を強いられる間、両親がしっかりとするための方法を検討する。

アルコールと薬物

● **アルコール**。13歳になる息子が毎日大量のアルコール飲料を摂取するようになったために、深い悲しみと苦しみの毎日を強いられた夫婦がいます。

この息子はアルコール中毒から抜け出すことができずに、最終的に若くしてこの世を去りました。

苦悶の人生に終止符を打つことになった病気で倒れる少し前に、一人の兄弟が彼に尋ねました。「最初にアルコ

ールを口にしたのはいつのことだったの？」それは衝撃的な答えでしたが、同時に問題の全貌を明らかにするものでした。本人の説明によると、彼がわずか5歳だったころ、ある日友達の家へ遊びに行きました。友達の両親は家

子供がわたしたちから教えられた道と異なる道を歩んでいるからといって、子供を排斥してよいということにはなりません。実のところわたしたちは、子供たちの生活がどのような力を受けると抑えの利かないものになってしまうのかが分かっていません。



写真：ステイフ・バンダーソン / リアホナ・アーノルド・コライバル画

にいませんでした。そしてビールを飲むように勧められました。アルコール飲料について何も知らず、また友達はルートビア（訳注：サルサ根・ササfras根などの汁から作る、ほとんどアルコール分のないコーラ飲料に似た飲料）のことを言っているのだと思った彼は、初めてアルコール飲料を口にしました。彼はビールの味と、アルコールが体に与える影響を気に入ってしまいました。そして、13歳になるまでにすっかりアルコール中毒になってしまったのです。

その後の彼の人生は、祈り、悩み、息子を立ち直らせようと努力しては失敗する毎日を、両親に強いることになりました。行方が分からなくなった息子を両親が捜し当てた場所は、飲み友達と一緒にビリヤードバーであったり、酒場であったり、そして時には留置所であったりもしました。数年間、居場所が分からないこともありました。両親にとっては悪い方へ悪い方へと想像するしかない、いたたまれない数年間でした。それでも、アルコール依存症患者の自主治療グループの援助と、同じような問題で苦しんだ人々からの愛に満ちた思いやりによって、分別のある、前向きな生活を送った時期もありました。

こうした心痛の毎日が何年間も続いたにもかかわらず、両親は決してあきらめませんでした。数限りなくひざまずいて息子のために祈りました。息子がどこへ行ったかを知らせてくださるよう祈ったこともしばしばありました。母親が重い病気にかかったとき、彼の居場所を知っている人はいませんでした。けれども、御霊は家に電話をかけるよう息子を導き、そして彼は戻って来ました。地上における最後の時

を過ごす母親のために、彼は父親と姉妹とともに熱心に看病しました。

●**薬物**。わたしがカリフォルニア州ロサンゼルスで神権指導者を務めていた1960年代は、当時大流行していた薬物のとりこになった子供を抱える両親が大勢いました。一人の父親が助言と慰めを求めてやって来ました。二人の息子が強い幻覚症状を伴う薬物の依存症になり、彼と奥さんは悪夢のような毎日を送っていたのでした。

この夫婦は子供たちを育ててきた間、どの親でもそうであるように、失敗を繰り返しながらも、精いっぱい子供たちに愛の模範を示し、家庭で福音の原則を教えてきました。けれども、二人の息子は悲しい選択をしてしまいました。問題が尋常でないことを知った両親は自分たちをひどく責めました。そして、父親は自分が神権にかかわる責任を続ける資格がないと感じていました。わたしは教会の責任を続けるよう説得しました。また、彼の子供たちの将来を信じていると言いました。

そのときに彼と話し合ったことを、ここですべての両親、特に、子供たちに対して抱いていた夢が水泡に帰して苦痛と挫折感を抱いている両親の皆さんと分かち合いたいと思います。さらに、そうした人々に必要な希望と乳香を与える教義について考えを述べたいと思います。

関連する教義

親としての努力に欠けていたとして必要以上に自分を責めるために、大きな苦しみを味わっている両親がいます。彼らは恐らく、「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない」(In Conference Report, April 1964, 5; quoting J. E. McCulloch, *Home: The Savior of*

Civilization [1924], 42) と語ったデビッド・O・マッケイ大管長のすばらしい、預言の意味を含んだ言葉を間違えて自分に当てはめているのではないのでしょうか。彼らは薬物やアルコールを濫用している子供がいるので、親としては失敗したに違いないと考えています。したがって、彼らはどれほど熱心に努力したとしても、彼らがもたらした良いこと、あるいは成し遂げた成功も、家庭における親としての失敗を償うことはできないという、本来の意味とは異なる関連づけをしているようです。この宣言は両親が子供たちと交わり、子供たちと一緒にいるよう奨励することを目的としているのであって、多くの時間や努力そして犠牲によって親としての務めを果たしてきながらも、望むような成果を刈り取ることができないでいる両親を失敗者とするような意味ではありません。さらにほかの勧告と教義を詳しく調べてみると、わたしたちが持つべき正しい見識が明らかになってきます。

●**天の御父を信頼する**。わたしたちの生活の大部分は、喜びと悲しみ、快楽と苦痛、善と悪が微妙に混じり合っています。天の御父は死すべき世に置かれているわたしたちの状態を理解しておられ、人が成長するための場所としてこれらの状態を現在あるがままにされ、そして人に選択の自由を与えておられます。さらに、天の御父御自身はわたしたちが経験している状態や感情をすべて経験してこられたに違いないのです。なぜならば、預言者ジョセフ・スミスが教えているように、「神御自身はかつて、わたしたちが現在あるようにあられた」そして「地上に住まわれた」からです (*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, selected by

Joseph Fielding Smith [1976], 345, 346)。わたしたちが前世で生活していたときに、優れた一人の息子は御父に逆らっただけでなく、御父の子供たちの3分の1を説き伏せて悪魔の道を選ばせました。

もしあなたが放縦を続ける子供の親として大きな苦痛を経験しているのであれば、同じように苦しんだ親たちを聖文の中から思い起こしてください。アダムとエバがそうでした。息子のカインは兄弟のアベルを殺しました。リーハイとサラは、年長の二人の息子が反抗しました。アブラハム、イサク、ヤコブという傑出した人物もそれぞれの妻とともに、両親としての悲しみを数多く経験しました。息子のアルマには反抗的な息子のコリアントンがいました。そしてモーサヤには反抗的な息子が何人もいました。

1929年に、十二使徒定員会のオーソン・F・ホイットニー長老は次のように述べています。「子供の気まぐれや、強情さに悩まされている両親の皆さん、あきらめないでください。彼らを見捨てないでください。まったく希望が失われたわけではないのです。羊飼いが御自分の羊を捜し出されるでしょう。皆さんの子供になる以前は、彼らは主のもとにいたのです。彼らが皆さんに託されるはるか以前からそうでした。しかも、主は人に勝る大きな愛をもって愛していらっしゃるのです。子供たちは、ただ知らずに正義の道からさまよい出たにすぎません。神は無知に対しては慈悲深い御方です。完全な知識を持った人だけが、完全な責任を要求されるのです。神はその僕の中で最も優れた者よりもはるかに慈悲深く、愛情に満ちた御方です。また、永遠の福音はわたしたちの限られた小さな心で

理解するより、もっと大きな救いの力を持っているのです。」(in Conference Report, April 1929, 110)

あらゆる時代を通じて、多くの親たちは子供たちに関連して重大な苦闘を強いられ、そして子供たちに手を差し伸べる方法を見つけようと努力するときに、天の御父から支えと助けと導きを受けてきました。

●**選択の自由を尊重する。**神がこの地球を創造される以前の永遠の昔から、あらゆる時代に適用されてきた、宇宙を貫く偉大な教義は、神が人々に選択の自由すなわち善か悪かを選ぶ権利を与えてこられたことです。わたしたちは選択の自由を持っているので、よきにつけあしきにつけそれを用いたことについて神に報告する責任があります。これは公平であり、また正しいことです。もしわたしたちに選択の自由がないとすれば、わたしたちに対して、またわたしたちが行うあらゆることについての責任は神に帰されることとなります。その結果、わたしたちは善と悪について十分に知ることができなくなります。

この世界にどっちつかずの状態は存在しません。わたしたちも子供たちも善と悪に取り囲まれています。子供たちは正しい原則を教わることによって、理解に基づいた選択を行うことができます。子供たちは福音の教えに反する選択をすると、時には重大な結果も含めてそのもたらす結果を受けなければなりません。『教義と聖約』にはこのように記されています。「わたしの民は、たとえ**苦しみを受けること**によらなければならぬとしても、従順を学ばず、必ず懲らしめを受けなければならぬ。」(105:6, 下線付加) 主にとってそれはつらいことではありますが、

習慣性を持つ行為に陥った若人を主は御存じであり、善と悪について自らの経験によって学ぶ彼らを忍耐して見守っておられます。

オーソン・F・ホイットニー長老は預言者ジョセフ・スミスの言葉を言い替えて、次のように述べています。「忠実な両親が受けた永遠の結び固めと、福音に従った雄々しい奉仕に対して授けられた神の約束は、当人のみならず子孫をも救う力があります。中には迷い出る羊もいるでしょう。しかし羊飼いは常に彼らを見守っておられるのです。彼らは、囲いに戻そうと神の御手が差し伸べられていることに遅かれ早かれ気づくでしょう。わたしたちがこの世にいる間か、あるいは来世に行ってからになるかもしれませんが、いずれ彼らは戻って来るでしょう。つらいいばらの道を歩むことになるかもしれませんが。……犯した罪の報いを受けなくてはなりません。しかし最終的には罪を悔い改めた放蕩息子のように、赦しの心で迎えてくれる父の家へ戻るのであれば、つらい経験も無駄にはなりません。軽率で反抗的な子供のために祈ってください。希望と信頼を捨てずに信仰をもって見守り、神の救いの業を見届けてください。」(in Conference Report, April 1929, 110)

わたしたちは子供に多くの期待を寄せることができますし、またそうすべきです。けれども子供たちを強制的に主の鑄型にはめ込むことはできません。子供たちは自分で望まなければ、教会にとどまろうとも、福音に従って生活しようともしないでしょ。道から迷い出た子供が大人になったら、わたしたちは苦悩してばかりいるのではなく、あるがままの彼らを受け入れて、現在抱いている期待やアプローチの方法を

調整しなければならない時が来ます。子供たちに完全な姿を期待してはなりません。忍耐と愛をもって、主がなさるように物事を永遠の見地からとらえるのです。

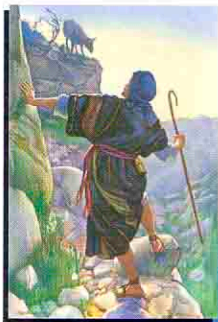
● 不義に他人を裁かない。人々が心

に抱いている思いを完全に裁くことができるのは神とイエス・キリストをおいてほかにはおられません（教義と聖約76：68参照）。わたしたちの心が和んでいるかどうか、自らの罪を悔い改めているかどうかに基づいて、賢明に

また完全に正義と憐れみのバランスを取ることができるのは御二方だけです。わたしたちが不義に他人を裁いてはならないと命じられているのはここに理由があるのです。ほかの人を厳しくとがめていると、わたしたちは同じような責めを天の御父から受けることになります（ジョセフ・スミス訳マタイ7：1-3参照）。御子と同様に神はまったく義にかなった、完全に信頼できる判士であり、完全な光と知識と理解を持っておられます。

親にとって、子供から同性愛志向があると打ち明けられたときほど胸が張り裂けるような思いをすることはありません。不道德な行為を放置することなく、若いとはいえ大人であるこのような子供を受け入れるのは容易なことではありません。厳しく当たったり、裁いたり、縁を切るなどの脅しをかけたり、虐待したりすることは、息子や娘を助けることにはなりません。両親は純潔と道徳に関する神の律法を尊重する一方で、若い男女に対して変わらない愛を持ち、関心を寄せる必要があります。

子供がわたしたちから教えられた道と異なる道を歩んでいるからといって、子供を排斥してよいということにはなりません。実のところわたしたちは、子供たちの生活がどのような力を受けると抑えの利かないものになってしまうのかが分かっていません。望ましくない影響を及ぼす力がどこから来ているのかを知るだけの手段と事実をつかんでいるのは神以外におられません。神だけが御子を通して（ヨハネ5：22参照）「すべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさば」くことがおできになり、またそのようにされるのです（伝道12：14）。



「中には迷い出る羊もいるでしょう。しかし羊飼いは常に彼らを見守っておられるのです。彼らは、囲いに戻そうと神の御手が差し伸べられていることに遅かれ早かれ気づくでしょう。わたしたちがこの世にいる間か、あるいは来世に行ってからになるかもしれませんが、いずれ彼らは戻って来るでしょう。」



わたしたちと子供たちとの間にある関係はかけがえのないものです。子供たちを拒絶したり、性急にあるいは厳しく裁いたりしてはなりません。さもないと、取り返しのつかない傷を負わせることになります。

●**救い主に心を向ける。**わたしたちは皆、善も悪も選び取っているのです。程度の差こそあれ全員が罪を犯します。そうした選択の自由まつわる避けられない結果を御存じである神は、わたしたちを危険な状態から素速く移動させるために救い主を備えてくださいました。救い主はわたしたちの罪、苦痛、欠点、絶望を御自身に引き受けてくださいました。心を和ませ、罪を悔い改め、新しい人になるならば、主の贖罪しよくさいによる癒しの力を受けることができます。主はわたしたちが極度の不安に駆られたときに一緒に悲しんでくださいます。しかしながら、わたしたちが究極的に祝福を得ることを、主は長期的な立場から御覧になっています。このため、ある状況の下では重荷を降ろす手を急いで差し伸べず、ただ見守っておられることがあります。

わたしたちは救い主の教えの精神を学ぶことによって、子供が迷い出てしまったときにどのような対応をしたらよいかを理解することができます。1匹を見つけに行くために「99匹」を残しておき(ルカ15:1-7参照)、なくした銀貨を捜すために家中を調べ(ルカ15:8-10参照)、放縦な生活で財産を浪費した息子であっても家に迎える(ルカ15:11-32参照)準備をしておかなければなりません。では、どのようにして準備すればよいのでしょうか。

●**主に助けを求める。**道から迷い出た子供の問題は通常複雑であり、個人によって問題はそれぞれ異なってい

す。彼らに助けの手を差し伸べる正しい方法は一つではありません。祈りによって主に助けを求めることが、それぞれの状況に合った指示を得るための最良で唯一の方法でしょう。ローマ人への手紙第8章26節で、使徒パウロは「わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みたまみずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである」と説明しています。主のすぐそばまで近づいて、御霊の導きを求めるならば、どのような手段を講じたらよいかを知ることができます。

●**御霊の励ましを感知する。**心からの誠実な祈りによって主に近づいたら、御霊の励ましを感知することを学ばなければなりません。主は『教義と聖約』の中で、「あなたの思いを照ら」す「わたしの御霊を授けよう」と約束しておられます(教義と聖約11:12-14参照)。その時々に応じて何を必要としているかを、御霊を通して具体的な指示を受けることができます。

●**励ましに耳を傾ける。**御霊のささやきを受けたら、それに向かって着実に前進する必要があります。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない」と箴言の作者は述べています(箴言3:5)。わたしたちがなすべきだと感じたことを行うために、信仰が必要とされる場合があります。全体像を御存じなのは主だけです。わたしたちが進んで主に思いと心に向けるならば、いつ子供のために正しい行動を取るべきかを知ることができます。また、主の導きを受けているという自覚によって、悩み苦しんでいる間も精神的な強さを持ち続けることができます。

わたしたちは決して見捨てられてい

ないことを覚えてください。聖文は希望と平安を約束しています。イエス・キリストは道から迷い出た子を持つ両親の苦しみをはっきりと理解しておられることが、放蕩息子の偉大なたとえから明らかです。わたしたちが堪え忍び、大いなる知恵と理解を得るならば、最終的にほとんどすべての障害を克服できることを、主はこのたとえで明らかにしておられます(ルカ15:11-32参照)。

●**決してあきらめない。**あなたが今、娘や息子に手を伸ばして彼らの心をつかむことができないとしても、少なくとも彼らに対して働きかけ、愛し続けることだけはできるはずです。なぜなら、ほかの人に手を差し伸べ、養い、助けたいと思う気持ちは愛の表れであって、相手は必ずそれと気づくものだからです。わたし自身は困難な時期にあったときにジョセフ・F・スミス大管長の勧告が大きな助けになりました。「父親の皆さん、もしあなたが子供を福音の原則のうちに教えたいと思うならば、また子供に福音を愛し、理解させたいと思うならば、さらにあなたに従順であって一致してほしいと思うならば、子供を愛しなさい。……たとえ息子たちがわがままであっても、彼らに話すとき、怒ってはならない。命令調で荒々しく話してはならない。優しく話しなさい。……強制によって行うことはできない。」(『福音の教義』305-306)

スミス大管長によるこの預言に満ちた勧告と前述の教義は、常に祈り、助け、子供たちに対して扉を開いているならば、いつか勝利を得ることができるという希望をすべての親に与えています。わたしたちは子供たちを育て上げ、しっかりと支えていなければなり

ません。子供たちが幼いときに、彼らを力づけ、支え合う家族の友情関係を築いておけば、彼らがその後、試練や誘惑に遭ったときに援助の手を差し伸べやすくなります。

両親への勧告

両親が道から迷い出た子供から受ける試練を堪え忍ぶうえで助けになることを幾つか分かち合いたいと思います。

● **まず自分自身に関心を払う。** 子供たちは困難な状況に対処するための忠

告や大人の意見、助けを求めてあなたのもとに来ます。そのように重大な時期にあなた自身が肉体的にも情緒的にも健全な状態でなければ、子供たちの助けになることはできません。子供たちの日常生活に気を配るあまり、自分自身の生活を見失ってはなりません。あなた自身が健全な状態を維持するためにできる限りのことを続けて実行してください。

子供たちはあなたの標準や判断に対して挑戦的であったり、疑問を投げかけたりすることがあるかもしれません。あなたが確信していることや蓄えてきた知恵を子供たちと分かち合えるようにしておく必要があります。疲れている夜の時間に子供と話し合う必要があるかもしれません。けれども、あなたと子供の間の扉が開かれたそのときを逃さず、積極的に応じてください。

● **助けを求める。** 近年、アルコール中毒や薬物の濫用、そのほか性的不道徳や危機的な状況に関する医学的な研究は大きな進歩を遂げています。薬物やアルコールを濫用する子供を持つ両親には、そうした若人を助け、社会復帰させるための最新の技術やサービスについてよく調べてみることを、わたしは強くお勧めします。適切であれば、ホームティーチャー、定員会指導者、監督、支部長に相談してください。

● **子供たちの成功を生きがいにするのをやめる。** 一部の親は子供の業績と親自身の希望や期待を愚かにも混同させています。親が子供の成功を喜ぶのはよいことですが、親の過大な期待は子供に不当な圧力やストレスを与えます。子供の望みやあこがれが親の考えているものと異なる場合であっても、それらを理解し、尊重してあげられないと、親子の間に激しい衝突が起きる

彼らに助けの手を差し伸べる正しい方法は一つではありません。祈りによって主に助けを求めることが、それぞれの状況に合った指示を得るための最良で唯一の方法でしょう。



ことがあります。

● **知恵を用いて放縦な子供を受け入れる。** 難しい局面において子供の生活に強い影響力を発揮できる人が、外部にいる場合がしばしばあります。最終的にそうした人々のうちの一人が子供の心に灯をともし、それがあなたの息子や娘を立ち直らせるきっかけとなるのです。それは子供の親しい友達かもしれないし、恋人かもしれない。あるいは教師、思慮深いスカウトの指導者、セミナーの教師、神権指導者、若い女性の指導者、扶助協会の指導者かもしれません。時には、裁判所や法の執行機関による懲戒を受けてからでないで自分の選択や生活を振り返ることができない若人もいます。

しかしながら多くの場合、若人は最終的に家族のもとへ戻って来ます。放蕩息子のたとえのように、放縦の生活に走った息子や娘は我に返って、乳香と支えを求めて家に帰って来ることでしょう。このときこそ、わたしたちが両手を広げて彼らを受け入れた、その後、新しい生活を始めさせる機会となるのです。

● **自己否定を避け、不当に自責の念を持つのを避ける。** すべての親は失敗を犯します。けれども、ほとんどの人は親としての責任を立派に果たすことを心から望んでいます。しかし一部の親は、子供が現実歩んでいる道から目をそらそうとします。

彼らは現実が実は仮の姿であってほしいと思うあまりに、言い訳がましいことを言います。しかし、問題が深刻かどうかを関係する人々全員が早く見極めることが大切なのです。問題のある行為をやめさせるためには早期に手を打つことが大切だからです。

ほかに、過剰に自分を哀れみ、恥ず

かしがる親がいます。こうした感情は娘や息子を愛する気持ちの裏返しかもしれません。けれども、自分の子供を恥ずかしく思っている親を、子供がどう感じるかを考えてください。こうした気持ちは、迷い出た子供の心の扉を

閉ざし、親子間の意志の疎通を断絶させるものです。

自分の性格を完成に導くチャレンジに立ち向かおうとしなければ、ほかの人々を理解し、愛し、育て、仕える能力を高める機会は失われてしまいます。

ほうとう
放蕩息子のたとえのように、放縦の生活に走った息子や娘は我に返って、乳香と支えを求めて家に帰って来ることがあります。このときこそ、わたしたちが両手を広げて彼らを受け入れた、その後、新しい生活を始めさせる機会となるのです。



救いの道を歩むように子供を助けることによって、わたしたち自身も救いの道を歩むのです

● **人にはだれからも奪われることのない自由があることを忘れない。**道から迷い出た子供を持つ親は毎朝目が覚める度に、これほど大きな苦痛を強いられている中で、はたして親として務めを果たし、愛し、奉仕していくことができるだろうかとの思いに駆られることでしょう。これは過酷な現実です。わたしはそのような方々に、ナチのユダヤ人集中収容所で生き残ったビクトル・E・フランクルを思い起こすよう提案したいと思います。28人の生き残りのうち、唯一の収容者だったビクトル・フランクルはこのように記しています。「このような精神と肉体の両面から圧力をかけられる悲惨な状況においても、人はたとえわずかであっても霊の自由と思いの独立を持ち続けることができる。

集中収容所生活を経験したわたしたちは、人々を慰めるために、また最後の一切れのパンを分かち合うために収容小屋の一つ一つを訪ね歩いていた人々のことを忘れることができない。そのような人々が大勢いたわけではなかったが、彼らは、人からすべてのものを奪おうとしても一つだけ奪えないものがあることを十分に証明してくれた。それはだれからも奪われることのない個人の自由である。どのような環境に置かれていても自分の姿勢を貫くことを選ぶ自由、自分の道を選ぶ自由である。」(Man's Search for Meaning [1981], 74-75)

来る日も来る日も、虐待や残虐な行為を受け、命と人の尊厳を無視した扱いを受けた収容者が力尽きて命を落とす中で、次のことを学ぶ人々もいま

た。「わたしたちが人生に何を期待するかなどということは、実は大したことではない。大切なのは、人生がわたしたちに何を期待しているかということだ。」(Man's Search for Meaning, 85) 道を外れた子供を持つ親と同様、彼らは毎日、毎時間、人生とは何かということを考えていたのです。これらの試練は人によってそれぞれ異なり、さらに瞬間瞬間で変化します。彼らは心の平安と尊厳が減ぼされること以上に大きな苦しみはないことを知りました。また、正しい態度を維持することによって、耐えるしかほかに方法がない苦難の中からも、自由が得られることを見いだしたのです。

息子から大きな苦痛を受けている友人たちはこのように言います。「わたしたちはかつて経験したことがないほど、多くの時間を聖典と祈りに費やしました。」親は迷い出た子供を助け、改心させるためにもがき苦しむことを通して、霊的にも情緒的にも強くなることがしばしばあります。

多くの両親は、ここで採り上げた人々ほどの耐え難い苦しみを経験することはないかもしれません。けれども、わたし自身が生まれた家族を含めて一部の家族は恐ろしい試練を経験しています。また、これからそのような試練を突きつけられる家族がいることでしょう。罪の意識や絶望感から気持ちがなえることのないようにしてください。霊的な助けと平安を求めてください。気持ちを強くし、また勇気を持ってください。やがてその試練を乗り越えることができます。

1919年の総大会で、当時シオンのデゼレトステーク会長だったアロンズ・A・ヒンクレイは十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老の言葉

を引用して、このように述べています。「わたしはシオンのデゼレトステークの聖徒たちに約束します。彼らが自分の息子娘の顔をまっすぐに見詰めることのできる生活を送っているにもかかわらず、子供たちが迷い出てしまったとしたら、彼らはこう言うでしょう。『わたしはそのような教えや模範を子供たちに示してきたではありません。愛、忍耐、信仰、祈り、そして献身を懸命にささげてきたにもかかわらず、わたしの息子あるいはわたしの娘は迷い出てしまいました。』わたしは父親と母親の皆さんに約束します。彼らは悔い改めの力が及ばない罪を犯したのでなければ、一人として失われることはありません。」(in Conference Report, October 1919, 161)

この助言には乳香と希望があふれています。わたしたちには、タルメージ長老の助言がこの世においてどのように実現されるのか、はっきりとは分からないかもしれませんが、義になう両親と子供たちの関係にはこの世でわたしたちが理解している以上のものがあり、親子の間に起きる問題に対してこの世の論理で説明される以上の助けがあることをわたしたちは理解することができます。わたしたちと子供たちの結び固めを救い、維持しようとしてもがき苦しんでいるわたしたちは、一人でそれを行っているわけではありません。

道から迷い出た子供を持つすべての親が子供を助けるために全力を尽くし、また親として神から任命された使命を果たすわたしたちが、最終的にもたらされる結果に対して明るい希望を持ち続けることができるよう願っています。□

宣教師への パン

マルセリノ・フェルナンデス・レポイヨス・スアレス

絵/タッド・R・ピーターソン

スペインのマドリード、カスティーリャラ・マンチャゾーンでの宣教師大会の前日のことでした。リチャード・H・ウィンケル伝道部長は、妻のウィンケル姉妹、補佐役であるポーチャート長

老、アレン長老とともに、大会の準備に丸1日を費やしました。大会の霊的な雰囲気を損なうことがないように、スケジュール、話者、賛美歌、特別な音楽も含めて、彼らは詳細にわたって注意深く計画を立てました。また大



会の後、宣教師に食事を出すことにしていたので、そのための準備といった生活面での必要にも心を配りました。大会には26人の宣教師が出席する予定になっていました。

大会当日は、たまたまスペインの祝日に当たっていたのですが、すべてが計画どおりに進みました。集会は非常に霊的であり、宣教師の伝道に対する証は強まりました。

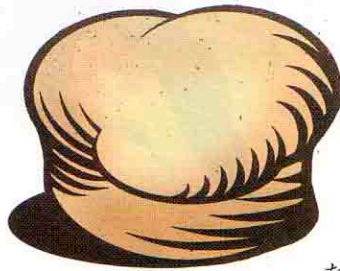
しかし、部長と姉妹が昼食の準備にかかろうとしたとき、あれほど注意深く計画したにもかかわらず、サンドイッチ用のパンを忘れてきてしまったことに気づきました。ウインケル部長は、宣教師たちが空腹のまま大会を後にすることを望みませんでした。そこで彼は二人の補佐役の長老に1枚の5,000ペセタ札を渡し、サンドイッチ用のロールパンを26個買いに行ってもらうことにしました。

ちょうど外に出たとき、ボーチャート長老とアレン長老は路上に100ペセタを見つけました（2年になろうとする二人のスペインでの伝道生活において、このようなことは初めてでした）。落とし主を見つけてお金を返すことなどできるわけもなく、長老たちはそのお金を合わせて合計5,100ペセタを手にし、パンを買いに出かけました。

すぐに二人は、この日が祝日であるために食料品店はどこも休みであると気づきました。そこで街の中心地にたくさんある居酒屋の1軒でパンを分けてもらうことにしました。最初に見かけた居酒屋で26個のロールパンを求めたところ、店主はたった1個のロールパンだけしか売ることができないと言いました。そこで長老たちはそのパンに60ペセタを支払い、残金の5,040ペセタを手にした居酒屋へ向かいました。

2番目に訪れた居酒屋でも最初の居酒屋と同じで、店主はたった1個しかパンを売ることができないと言いました。この店でのパンの値段は50ペセタでした。長老たちは所持金のすべてである5,000ペセタ札1枚と40ペセタをカウンターの上に出しました。けれども店主は5,000ペセタ札に対するお釣りを持ち合わせていなかったため、そのパンを40ペセタで売ってくれました。

5,000ペセタと2個のロールパンを手にし、長老たちは3番



目の居酒屋に入り、24個のパンを求めました。その店でも5,000ペセタ札をカウンターの上に出しました。居酒屋の店主は、売れるパンは1個だけで、その値段は50ペセタだと言いました。けれどお釣りがなかったため、店主はただでそのパンを持って帰らせてくれました。

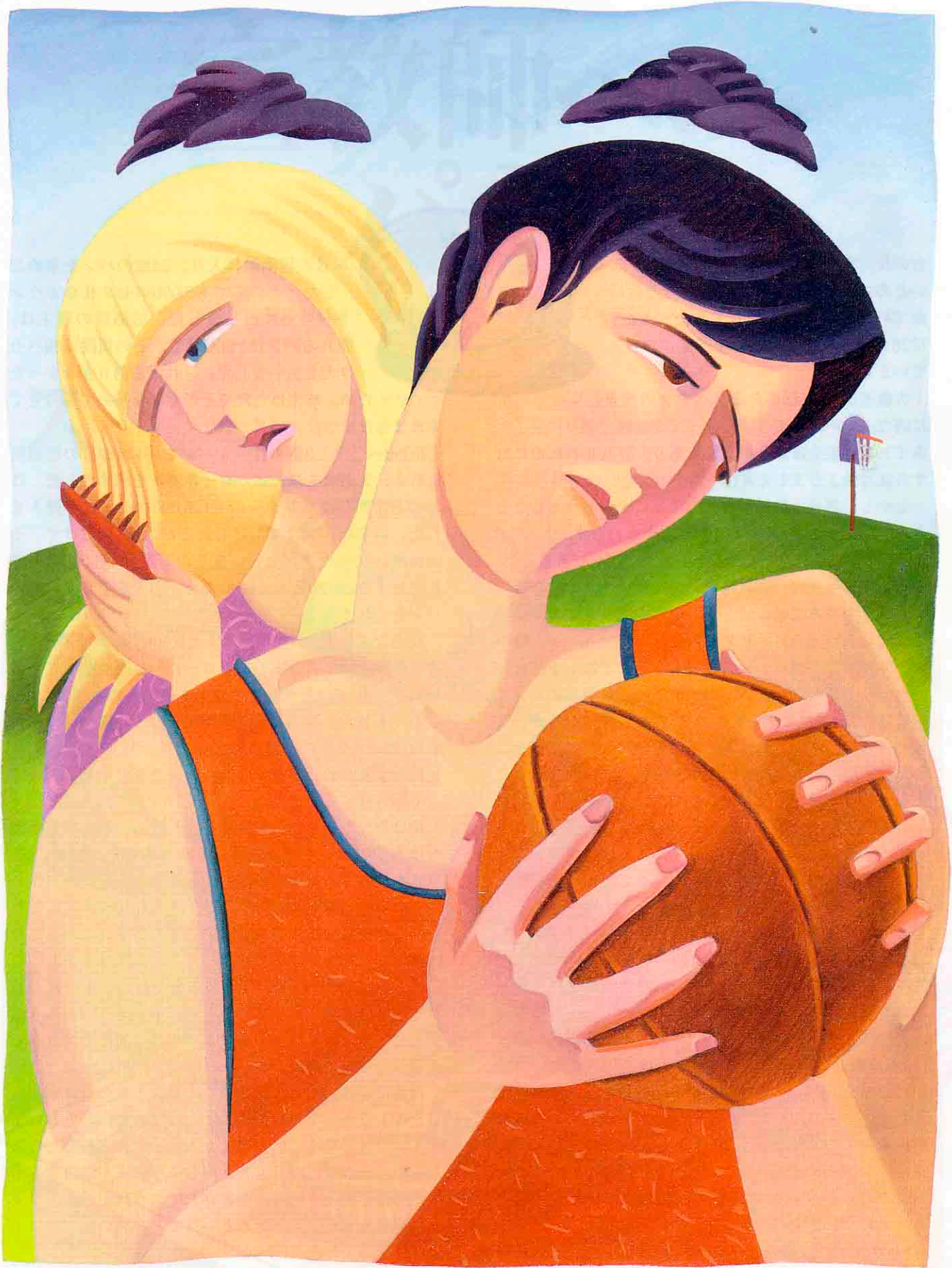
5,000ペセタと3個のロールパンを手にし4番目の居酒屋に行き、長老たちは23個のロールパンを求めました。ここでもまた、カウンターの上に5,000ペセタ札を置きました。店主は、分けてあげられるパンは1個だけで、その値段は50ペセタだと言いました。けれど5,000ペセタ札に対するお釣りがなかったため、お金を取らずにそのパンをくれました。

長老たちは4個のロールパンと5,000ペセタを持って5番目の居酒屋へ入りました。ロールパンを22個下さいと言って、5,000ペセタ札をカウンターの上に置きました。ここでもまた、売ることのできるパンは1個だけでその値段は50ペセタだと言われました。そして5,000ペセタ札に対するお釣りがなかったため、ただでそのパンを持って帰らせてくれました。

後はただただその繰り返し。しばらくして宣教師たちは26個のロールパンと、はじめにもらった5,000ペセタ札を持って、集会所に帰って来ました。

この経験は宣教師たちに、3日間何も食わずに過ごした群衆を空腹のまま帰らせるのをよしとされなかった救い主のことを思い起こさせました。イエスは弟子たちにこのように言われました。「彼らを空腹のまま帰らせたくはない。恐らく途中で弱り切ってしまうであろう。」そしてそのとき救い主の力によって「一同の者は食べて満腹した」のでした。（マタイ15：32—38）

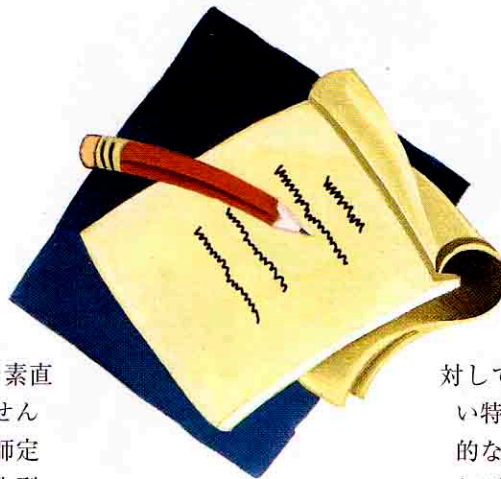
現代に起こったこの出来事を、パンと魚の奇跡を起こした偉大な力に重ね合わせることはできないかもしれませんが、そこに居合わせたスペインの宣教師たちにとって、それは、今日も昔と同じように主が御自身の弟子たちの必要とするものを御存じで、それが手に入るように祝福を与えてくださるということをおぼろげに思い起こすに十分な出来事でした。□



長所のリスト

ジャック・ウェイランド

絵/ティリー・マーシュ



**自分自身を好きになりたいと思いませんか。
ここに、あなたをもっと幸せにする
10の方法があります。**

ダンは、だれかから何か褒め言葉を言われても、それを素直に受け入れることができませんし、受け入れようとしません。教師定員会アドバイザーとの会話はその典型で、次のようなやり取りが交わされます。

「やあ、ダン、来てくれてうれしいよ。ワードのバスケットボールチームには、君の助けが必要なんだ。」

「ほくはバスケットボールは上手じゃないですよ。みんなが何度も電話してくるので来ただけです。」

「それじゃ、ウォーミングアップをして。君のアウトサイドシュートが必要なんだ。」

「アウトサイドシュートはしません。インサイドシュートもしません。」

「そう、……じゃ、ゲームで何をやるんだい？」

「相手チームに、ほくのことをかわいそうなやつだなんて思わせるんです。」ダンは陰気な顔で答えました。

シーズンにも同じような問題があるようです。でも、鏡に向かった彼女の場合はもっと深刻です。

「ああ、わたしってなんて醜いの。髪の毛も嫌い。どうして、もっとやせて、背が高くなれないのかしら。求めすぎかしら。」

あなたにもダンや、シーズンに似たところがありませ

んか。もしもあなたが自分自身に対してとても批判的であれば、また、良い特質ではなく、自分自身について否定的なことをたくさん並べ立てるようであれば、そして、もしもあなたが人からの褒め言葉を素直に受け入れられなければ、あるいは自分には人の役に立てることなど何もないと考えているのなら、この先を読み続けてください。この記事はきっとあなたにとって力になるでしょう。自分を好きになる10のステップが紹介されています。

1. 自分の長所を人に聞いて、リストにする

あなたには、あなたを愛し、あなたの良い点をよく見してくれる両親や祖父母がいます。また、監督やホームティーチャー、若い女性アドバイザー、神権定員会指導者がいます。あるいは、家族や学校の先生、信頼できる友人もいるでしょう。そうした人々からあなたのいい点を聞き、リストにしてください。実際にやってみてください。

なかなか難しいかもしれませんが、からかわれるのではないかと思うからです。でも、こう言ってみてください。『リアホナ』で読んだ記事の内容を実行したいと思って。ほくには（わたしには）助けが必要なんだ。」

なぜ人から自分の長所を聞いて、リストにしななければならないのでしょうか。あなたの母親や父親、そのほか

尊敬する人は、あなたのことをずっと前から知っているからです。みんな、あなたのことを立派だと思っています。たぶん、友達にはあなたのことを自慢していると思いますよ。でも、たとえあなたのことを実に感心な子だと思っけていても、それを直接あなたに言うのを忘れることだってよくあります。長所のリストは、あなたのほんとうの姿を教えてくれるでしょう。

もしかしたらあなたの両親や祖父母は、あなたの中に見つけた長所をもうすでにあなたに話しているのではないのでしょうか。でもあなたは、そんなのはただの思いつきだと思っけて、褒め言葉をまじめに受け入れなかったかもしれません。長所のリストを作れば、そんなあなたの周りの人たちの思いを文書にすることができます。

長所のリストができたら、毎日見る場所にはってください。部屋のドアや、何度も繰り返して開ける引き出しの内側にテープではっておくとよいでしょう。少なくとも1日に1度は読んでください。そして、長所を一つ一つ読みながら、自分にはそのような生き方ができるんだと考えるのです。これは簡単ではありませんが、とにかく実行しましょう。

2. 思いを天の御父の思いに一致させる

あなたの自分自身についてのイメージがもしも否定的なものであれば、それは正しいイメージではありません。考えてみてください。天の御父はあなたについて気高い思いを持っておられます。あなたは神聖な潜在力を持っている天の御父の息子、娘です（教義と聖約132：20参照）。あなたが昇栄することが、天の御父の業であり栄光なのです（モーセ1：39参照）。

天の御父があなたの良い点を見てくださるとすれば、そしてあなたを重んじてくださるとすれば、あなたも自分を価値のある存在だと思っけて当然ではないのでしょうか。天の御父はあなたが喜びを得るように望んでおられます。そして、真の喜びは、あなたが天の御父の息子あるいは娘であること、天の御父があなたのために幸福の計画を定めておられること、またあなたが天の御父の計画どお

りに生活していることを知っけて初めて得られるのです。

では、天の御父があなた自身のためにどのような計画を立ててくださっているかは、どうしたら分かるでしょうか。まず、祈りには力があることを知りましょう。あなたが生まれる前にあなたを知っけておられた御方、あなたが高潔で偉大な者たちの中において、地上に送られる計画に喜びの声を上げたのを見ておられた御方がいらっしゃいます。天の御父はあなたを御存じで、あなたを愛しておられます。あなたがどのように行おうとしているかをその御方に知っけていただくことは、価値のあることではないのでしょうか。これまで受けた数々の祝福

について、天の御父に感謝してください。助けを求めてください。あなたが

人生の中で行おうとしていることについて、天の御父の御心を知るように努めてください。答えに耳を傾けてください。聖文を研究し、また聖文について祈ってください。聖文はすばらしいガイドです。

祝福師の祝福も助けになります。祝福師の祝福はあなたのためにのみ、靈感によって与えられたもので、天の御父があなたの中にあるような力を見ておられるかを知る助けとなります。監督はその特別な祝福を受けるためにどのような備えをしたらいいかを教えてください。受けた後は、定期的に読み返しましょう。そして、自分自身をふさわしく保ち続けてください。そうすれば、前途にすばらしい祝福があることを実感できるでしょう。

3. 奉仕に打ち込む

救い主は次のような的を射た言葉を述べておられます。「自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう。」（マタイ10：39）「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」（マタイ25：40）ベニヤミン王は言っています。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」（モーサヤ2：17）



祈りには力があることを知りましょう。あなたが生まれる前にあなたを知っけておられた御方、あなたが高潔で偉大な者たちの中において、地上に送られる計画に喜びの声を上げたのを見ておられた御方がいらっしゃいます。すばらしい気持ちを感じたければ、ほかの人々に対してキリストがなさったことと同じことを行ってください。

すばらしい気持ちを感じたければ、ほかの人々に対してキリストがなさったことと同じことを行ってください。そうすれば、自分のことは二の次にしてほかの人々のことを考えることができるようになります。それができれば、あなたの人生は満たされたものとなるでしょう。「自分は周りの人々を助ける備えのできた天の御父の僕なのだ」と考えてください。「天の御父は人々を祝福するために何をなさりたいのだろうか」「救い主は何をなさりたいのだろうか」「自分には何ができるだろうか」と考えるのです。

4. 今すぐに悔い改める

義にかなって解決した問題に対していつまでも罪悪感を抱くことは、天の御父の計画にかないません。一度心から悔い改めたら、罪悪感は消え去るはずで、罪悪感は、わたしたちが変わるように促しを与える一時的な感情なのです。

しかし、自分に罪がないかのように装うことはできませんし、罪を自分自身ですべてぬぐい去ることもできません。あなたには何か罪悪感を抱くことはないでしょうか。もしあれば、それが解決されるまで、あなたは自分自身のことを誠実な人間だとは感じられません。大きな過ちについては監督からの助けが必要です(教義と聖約58:42-43参照)。どうすべきか分からないことがあれば、監督に尋ねてください。

主イエス・キリストの贖罪が無限で永遠であるということは、まさに喜びのおとずれです。それはあなたにも適用されます。息子アルマの次の言葉を考えてみてください。

「苦痛に責めさいなまれていたときに、わたしは自分の多くの罪を思い出してひどく苦しみながら、見よ、かつて父がイエス・キリストという御方の来臨について民に預言するのを聞いたことを思い出した。イエス・キリストは神の御子であり、世の罪を贖うために来られるというのである。

心にこの思いがはっきりと浮かんできたとき、わたしは心の中で、『おお、神の御子イエスよ、苦汁の中におり、永遠の死の鎖に縛られているわたしを憐れんでくだ

さい』と叫んだ。

さて見よ、このことを思ったとき、わたしはもはや苦痛を忘れることができた。まことに、わたしは二度と罪を思い出して苦しむことがなくなった。

おお、何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。」(アルマ36:17-20)

サタンはわたしたちに、一度悪いことを行ったらすべては失われ、わたしたちはその罪やもっと重大な罪をさえ犯し続けると、思わせようとします。サタンはわたしたちに、自分自身を責め続けさせ、またわたしたちはもう教会に行くべきではないと思わせ、さらには監督に告白すれば事態が深刻になるだけで、何の助けにもならないと考えさせようとします。

しかし、これはどれも正しくありません。あなたは新たな生活を始めることができます。教会に行くことは大切です。両親や家族があなたの成長にかかわりを持てば、理解は深まります。監督は、あなたが救い主の贖罪から祝福を受けることができるように助ける人なのです。一度監督

に会えば、あなたは自分のことが好きになります。どうしてでしょうか。あなたがこれまで負っていた重荷の一部を、監督が降ろしてくれるからです。もっと大切なこととして、監督はあなたが悔い改めの計画を立てるのを手伝ってくれるでしょう。恐らく監督はあなたに、聖文にある幾つかの聖句を読み、祈るように、また定期的に監督から確認を受けるように言うことでしょう。

とりわけ、監督は、あなたが救い主に近づき、聖霊の勧めを求めるとを助けてくれます。あなたが新しい人になれると確信できるように助けてくれます。監督はあなたを信頼し続け、あなたの友人でいてくれます。監督から言われたことを行えば、希望と、救い主の愛への感謝の念に満たされて前進し続けることができます。救い主が赦しを得られるようにして下さるからです。



**自分自身の長所を
事実として受け入れるようにしましょう。創造物の美しさを楽しむようにしてください。主はあなたを幸せにするためにそれらのものを創造してくださいました。**

5. 肯定的に物事を見る

「わたしは正しいことを何もしていない」と考えて生涯を送ると、自分のそばに刑務所を築いてしまうことになります。そうではなく、肯定的に振る舞ってください。数学の試験がよくできなかったとしましょう。「数学は得意じゃない」と言う代わりに、このように言います。「あの日、あの試験では、期待したようにはいかなかった」と。

マーティン・E・P・セリグマンが「学習楽天主義 (Learned Optimism)」と名付けたこのアプローチは、自尊心が傷つくのを少なくします。競技で成果を上げられなかった世界レベルのスポーツ選手の話聞いてください。次のような言葉を耳にするでしょう。「今日はタイミングが合わなかった。でも、明日はもっとよくやれるさ。」チャンピオンは、将来の成功のためにドアを開け放っておくものです。

肯定的になったら、素直になります。あなたが時間どおりであったことをある人から告げられたら、「ええ、時間を守りたいので」と言ってください。ある人から褒め言葉を受けたら、それを打ち消そうとしないで、ただ一言、「ありがとう」と言います。

6. 物事を楽しく話す

あなたのそばに批判しかしない人はいませんか。自分には関係のないことを人からとやかく言われて、嫌な気持ちになったことはありませんか。あなた自身の言葉で人を不快にさせないようにしましょう。できるときはいつでも、心からの賛辞を述べてください。そうすれば、あなたはもっと幸せになりますし、相手も幸せになります。ほかの人々を批判することにエネルギーを費やしていたら、自尊心を築くことはできません。

人生は、人が何を着ているか、あるいはどのように見ているかによらないのです。あなたの学校の一人一人、あなたの家族の一人一人が、わたしたちの天の御父の大切な子供なのです。天の御父は、体の大きさ、体形、民族的背景、能力に大きな違いのある存在としてわたしたちを造られました。それでもなお、天の御父はわたしたち全員を愛してくださっています。なのに、わたしたちは皆、同じことをしなければならないのでしょうか。

7. 創造物をたたえる

わたしたちは皆、時々、気持ちの沈むことがあります。しかし、救い主が言われた言葉に耳を傾けてください。

「まことに、季節に応じて地から生じるすべてのものは、人の益と利用のため、目を楽しませ、心を喜ばせるために造られている。

まことに、食物のため、また衣服のため、味のため、また香りのため、体を強くするため、また霊を活気づけるために造られている。

神はこれらのものをすべて人に与えたことを喜んでいる。この目的のためにこれらのものは……造られたからである。」(教義と聖約59:18-20)

心を喜ばせたいと思ったら、木や花のある所を散歩してください。オレンジの皮をむき、その味はもとより香りも楽しんでください。空に浮かんでいる雲を見てください。主の創造物の中に喜びを見つけてください。

8. 救い主の勝利を喜ぶ

主イエス・キリストの贖罪があなたに数々の大きな祝福をもたらしていることを思い起こしてください。救い主は言われました。「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ16:33) 救い主のおかげで、あなたも世に勝つことができます。

9. 預言者に従う

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、今日の若人が強いことについて、しばしば感謝を述べています。大管長としての最初の記者会見で、大管長はこのように述べました。「わたしたちは教会の若人に特に誇りを感じています。現在のように力に満ちた若い男性、若い女性の世代はかつてなかったように思います。……彼らは知的にも霊的にも力を蓄え、建設的な生活を築いています。わたしたちはこの御業の将来に対して、何の恐れも不安も抱いていません。」(ジェフリー・R・ホランドによる引用。「ゴードン・B・ヒンクレー大管長——信念と勇気の人」『聖徒の道』1995年6月号、ゴードン・B・ヒンクレー大管長特別記事、4)

10. 天の御父の導きを求めて生活する

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老は若いころ、バスケットボールのスター選手になりたいと思っていました。彼は友人たちの中で最も優秀なバスケットボール選手でした。実際、友人の一人にプレーの仕方を教えたほどです。その友人はとて背が高くなりましたが、彼はさほど伸びませんでした。そして、その友人はチームのレギュラーとして活躍しましたが、彼はレ

ギュラーに選ばれませんでした。それはマックスウェル長老の青年時代の最もつらい経験の一つとなりました。

マックスウェル長老は、スポーツ界のヒーローとしての成功を得られなかったため、言葉に関心を持つようになりました。彼が個人として経験したその挫折が、多くの聖徒にとって永遠の祝福に変わり、聖徒たちは彼の知恵、霊性、洞察から学ぶことができます。

マックスウェル長老の人生をあなたの模範としてください。あなたの祈りのすべてがあなたの望んでいる方法でかなえられるわけではありません。しかし、天の御父を信頼していれば、天の御父はその信頼に背くことはなさいません。

あなたの人生に天の御父の力をもたらす一つのすばらしい方法は、神殿に参入するように自分自身を備えることです。神殿では、天の御父の永遠の計画におけるあなたの役割をもっとよく理解することができます。あなたは苦しいときに神殿で助けを受けることができますでしょう。またほかの人々の人生に祝福をもたらす方法も知るようになるでしょう。こうした将来の出来事に対して、今、備えてください。

新たな物の見方

もう一度、ダンを見てみましょう。今度は、彼の人生にもっと明るい光があります。

「やあ、ダン、来てくれてうれしいよ。ワードのバスケットボールチームには、君の助けが必要なんだ。」

「ここに来ることができてうれしいです。」

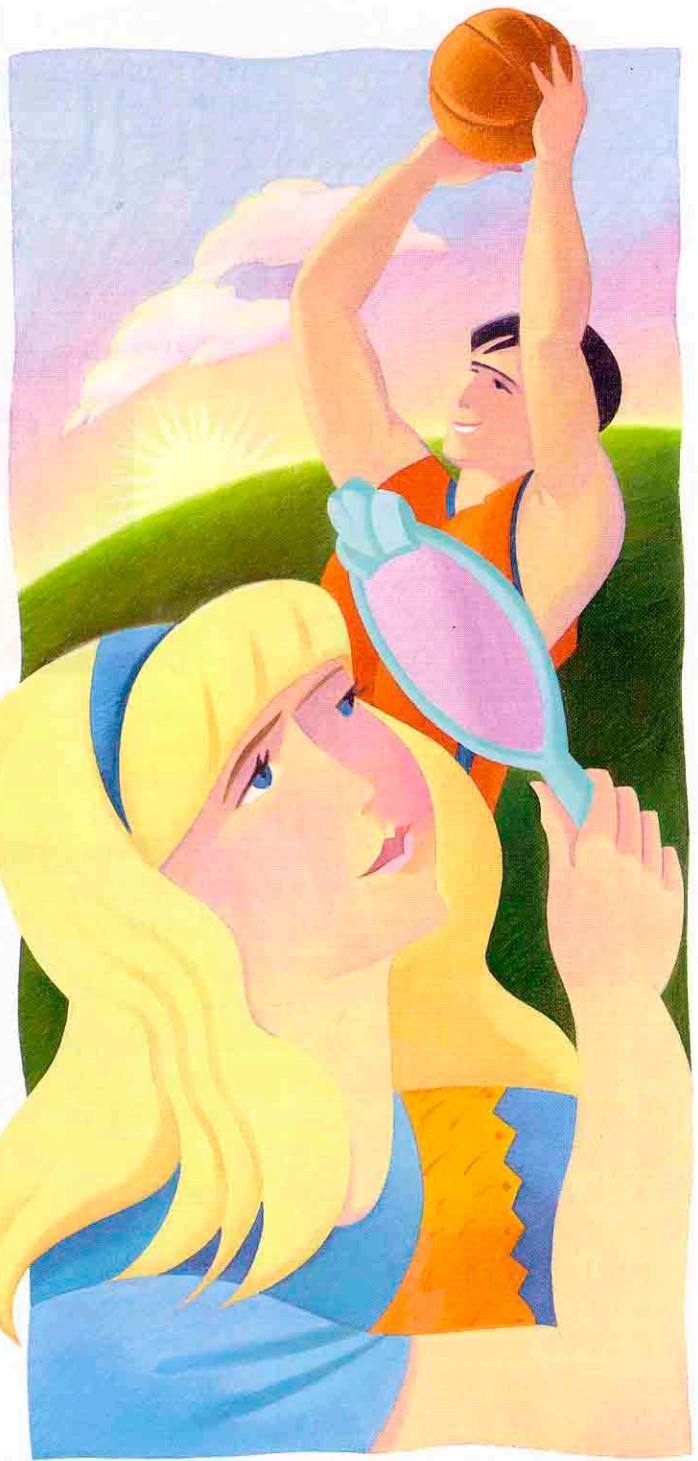
「それじゃあ、ウォーミングアップをして。君のアウトサイドシュートが必要なんだ。」

「はい、スティーブとのコンビでうまくいくと思いますよ。彼はパスがうまいので、ほくといいコンビが組めます。相手のチームにちょっと申し訳ないなあ。」

スーザンも鏡の前に戻りますが、前とは違います。

「あら、ママがくれたリボン、わたしの髪によく似合うわ。ジェニファーも欲しがるか。先週着ていたブラウスにとても合うわ。あら、時間だわ。急がないと。今晚のミュージカルのために、わたしの得意なクッキーを作るって約束してたんだ。」

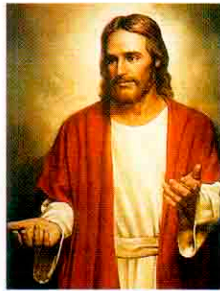
このように、ほんの少し心の姿勢を変えることによって、非常に大きな変化の始まることがよくあります。ここに挙げた10の提案が、自分を好きになるための行動のきっかけになればと願っています。自分自身に対してもほかの人々に対しても肯定的な態度を執ることを心がけましょう。そうすれば、「自分には救い主の弟子になる力がない」なんて思わなくなります。□



このように、ほんの少し心の姿勢を変えることによって、非常に大きな変化の始まることがよくあります。神殿に参入するように自分自身を備えることです。神殿では、天の御父の永遠の計画におけるあなたの役割をもっとよく理解することができます。

主の御手の中で

クリストファー・スウィンソン



ぼくは生まれつきの小人です。今は予想されていた成人後の身長よりも高く、114センチありますが、それでもまだ小人です。ぼくは小人として生き、そして小人として死ぬのです。

でも、秘密を教えてくださいませんか。少なくとも75パーセントの時間、ぼくは自分が人と違っているとは思っていません。みんなと同じだと思っています。それは、ぼくがすばらしいワードやステーキにいるからだけではなく、神の子として立派な人生を送りたいと努力していて、天のお父様が愛にあふれた家族と良き友人たちと、強い信仰を与えてくださっているからです。

去年、ぼくは主治医のもとに行きました。右腰の大手術をする予定だったからです。手術をすれば何か月も全身にギブスを付けなければなくなる可能性があり、もしかすると高校の最後の年に学校に通えなくなることも考えられました。このことは1年前の検査で右腰の状態が良くないと言われて以来、分かっていたことでした。

父とぼくが検査室に入ると、主治医がX線写真を光にかざしました。写真を見て、ぼくの腰を調べ、また写真を見てから、彼はちょっと驚いた様子で、ぼくの右腰にはまったく異常がなく、予定していた大手術の必要はまったくないと言ったのです。足を少し治療する必要がある以外は、ぼくはすばらしく健康で、もう手術は必要ないだろうとのことでした。

すでに大きな手術を8回と小さな手術を数回経験したぼくにとっては、それは驚くべきニュースでした。

検査前に家族をはじめ多くの人が祈ってくれ、多くの愛する友人たちも断食し、祈ってくれたのはとても大きな助けでした。

そのおかげで、ぼくの腰は癒いされました。ぼくの経験は、天のお父様にしかできないことだと知っています。ぼくは自分が奇跡によって癒されたことを知っています。

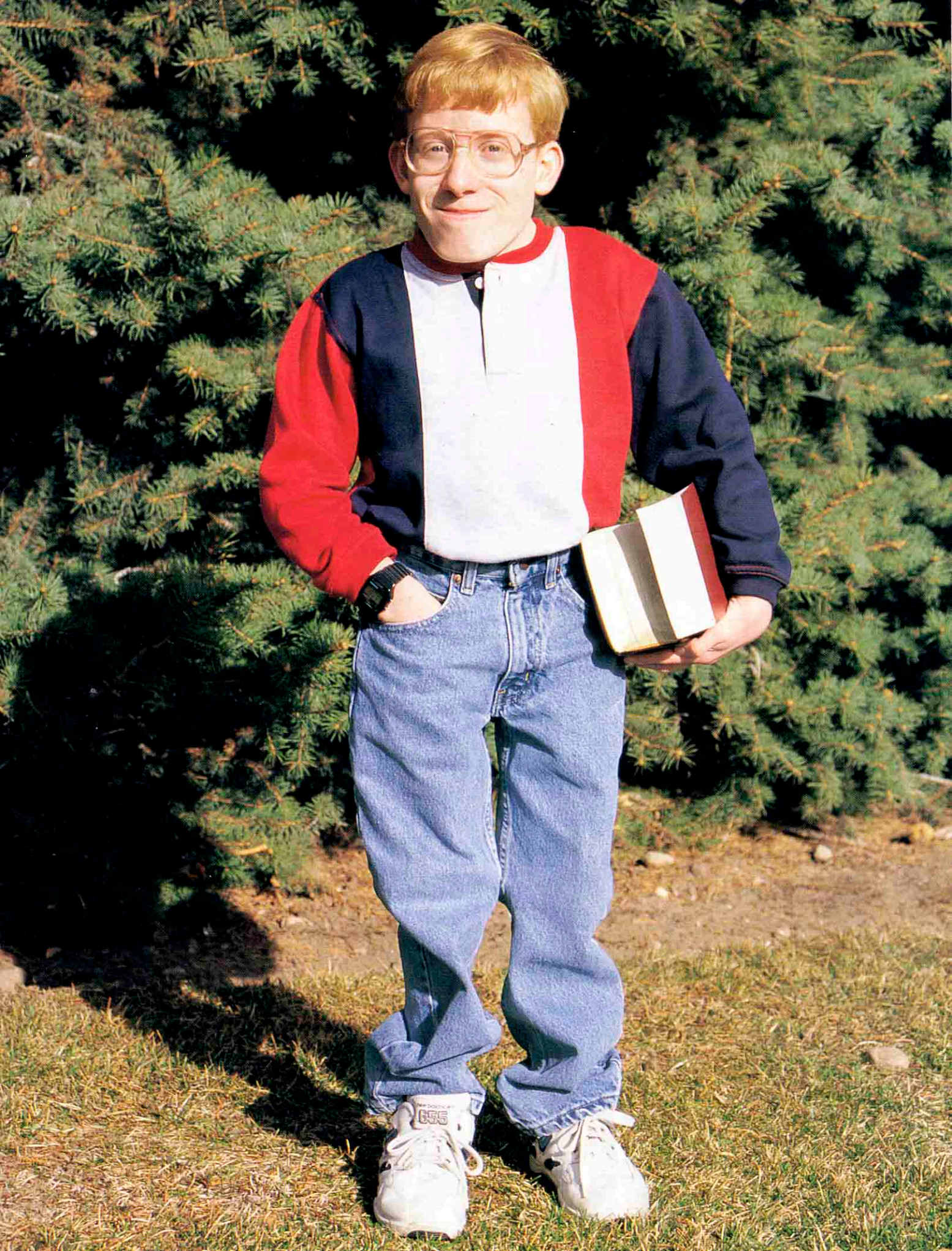
す。しかし、いつも奇跡が必要なわけではありません。重荷が軽くないときでも、ぼくたちがそれにどう対処するかに、もっと大きな奇跡が隠されていることもあるのです。

ぼくは自分の状況のおかげで、さらに神に近づくことができました。手術やそれに続く回復という現実にも直面する中で、ぼくは熱心に、真心から祈ることを学びました。それは天のお父様がまさに望んでおられるような祈りでした。繰り返される手術や肉体的な限界があることで体を使った多くの活動ができませんでしたが、もしそれがなかったら、聖文勉強はそっちのけでスポーツに熱中してしまっただろうと思います。

毎日が試練の連続ですが、ぼくにとって人生は祝福です。ぼくの経験は天のお父様がどのようにぼくたちの人生に影響を与えてくださるかを示す一つの例にすぎません。お父様がぼくたちのために何をしてくださるかがエレミヤ書第18章6節に書かれています。「主は仰せられる、イスラエルの家よ、この陶器師がしたように、わたしもあなたがたにできないのだろうか。イスラエルの家よ、陶器師の手に粘土があるように、あなたがたはわたしの手のうちにある。」

天のお父様はサタンのようにわたしたちを壊そうとはしておられません。わたしたちを御自分のような日の榮えに属する者に作ろうとしておられるのです。決して誤って、お父様を敵のように思っはけません。お父様はぼくたちが理解する以上にぼくたちを愛してくださっているのです。

試練に遭うとき、苦々しい思いを抱くこともできますし、より善い人間になることもできます。人生がどんなに難しく思え、やりにくいと感じたとしても、お父様はぼくたちの受けている試練や、その試練を勝利に変える方法も御存じなのです。□



友情を築く

マリッサ・D・トンソン

写真/スティーブ・バンダーソン

皆さんは御存じでしょうか。救い主は御自身の命をささげられたときに、わたしたちを「友」と呼ばれました(ヨハネ15:13-14参照)。

わたしたちは皆が皆血縁で結ばれた兄弟姉妹、いとこ、おじ、おばになることはできません。しかし友達になるのは、だれにでもできることです。友達を得るには、自分自身から友達にならなければなりません。そのための最も良い方法は、どのようなものでしょうか。以下の提案の幾つかを試してみてください。

- 相手の話によく耳を傾けましょう。
- 友人と話すときに、ほかの人々についてのうわさ話をしないようにしましょう。それによって友人は、あなたが友達のうわさを言いふらすような人間でないことを知ることができます。
- 友人の誕生日には、何か特別なことをしてあげましょう。
- 生まれた所、したいと思っていること、好きな食べ物など、友人のことを知るようにしましょう。
- 家の中の様々な仕事、宿題、きょうだいの世話といったことについて、助けたいと

いう気持ちを友人に申し出ましょう。このような仕事は、友人と一緒にすることによって、より楽しくできます。

- 友人が病気のときには、お見舞いをしたり、手紙を送ったりして、心にかけていることを知らせましょう。
- 様々な活動の計画について、自分から率先して助力を申し出ましょう。
- 友人が出る競技会や公演などの大切な行事を覚えておき、自分もそれを見に行ったり、励ましの言葉を伝えたりしましょう。
- 人と話すときは友人を大いに褒めましょう。
- 自分中心の話ばかりをしないように注意しましょう。
- 友達の抱えている問題について思いやりを示しましょう。
- 友人の行動や言動で感情を害された場合は、そのことについて自分の気持ちを偽らず、また穏やかな態度で話をしましょう。相手もあなたの誠実さに心を動かされることでしょう。
- すぐに感情的にならないようにしましょう。
- 様々な事柄に対して関心を持ち、

様々なタイプの友人を持つようにしましょう。関心事についても友人についても、偏った選択をしている人々が時折見受けられます。

●友人同士の間で競走意識を持つのは、ごく普通のことです。ただし、その意識も軽いものであるうちは健全と言えますが、行き過ぎると友情が壊れてしまう危険性があります。すべてのことにおいて友達に負けないようにしなければならない、というような考えにとらわれることがないように注意してください。

●友達が何を知り、何を持っているかという基準ではなく、どのような人物かという基準で愛しましょう。

●友人のプライバシーと自分に対する信頼の気持ちを大切にしましょう。打ち明けられた秘密は、人に話さないでください。

●心からの称賛の言葉を惜しみなく与えましょう。

●自分自身がさらに良い友人になれるように祈りましょう。

●友人たちに、あなたとの友情を天の御父に感謝する気持ちを、起こさせるような生活をしましょう。□





「教師たちの真ん中にお座りになるキリスト」 ジェームズ・ジャクセス・ジョセフ・ティソ画（1840-1920年）
マリヤとヨセフは、イエスがエルサレム滞在中に迷子になったものと心配し、探しに引き返した。そして3日後、イエスが神殿におられるのを見つけた。
教師たちはイエスの話を聞いたり、またイエスに質問したりしていた。聞く人々は皆、イエスの賢さに驚嘆していた
(ジョセフ・スミス訳ルカ2：46-47参照)。



コートジボアールにおける教会の開拓者の会員たちの物語は、犠牲と忍耐の物語です。そして、最も重要なことは、それがイエス・キリストを信じる信仰の物語だということです（本誌「コートジボアールの開拓者たち」16ページ参照）。



神殿に関する最新情報 さらなる小規模神殿建設, 発表される



上記の建築完成予想図には、新しい標準に基づく次世代小規模神殿、すなわち、それぞれが40人の収容力を持つ2つのエンダウメントの部屋を有する神殿の外観が描かれている。一方、アラスカ州アンカレッジ、メキシコのコロニア・フアレス、ユタ州モンティセロにある最初の3つの小規模神殿には、50人まで収容できるエンダウメントの部屋が一つある。

大 管長会は、さらに5つの小規模神殿が建設される計画であることを発表した。新しい神殿はルイジアナ州バトンルーージュ、オーストラリアのメルボルン、メキシコのユカタン州メリダ、ウルグアイのモンテビデオ、メキシコのタバスコ州ビヤエルモサーに建設される。

1998年11月13日現在、建設発表後まだ着工していない神殿が25、すでに^{くわい}鉄入れ式の挙行された神殿が20、そして儀式が執行されている神殿が53となり、将来的に世界中に合計98の神殿が存在することになる。□

宣教師, ロシアで殺害される

口 シアのイエタケリンバーグ伝道部で働く二人の宣教師が、1998年10月17日、ウファのアパートの外で、酒に酔った人物から無差別攻撃を受け、刃物で刺された。ネバダ州ヒコ出身のホセ・マニエル・マッキントッシュ長老は、重傷を負って亡くなり、アリゾナ州メサ出身のブラッドリー・アラン・ボーデン長老は入院したが、完全に快復する見込みである。マッキントッシュ長老の家族と面会の後、十二使徒定員

会のジェフリー・R・ホランド長老は次のように述べた。「わたしはご家族の信仰と^{ゆる}救済の精神、そして伝道活動を今後も続けようとの熱意に深い感銘を受けました。」ホランド長老はさらにこう語った。「このような事件があったからといって、ほかの宣教師も危険にさらされるというわけではありません。わたしたちはこれからも祈りをささげ、力を取り戻します。胸を張り、たゆまず世に福音を伝えていきます。」□

ハリケーン・ミッチ、中央アメリカを襲う

1998年10月末から11月初めにかけて、中央アメリカを襲ったハリケーン・ミッチは、雨による洪水と土石流が被害をいっそうひどくしたため、この地域における20世紀最悪の自然災害となった。おもにホンジュラスとニカラグアで続出した死者は1万人以上、行方不明者は数千人に及ぶと見積もられている。

驚くべきことであるが、ホンジュラスに住む9万人の会員、またニカラグアに住む2万8,000人の会員のうち、亡くなったのは一人だけと伝えられている。しかしながら、災害後間もなく地元の教会役員により提出された緊急事態現状報告によると、何千人もの会員が被害に遭ったとのことである。

ホンジュラスでは、3,227人の会員が避難し、640人の会員が負傷、あるいは病气と報告され、1,413人の会員の家屋が一時的に居住不可、429人の会員の家屋が完全に居住不可、17の教会堂が損傷した。交通輸送の問題と作物の被害により、8,000人近い会員が、食物、衣類、医薬品の援助を必要としている。



ホンジュラスで、ハリケーンの被災者に配布するため大豆の袋を荷下ろしする会員たち。
写真/サロモン・ジャーの厚意により掲載。



ハリケーンによって引き起こされた洪水に見舞われたホンジュラスのラ・リマ。
写真/サロモン・ジャーの厚意により掲載。

ニカラグアでは、580人の会員が避難し、40人の会員が負傷、あるいは病气と報告され、122人の会員の家屋が一時的に居住不可、27人の会員の家屋が完全に居住不可、1つの教会堂が損傷した。3,000人近い会員が、食物、衣類、医薬品の援助を必要としている。災害の影響は、グアテマラ、ベリーズ、エルサルバドルの会員にも及んでいる。およそ4,500人が教会の建物に避難し、安全

を確保し、指導者から世話を受けている、と地域幹部七十人のサロモン・ジャー長老は報告している。「わたしたちは、この困難な時期にわたしたちを見守り、思いやってくださる神と教会に対し深い感謝の念を抱いています。わたしたちは神権が働き、援助を求める末日聖徒とほかの人々を見守るのを目の当たりにしました。」

教会は資金と物資の両面でかなりの援助を提供した。資金は地元で物資を調達するために用いられ、合衆国空軍やその他の組織の援助により薬品、衣類、米、大豆、粉ミルク、石けん、ビニールシート、毛布、敷きベッドなど教会から寄付された莫大なキロ数の緊急物資が輸送された。救援運動の調整は、地元のステーク会長、監督、支部長が行った。□

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1999年3月

以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』1999年3月号に掲載されている「分かち合いの時間」の記事とともに使用できる、「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は、「フレンド」の6-7ページ「イエス・キリストは、道をしめしておられる」を参照する。

1. イエスが地上におられたときに行われた中で最も重要な事柄の一つは、御自身の教会を組織されることだった。イエスは使徒を召して、御自分の特別な証人、使者とされた（マタイ4:18-23；マルコ3:14-19参照）。紙に最初の使徒たちの名前を一つずつ書き、子供たちに紙を持ってみんなの前に立たせ、教師はそれぞれの使徒について話す。例——シモン・ペテロ、アンドレ、ヤコブ、ヨハネは皆漁師だった。マタイは取税人だった。ペテロとアンドレ、またヤコブ（ゼベダイの子）とヨハネはそれぞれ兄弟だった。イエス・キリストの真実の教会には、イエスが地上におられたときに組織された教会と同じように使徒がいることを子供たちに理解させる。現在の十二使徒の写真を見せる。使徒の中の一人あるいは数人について話をする（ラッセル・M・ネルソン長老『リアホナ』1999年2月号、フレンド2-3；ダリン・H・オークス長老『聖徒の道』1998年5月号、こどものページ2-3；ヘンリー・B・アイリング長老『聖徒の道』1998年2月号、こどものページ2-3参照）。わたしたちは彼らを預言者、聖見者、啓示者として支持している。「感謝を神に捧げん」（『賛美歌』11番）を歌う。

2. イエスはこの地上におられた間は周囲の人々に福音を教え、復活されてからはニューファイの民に福音を教えられた。信仰箇条第3節を読み、だれか

後に続いて言わせる。そして、福音の第一の原則と儀式とは何か尋ねる。信仰箇条第4節を読み、一つのクラスに続いて言わせる。全員に第三ニューファイ第27章20節から22節を開けて一緒に読むように言う。以下の質問をする。「ここには第一の原則が書かれていますか。」「この聖句では主を信じる信仰についてどのように書かれていますか。」（イエスのもとに来るとは、イエスを信じ、信頼し、イエスに信仰を持つこと）「わたしたちがイエス・キリストに信仰を持っているなら、どうすべきでしょうか。」（イエスがされるのを見た行いをわたしたちも行う）子供たちを幾つかの小さなグループに分ける。救い主の生涯が描かれた絵をそれぞれのグループに1枚ずつ配る（以下の例を参照）。それぞれのグループに配られた絵についての物語をどのように話すかを決めさせ、絵に関係のあることで今のわたしたちが救い主の模範にどのように従えるかを話させる。例——神殿の中のイエス（聖文を研究し、教義を学ぶ）；イエスのバプテスマ（ふさわしい権能によって水に沈めるバプテスマを受ける）；山上の垂訓（福音を分かち合う、悔い改める、より善い人になる）；盲人を癒されるイエス（祈る、神権の祝福を求め、人々の幸せを考える）；良い羊飼（人々、特に困っている人々に手を差し伸べる）；放蕩息子（わたしたちに悪いことをした人を赦す）；良きサマリヤ人（人々を助ける、だれに対しても隣人として接する）；祈りをささげられる救い主（自分たちのため、家族のため、人々のために祈る）「福音の教えよく守りましょう」（『子供の歌集』72）を歌う。

3. キリストの生涯の絵を幾つか選ぶ。それぞれの絵に関連する歌を『賛美歌』、あるいは『子供の歌集』から2、3曲選んで絵の裏に書いておく（例を

参照）。それぞれのクラスに絵を1枚ずつ配り、裏に書かれた曲の中から1曲選ばせ練習させる。キリストの生涯に起こった出来事の順番に合わせて、それぞれのクラスに立って絵を見せながら歌わせる。それぞれの歌が終わるごとに、その絵に書かれた出来事に関する歌でみんなで歌えるものをほかに知っているかどうか全員に尋ねる。だれも答えない場合は、その絵を持っているクラスの子供に1曲挙げさせる。例——誕生（「ねどこもなくして」『子供の歌集』26-27；「聖し、この夜」『賛美歌』118番）；バプテスマ（「こはわがあいし」『聖徒の道』1997年12月号、こどものページ4；「バプテスマを受ける時」『聖徒の道』1997年9月号、こどものページ5）；子供たちを祝福されるイエス（「イエス様は友達」『子供の歌集』37；「『モルモン書』の物語」『子供の歌集』62-63、8節）；人々に教えるイエス（「イエス様の話聞かせて」『子供の歌集』36；「友達」『子供の歌集』78-79；『聖徒の道』1996年6月号、こどものページ4-5）；最後の晩餐（「救い主の愛」『子供の歌集』42-43；『聖徒の道』1994年3月号、こどものページ6-7；「共に愛し合え」『子供の歌集』74）；復活と再臨（「主の来られる時」『子供の歌集』46-47；「光かがやく春の日に」『子供の歌集』57、2節；『聖徒の道』1995年4月号、こどものページ13）

4. このほかにイエス・キリストの生涯と教えに関する記事については、「イエス様が望んでおられること」『聖徒の道』1998年11月号、こどものページ14-16；「大きな喜び」『聖徒の道』1997年12月号、こどものページ2-3；「イエスさまについてどんなことを知っていますか」『聖徒の道』1998年3月号、こどものページ、10-11を参照する。□

ハリケーン・ミッチ、中央アメリカを襲う

1998年10月末から11月初めにかけて、中央アメリカを襲ったハリケーン・ミッチは、雨による洪水と土石流が被害をいっそうひどくしたため、この地域における20世紀最悪の自然災害となった。おもにホンジュラスとニカラグアで続出した死者は1万人以上、行方不明者は数千人に及ぶと見積もられている。

驚くべきことであるが、ホンジュラスに住む9万人の会員、またニカラグアに住む2万8,000人の会員のうち、亡くなったのは一人だけと伝えられている。しかしながら、災害後間もなく地元の教会役員により提出された緊急事態現状報告によると、何千人もの会員が被害に遭ったとのことである。

ホンジュラスでは、3,227人の会員が避難し、640人の会員が負傷、あるいは病気と報告され、1,413人の会員の家屋が一時的に居住不可、429人の会員の家屋が完全に居住不可、17の教会堂が損傷した。交通輸送の問題と作物の被害により、8,000人近い会員が、食物、衣類、医薬品の援助を必要としている。



ホンジュラスで、ハリケーンの被災者に配布するため大豆の袋を荷下ろしする会員たち。
写真/サロモン・ジャーの厚意により掲載。



ハリケーンによって引き起こされた洪水に見舞われたホンジュラスのラ・リマ。
写真/サロモン・ジャーの厚意により掲載。

ニカラグアでは、580人の会員が避難し、40人の会員が負傷、あるいは病気と報告され、122人の会員の家屋が一時的に居住不可、27人の会員の家屋が完全に居住不可、1つの教会堂が損傷した。3,000人近い会員が、食物、衣類、医薬品の援助を必要としている。災害の影響は、グアテマラ、ベリーズ、エルサルバドルの会員にも及んでいる。およそ4,500人が教会の建物に避難し、安全

を確保し、指導者から世話を受けている、と地域幹部七十人のサロモン・ジャー長老は報告している。「わたしたちは、この困難な時期にわたしたちを見守り、思いやってくださる神と教会に対し深い感謝の念を抱いています。わたしたちは神権が働き、援助を求める末日聖徒とほかの人々を見守るのを目の当たりにしました。」

教会は資金と物資の両面でかなりの援助を提供した。資金は地元で物資を調達するために用いられ、合衆国空軍やその他の組織の援助により薬品、衣類、米、大豆、粉ミルク、石けん、ビニールシート、毛布、敷きベッドなど教会から寄付された莫大なキロ数の緊急物資が輸送された。救援運動の調整は、地元のステーキ会長、監督、支部長が行った。□

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1999年3月

以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』1999年3月号に掲載されている「分かち合いの時間」の記事とともに使用できる、「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は、「フレンド」の6-7ページ「イエス・キリストは、道をしめしておられる」を参照する。

1. イエスが地上におられたときに行われた中で最も重要な事柄の一つは、御自身の教会を組織されることだった。イエスは使徒を召して、御自分の特別な証人、使者とされた（マタイ4:18-23；マルコ3:14-19参照）。紙に最初の使徒たちの名前を一つずつ書き、子供たちに紙を持ってみんなの前に立たせ、教師はそれぞれの使徒について話す。例——シモン・ペテロ、アンドレ、ヤコブ、ヨハネは皆漁師だった。マタイは取税人だった。ペテロとアンドレ、またヤコブ（ゼベダイの子）とヨハネはそれぞれ兄弟だった。イエス・キリストの真実の教会には、イエスが地上におられたときに組織された教会と同じように使徒がいることを子供たちに理解させる。現在の十二使徒の写真を見せる。使徒の中の一人あるいは数人について話をする（ラッセル・M・ネルソン長老『リアホナ』1999年2月号、フレンド2-3；ダリン・H・オークス長老『聖徒の道』1998年5月号、こどものページ2-3；ヘンリー・B・アイリング長老『聖徒の道』1998年2月号、こどものページ2-3参照）。わたしたちは彼らを預言者、聖見者、啓示者として支持している。「感謝を神に捧げん」（『賛美歌』11番）を歌う。

2. イエスはこの地上におられた間は周囲の人々に福音を教え、復活されてからはニーフアの民に福音を教えられた。信仰箇条第3節を読み、だれか

に後に続いて言わせる。そして、福音の第一の原則と儀式とは何か尋ねる。信仰箇条第4節を読み、一つのクラスに続いて言わせる。全員に第三ニーフアイ第27章20節から22節を開けて一緒に読むように言う。以下の質問をする。「ここには第一の原則が書かれていますか。」「この聖句では主を信じる信仰についてどのように書かれていますか。」（イエスのもとに来るとは、イエスを信じ、信頼し、イエスに信仰を持つこと）「わたしたちがイエス・キリストに信仰を持っているなら、どうすべきでしょうか。」（イエスがされるのを見た行いをわたしたちも行う）子供たちを幾つかの小さなグループに分ける。救い主の生涯が描かれた絵をそれぞれのグループに1枚ずつ配る（以下の例を参照）。それぞれのグループに配られた絵についての物語をどのように話すかを決めさせ、絵に関係のあることで今のわたしたちが救い主の模範にどのように従えるかを話させる。例——神殿の中のイエス（聖文を研究し、教義を学ぶ）；イエスのバプテスマ（ふさわしい権能によって水に沈めるバプテスマを受ける）；山上の垂訓（福音を分かち合う、悔い改める、より善い人になる）；盲人を癒されるイエス（祈る、神権の祝福を求める、人々の幸せを考える）；良い羊飼（人々、特に困っている人々に手を差し伸べる）；放蕩息子（わたしたちに悪いことをした人を救す）；良きサマリヤ人（人々を助ける、だれに対しても隣人として接する）；祈りをささげられる救い主（自分たちのため、家族のため、人々のために祈る）「福音の教えよく守りましょう」（『子供の歌集』72）を歌う。

3. キリストの生涯の絵を幾つか選ぶ。それぞれの絵に関連する歌を『賛美歌』、あるいは『子供の歌集』から2、3曲選んで絵の裏に書いておく（例を

参照）。それぞれのクラスに絵を1枚ずつ配り、裏に書かれた曲の中から1曲選ばせ練習させる。キリストの生涯に起こった出来事の順番に合わせて、それぞれのクラスに立って絵を見せながら歌わせる。それぞれの歌が終わるごとに、その絵に書かれた出来事に関する歌でみんなで歌えるものをほかに知っているかどうか全員に尋ねる。だれも答えない場合は、その絵を持っているクラスの子供に1曲挙げさせる。例——誕生（「ねどこもなくて」『子供の歌集』26-27；「聖し、この夜」『賛美歌』118番）；バプテスマ（「こはわがあいし」『聖徒の道』1997年12月号、こどものページ4；「バプテスマを受ける時」『聖徒の道』1997年9月号、こどものページ5）；子供たちを祝福されるイエス（「イエス様は友達」『子供の歌集』37；「『モルモン書』の物語」『子供の歌集』62-63、8節）；人々に教えるイエス（「イエス様の話聞かせて」『子供の歌集』36；「友達」『子供の歌集』78-79；『聖徒の道』1996年6月号、こどものページ4-5）；最後の晩餐（「救い主の愛」『子供の歌集』42-43；『聖徒の道』1994年3月号、こどものページ6-7；「共に愛し合え」『子供の歌集』74）；復活と再臨（「主の来られる時」『子供の歌集』46-47；「光かがやく春の日に」『子供の歌集』57、2節；『聖徒の道』1995年4月号、こどものページ13）

4. このほかにイエス・キリストの生涯と教えに関する記事については、「イエス様が望んでおられること」『聖徒の道』1998年11月号、こどものページ14-16；「大きな喜び」『聖徒の道』1997年12月号、こどものページ2-3；「イエスさまについてどんなことを知っていますか」『聖徒の道』1998年3月号、こどものページ、10-11を参照する。□



御坊地方部御坊支部
竹村和寛

「命じられることに……道が備えられ」

主の愛により、聖文が読める目を頂いて

わたしたちの家族は1994年に、娘2人と息子1人の5人でバプテスマを受けました。この教会に入る前は、わたしは違う信仰を持っていました。

この御坊に引っ越して3日くらいしたある日、玄関の方で「コンニチハ」という声がありました。わたしは若いときに右目を失明し、左目も白内障の手術をしてまだ日が浅かったので、1人が5人にぶれて見えるほどでした。でも外国人だというのはよく分かりました。彼らは日曜日に再び訪問する約束をして帰りました。

日曜日に一日待っていましたが彼らは来ませんでした。その後3日ほどしてやって来ました。「どうして日曜日に来なかったの？」と聞くと、彼らはにこっと笑って「ごめんなさい」とほんとうにすまなそうに言いました。そのときわたしはなぜか心に喜びを感じ、彼らの話を聞いてみたいと思ったのです。

わたしは目に障害を持っているので『モルモン書』を読むこと

ができません。それで妻に隣に座ってもらい、彼らと一節一節、1ページずつ読んでいきました。宣教師たちは朝でも昼でもわたしたちのところに来てくれました。

「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それではなくては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」(1ニーファイ3：7) わたしはこの言葉を聞いたとき、もしかするとわたしの目はよくなるかもしれない、と希望を持ちました。同時に、いつも苦勞をかけ、今もまた、自分の時間を犠牲にしてわたしのために本を読んでもらっている妻に改めて感謝し、悔い改めなければいけないと思いました。

その夜、『モルモン書』を自分の前に置いて、自分が犯した罪を思い返し、またどうすればこの本を読むことができるだろうかと、長い時間お祈りを続けていました。そしてわたしが目を開けた瞬間、表紙の『モルモン』という文字が見えました。そしてその明るく日には「イエス・キリストについてのもう一つの証」という文章も見えました。わたしの目はもう涙でいっぱいでした。それからわたしたちは長老から正式に福音を学び、バプテスマを受けました。

聖文を読む目

今、聖典を読んでおかないとまたいつ目が見えなくなるか分からない。そうした思いから、

1年間で、『モルモン書』を11回、『教義と聖約』を6回、『旧約聖書』を1回、『新約聖書』を6回読むことができました。わたしはこの教会が真実であると確信しました。

ところがそのとき、もう片方の目が突然見えなくなってきたのです。原因は網膜剥離でした。すぐ医大病院へ行き検査をしてもらうと、先生は「目の中に炎症があって中の状態が分からない」と説明し、そのまま病室で待つようにと言われました。待っていると、宣教師が来て「兄弟、祝福しましょう」と言ってくれました。そこで空き部屋を借りて祝福をお願いしました。

5分ほどして先生が来て、「竹村さん、もう一度検査しましょう」と言われました。そして検査に入ると、先生が「あっ、炎症がなくなっている」と声を上げられました。何と炎症で見えなかった目の奥がはっきり見えるということです。

しかし、検査が終わると先生は小さな声で、「竹村さん、すぐ手術をしなければなりません。でも成功しても昼と夜が分かるくらいですよ」と言われました。わたしは真っ暗で何も見えない目から涙が流れそうになるのを耐えました。外には妻がいるのです。彼女の肩につかまって病室に戻りました。その肩は震えているような気がしました。わたしは、「大丈夫だから、一度家に帰って、着替えを持って来てほしい」と頼みました。

「わたしは、あなたを愛していますよ」

わたしはその夜一人になって、闇の中にいる寂しい自分に思いをはせ、いろいろなことを考えました。どうしてこんなことになったのだろう、これからどうすればいいのだろう。どんなに良い方向に考えても、心に「絶望」という文字が浮かんできました。



竹村ご家族

しかしわたしは、あのジョセフ・ミスが引用したヤコブの手紙第1章5節をはっきりと思い出すことができました。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」

よし、やってみよう。わたしは真っ暗な中で、祈り始めました。何時間祈ったのか分かりませんが、わたしは不思議なことが自分の体に起きていることに気がつきました。まるで火の輪がわたしを包んでいるような特別な気持

ちを感じました。それはわたしに平安を与え、心の底からわたしを癒してくるようでした。そのときほんとうに小さな声で、「わたしは、あなたを愛していますよ」という言葉が聞こえたようでした。「あっ、イエス様の声だ。」そう思った瞬間、それまで耐えていた涙が止めどなく流れてきました。

わたしの考えは一変しました。もし神様がわたしに目が必要であると思われるならば、きっと見せてくださる。見えなくなっても、わたしには何か道があって、主はその道を備えてくださっている。わたしの心の中に、手術に

備える勇気がわいてきました。

明るく日の手術の間も、終わってからも、奇跡の連続でした。わたしの目は今、特殊な眼鏡をかけて、虫眼鏡を持って、やっと文字が見える状態です。新聞は読むことができないのに、『聖書』は読めます。そうです、今も奇跡は続いているのです。わたしはイエス・キリストが生きておられることを知りました。わたしたちは、イエス・キリストの愛をもって学び、教え合い、助け合わなければならないのです。これらの証を心から申し上げたいと思います。(たけむら・かずひろ 支部伝道主任)



熊本ステーキ熊本ワード
岡田清武

余命1年の告知

1997年の2月でした。妻には待合室で待ってもらい、わたしと伝道から帰還したばかりの娘は診察室に入りました。医者は、わたしの肺の組織から癌細胞が見つかったこと、今回は5年前に手術して切除した肺の反対側への転移であり、手術は不可能であること、余命は1年か2年であることを告げました。

それまで気丈にも娘は、涙一つ見せずに耐え抜いていました。「泉ちゃん、もういいよ、お母さんのところに行って。後はわたしが聞いておくから」と言って妻のところへ帰すと、娘は、診察室を一步出るなり「痛だって!」と泣き崩れたのでした。100パーセント結核だとばかり思っていた妻は、癌と告げられ「あー、そうだったのか」とすべてのものが一時に停止し、何も考えられず頭の中が真っ白になり、ただ娘に「そういうことはいつかは必ず来るのだから」と言い聞かせたそうです。ところが娘が泣きやむと、妻自身、ど

現世の日々は永遠に わたしたちの命は主の御手の中に

うしていいのかわからなくなり、ただ涙があふれて止まらなくなって、まるで夢遊病者のように玄関の外に出て行ったと聞きました。

告知の夜、家に帰っていちばん最初にしたことは『福音のメッセージ』の「天父の計画」のビデオを見ることでした。そこでは「キリストはわたしたちが永遠に生きられるように……死と罪を克服されました」と語られていました。が、3人は等しくおし黙ったまま一言もありません。長い沈黙の後、妻は言いました。「今は『救いの計画』もほんとうには信じられない。『永遠』さえ信じることができない」と。

その夜、横に寝ている妻に手をやると頬が冷たくぬれているのでふいてやりました。妻は言いました、「お父さんがわたしにとってこんなに大切だなんて、今初めて分かった。今はわたしが身代わりになって死にたい」そしてつくづくとかみしめるように、「人生ってほんとうに短いね、針の点のようなものね。もう少し、もう少しでいい

からこのままでいたい」と。それは彼女がこれまで一度も口にしなかった言葉でした。こんなにも妻が苦しんでいる……自分のことよりも何よりも、わたしにとってそれはつらいことでした。

その後4日間は変にむなし日々でした。恐らく今日が、教壇に立つ最後の日だろうというのに、どこにいてもわたしは、自分が場違いの所にいるような完全な疎外感に包まれていました。優しい心根の女子生徒が「先生、笑っていると癌は消えるそうですよ」と言ってくれます。こんなとき笑える人がいたらお目にかかりたいものだ、と思いました。

その夜も変に落ち込んでいたのでしよう、横で寝ていた妻が、たまりかねて一喝したのです。「お父さん。こんなことでどうするんです。まだ始まったばかりじゃありませんか!」

わたしははっとしました。数年来の自律神経失調症でただでさえ苦しんでいる妻が、さらに身も世もない思っているというのに、肝心のわたしが落ち

込んでいてどうなるというのでしょうか。そこには、日ごろ妻を愛していると言いつづけているが、彼女がいちばん苦しいときに自分にばかりかまけている己の姿がありました。人は、存在しない過去と未来にとらわれて、唯一、存在する現在を等閑に付しがちです。そのときのわたしがまさにそうでした。

そしてわたしは、わたしのなすべきこと、自分のライフワークが、1日延ばしに延ばされて手も着けられないまま眼前にむなしく転がっているのを目にしました。もう、まごまごしている時間などはないのです。残された時間が貴重でいとおもってきて、何かを書きたい、という意欲がわきあがってきました。自分が生きてきた証を残したくなかったのです。

不思議にも、それから急に、不安や心配、恐怖といったものがまったく消えてしまいました。さっぱりした気分になり、鼻歌でも歌いたいような愉快な気持ちさえ込み上げてきたのです。

家族の記録をまとめる

そのとき、娘を中心として家族の間に交わされた手紙が1,000通ほど手もとにありました。たまたま娘がアメリカに留学したり、伝道に出たりしたので手紙を書く機会が多かったのです。

娘は、わたしたちを教会に導いてくれた宣教師のご両親のもとでホームステイしていました。当時、末の息子をハンガリーに伝道に出していたアメリカのお母さんは、毎日のようにポスト

の中に手を入れてはおっしゃったそうです。「親というものみんな同じ思いです。あなたも1週間に1度は必ず手紙を書きなさい」と。娘が「はい」と返事をすると、「約束すると言いなさい」と言われて約束させられました。それ以来、7年間のやりとりが約1,000通ほどになっていたのです。それを年代順に並べて読み返していると、末日聖徒の家族の姿がよく浮かび上がってきます。家族や親子の関係、教育、宗教、人生における価値観などといった、いわゆる現代の日本人の心の飢えにこたえる内容が多数含まれているのを発見したのです。これらの記録は、わたしの家族にとって最も貴重な宝、我が家の財産とも言うべきものでした。

教会ではよく「覚えの書」とか「家族の歴史」をまとめることが勧められています。わたしは、教会を知る以前から、そのことはとても大切なことであると感じていました。今も子供部屋に行くと、小学1年のときの絵日記から遊び道具まですべて保存してあります。今、読み返してみるととてもおもしろく、写真のアルバムだけでは分からない心の成長の過程を確認することができます。日記は心のアルバムです。また、手紙のいいところは、それをいつでもどこでも好きなときに繰り返し読めるという点にあります。電話は確かに手軽で便利には違いないのですが、数秒後には消えてなくなる運命にあります。消えてしまったものは、それが3日前の夕食のおかずであっても思い

出しにくいものです。記録は時代を超えてそのときを何回も再現してくれます。これらの家族の記録は、この現世の日々を永遠のものにしてくれます。我が家の記録は我が家の聖典です。

そう考えたわたしは、翌日から、この手紙や日記を本にまとめる作業に打ち込

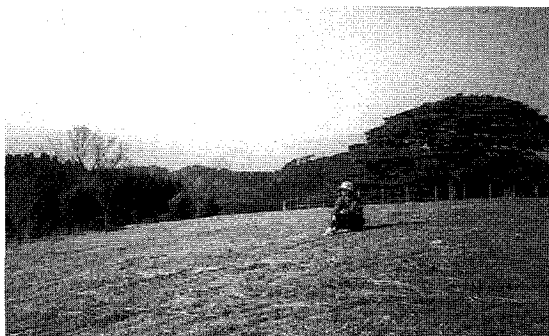
みました。

100パーセントの祈り

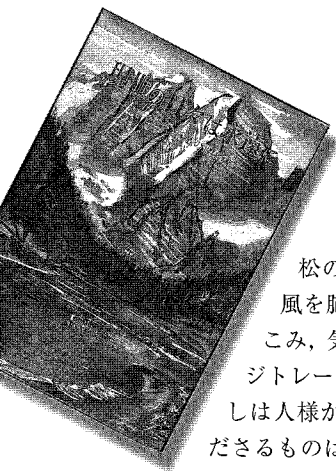
わたしの病気のことを何も知らずに当時インドを旅行中だった息子は、大学院で専門の勉強をすべく、そのための準備をしていました。

わたしたちは春休みに家族そろって息子のいる奈良へ出かけました。息子に事情を説明し、大学院をあきらめさせ就職を勧めるという作業は、わたしにとってつらい仕事でした。子供のためならずすべての機会を与えたいと考えていたからです。息子にとってもショックは大きく、たった数日で結論を出すのはとても難しいことでした。

奈良に行く途中で、熊本ステーキの祝福師である中村良昭兄弟より神権の祝福をしていただきました。また、息子を説得しての帰り、娘が伝道した神戸伝道部の松下部長さんに癒しの儀式をしていただきました。驚いたことに、この御二人の祝福の言葉はまったく一致していました。ともに「癒される」とおっしゃったのです。娘はとても信仰心が強く、「神様が治るとおっしゃるのだから、絶対に治る」と、それからはもう安心とばかり、びたりと心配するのをやめました。毎日が生爪をはぐ思いで生きていた妻は半信半疑だったかもしれません。それでも、自然が変わるように妻の心にも少しずつ変化が訪れて、主は、忍耐強くゆったりとそれを待ってくださいました。わたしはといえば、もう二度と、一瞬たりとも不安は訪れませんでした。「人間の意志を超えたもの」に対して、ただ残されているものは祈りだけでした。わたしは毎朝毎夕、近くの「祈りの丘」と名付けた小高い丘に登りました。唐傘松という天然記念物の老松が地上に触れんばかりに枝を垂らしています。南に九州山地が青い山脈となって横たわり、東に高千穂の峰々、北に祖母・阿蘇の連山が見渡せる眺めのいい所です。



祈りの丘と唐傘松



岡田家族が自費出版された家族の記録『現世の日々は永遠に』。保管していた1,000通ほどの中から抜粋された手紙と、日記、教会で話された証などで家族の温かい心の交流がつつづられている。

松の枝を通して吹く風を肺いっぱい吸いこみ、気功をし、イメージトレーニングをし(わたしは人様がいと勧めてくださいるものはすべて試みました)、そして、目を細めて朝の陽を7色のプリズムとして識別しながら祈りをささげるためにひざまずきます。

「永遠の父なる神よ。今朝もまた、わたしはあなたの恵みに感謝し、こうしてわたしの健康の報告をするためにあなたに会いに来ることができました。あなたの癒しの祝福と恵み、人々の愛と祈り、わたし自身の持つ自然回復の力、植物より頂いた免疫力、家族の支え、そうした良きものが一体となって作用するとき、わたしの肺は聖められ、癌細胞は死滅します。わたしが健康を回復し、この美しき現世における余生の日々を愛する妻と手を携えて歩めますように祝福してください。そしてわたしの家族がこれまで以上に一致し、きずなを深めることができますように見守ってください。わたしはわたしのすべてをあなたにゆだねます。」

それまで、わたしの祈りは100パーセントではありませんでした。どこかに自分の思いが残っていたのです。しかし、この人間の意志を超えたものの存在を知るとき、すべては神の御心であり、すべてを主にゆだねるほかにわたしたちが救われる道はないと思い知らされました。そのとき初めてわたしは、100パーセントすべてを主にゆだねま

すと言えるようになったのです。

「わたしは命あるかぎり楽しく過ごそう。家族と一緒にいちばん大切な時を過ごそう。そしてその後のこと、わたしのあずかり知れないところのものは主にゆだねよう。」そう考えるようになると、人生がいっそう美しく良きものを感じられてきたのです。

ある日、ホームティーチングのために家を出ると、もう外は薄暗くなりかけていました。一人の高校生が課外の帰りでしょうか、自転車に乗って目の前の歩道を帰って行くのを見送っていると、今度は反対側から犬を連れた奥さんが犬の散歩でしょうか、やって来られました。別に何の変哲もない光景にすぎませんが、この何の変哲もない光景にわたしは涙の出るほどの感動を覚えました。それは「存在するもの持つ価値」「生きていること自体の持つつらやましいほどのすばらしさ」でした。普段、見慣れて見過ごしていたものにも目が留まるようになり、人生とは何と美しくとしいものだろうと思え、時間がとてもかけがえのないものを感じられてくるのでした。

そのころ、夏の終わりごろから、わたしの癌は増殖の気配がなくなり、毎月の検査でも目立った変化が見られませんでした。

わたしはひそかに奇跡の予感めいたものを感じました。

平安の日々

若いころからわたしは^{かんしやく}痛癩持ちでした。気に入らないことがあると強く言葉に出して言う悪癖のあったわたしに、妻はずっと従順であり続けましたが、心の中にはわだかまるものはあったようです。それでこれまで妻にはいろいろなことを約束しましたが、わたしはずっと裏切ってきたのです。妻はそんなわたしに期待しなくなりつつありました。

ところがその妻に言わせると、この1年これまでになくわたしは穏やかできれいだったそうです。朝から夜までいつもわたしは妻と一緒にでした。草を刈ったり、読書したり、家族の記録をまとめたり、旅に出たりと、毎日がこんな日だったらいいのになあという時が1年も続いたのです。とにかく平安でした。休職中にこんなことをしているのだろうかともったいなく思うほどでした。

8か月かかって家族の記録の原稿がやっとまとまり、クリスマスには本が出来上がりました。肩の荷を降ろした気分が年が明けた1998年1月、検査を受けに行きました。久しぶりにCT写真を撮りましたが、写真ができたとき、医師は何度も何度も不思議そうにフィ



岡田清武兄弟。前にあるのは『現世の日々は永遠に』で実際に使われた約100通ほどの手紙と資料。岡田兄弟は昭和33年の大学入学以来、約1万通にも及ぶ手紙を、家族の記録としてすべて保管しているという。

ルムを眺めていました。そして「癌がどこにあるのか分からなくなっている」と言うのです。

わたしはすぐに車の中で待つ妻のところへ駆けつけました。妻は、涙にあふれて感謝の祈りをささげました。まことに不思議な経験でした。今、わたしは自分の体を通して奇跡を実感することができます。主は何と早くこたえてくださったことでしょうか。

この1年の試練は家族を一段と強めてくれました。わたしはすべてを主にゆだねることができるようになりました。お母さんはお父さんのことをいっそう思ってくれるようになりました。娘の泉は信仰を深め確信を持ってました。息子の清明は自立の精神を高めてくれ

ました。覚えの悪いわたしに主は忍耐強く手を取るようにその道を示してくださいました。わたしたちの人生は神より与えられたものであることを知るとき、平安を覚え自分の価値を悟るのです。わたしは現在が、これまでの生涯の中でいちばん充実していること、喜びの日々であることを知っています。

この本の出版はまた、世の人々に末日聖徒の姿を知ってもらうためのものでもありました。この本は教会外の方々にも大きな関心を持たれています。そしてそれらの人々が一致して、わたしたちの家族愛、苦しむ者にもたらされる平安について語ってくださるのを聞くとき、まさしくこの地上のすべての人々が、等しく神の子であるという



岡田ご家族。後列左から清明兄弟、泉姉妹、前列左から清武兄弟、英子姉妹。

ことを知ることができるのです。(おかだ・きよたけ 日曜学校教師養成コース教師・ステーキ人名抄出者)

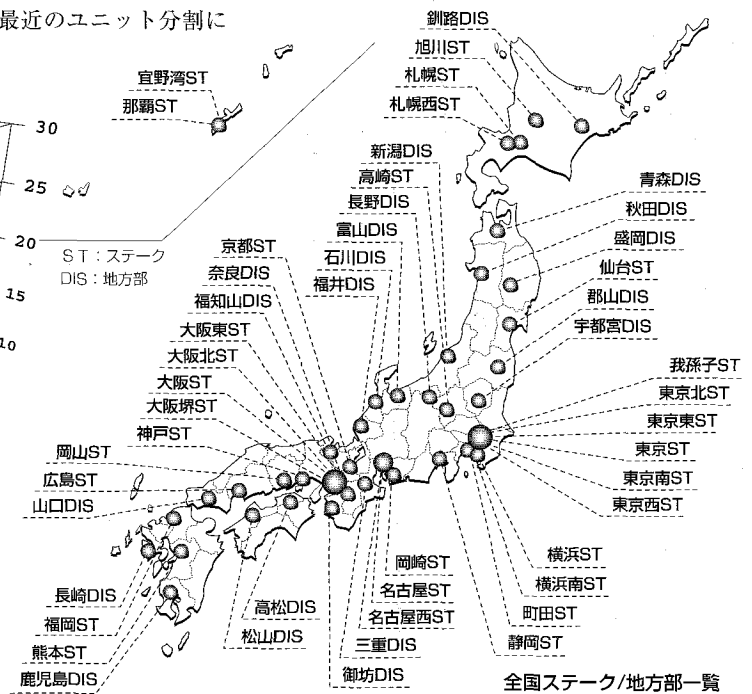
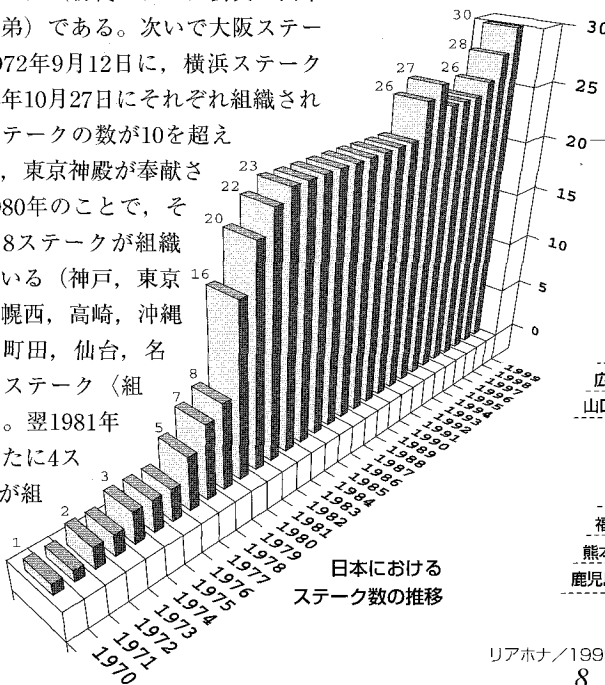
●ローカル・ニュース

日本におけるステーキ数が30に到達

1999年1月24日、沖縄那覇ステーキの分割により宜野湾ステーキが組織され、日本のステーキ数が30に達した。日本で最初に誕生したステーキは、1970年3月15日に組織された東京ステーキ（初代ステーキ会長：田中健治兄弟）である。次いで大阪ステーキが1972年9月12日に、横浜ステーキが1974年10月27日にそれぞれ組織された。ステーキの数が10を超えたのは、東京神代が奉獻された1980年のことで、その年に8ステーキが組織されている（神戸、東京東、札幌西、高崎、沖縄那覇、町田、仙台、名古屋西ステーキ〈組織順〉）。翌1981年には新たに4ス

織され（静岡、高松、広島、東京南ステーキ〈組織順〉）、早くもステーキ数は20に達した。以後、緩やかな成長を続けてきたが、最近のユニット分割に

より、ステーキが増え始めている。なお、これまでにステーキ会長として召された人の数は88人に上る。□



職業に息づく福音

末日聖徒として、職業を通じ社会とのかかわりの中で積極的に福音を活かしておられる方々に、その生きざまを語っていただきました。

画家

アラン・ウェスト兄弟

アラン・ウェスト兄弟は1962年生まれ、米国ワシントンD.C.出身。1982年に伝道で初めて日本の土を踏む。岡山伝道部、おもに四国で働く。伝道中、丸亀で福岡鉄斎の絵に出会い、強い印象を受ける。帰還後、カーネギーメロン大学芸術学科絵画科を卒業。その後筑波科学万博アメリカ館の通訳として再来日。1990年から東京芸術大学大学院日本画科に入学、加山又造氏に師事。米国スミソニアン美術館、BYUミュージアムの個展をはじめ各地で精力的に作品を発表している。今回、東京・新宿で個展を開催中のウェスト兄弟を訪ね、お話をうかがった。(編集室)



右は松・竹・梅3部作のうちの「松」。この老松の屏風は、ウェスト兄弟と親交の深い能役者のために描かれた。能楽堂以外で能を舞う際に、能舞台の味を出すための鏡板（能舞台の背景に張られる板、松を描く）代わりに用いられるという。生者と死者の関係などに見られる能の世界観は、末日聖徒の世界観と大いに通ずるところがあり、能を見ていると御霊を感じることもある、とウェスト兄弟は語る。

なぜ日本画を描くのですか。

日本画ということとはあまり関係がないですね。例えば空気や風の流れや水の流れを表現するには、油絵具とは違った流れる絵の具が必要でした。流れるような画材ってほかにないですよ。日本に来て初めてそういうものがあると分かったことがすごく大きいんですよ。だから日本画へのこだわりというよりも絵具へのこだわりですね。

日本画的なモチーフだと言われるんですけど、わたしの出身のワシントンD.C.には桜がいっぱいあるし、藤の花も、竹や松や梅も全部あるんですよ。こういう植物を描くから日本的だと言われると、いや植物には国境がないですよ、色には国境がないですよ、などと言いたくなります。

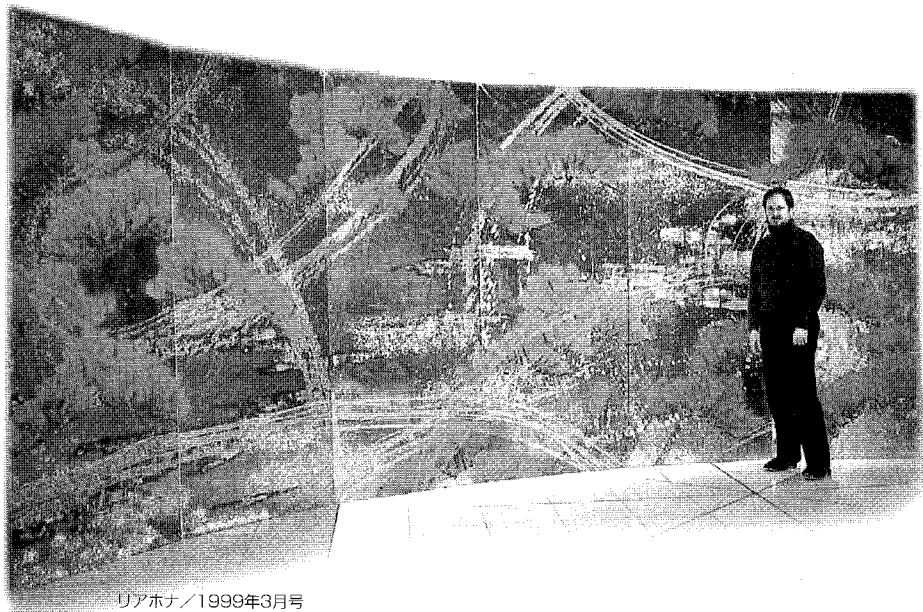
この力強い線はどうやって描くのですか。

かなり大きな、2メートル近い筆で描きます。毛の部分だけでも1メートルくらいあります。馬の尻尾の毛ですが、筆1本作るのに30頭分くらい必要だったそうです。そういうものを使って描くんですね。

失敗することもありますか。

いや、失敗は許されませんよ。パ

ネルも金属箔もすごく高いですし、岩絵具も本群青で、15グラムだけで3,000円もするような……。ですから、失敗がないように、よく空振りという、絵の具の付いていない筆で描く練習をします。オリンピックで流行のイメージトレーニングもやりますし、また「振り付け」ということもします。それはつまり、足はどこに置く、手はどういうふうにかかると、とダンスのように動きを決めて何度も練習するんです。でっかい筆ですから、両手で持たなければならない。それで一気に描いていくとき、「あ、足はどこに置けばいいですか」と一瞬迷ったら、ふにゃふにゃになってしまふんですね。筆って、頭の中に雑念が入っただけでも微妙に、でも非常に鮮明に出るんですよ。でっかい筆とでっかい動きですけど、その「あ、」という思いだけでも影響が出てしまいます。だから描いているときは常に祈っている気持ちで描くんです。それに実際、筆を持って描いている時間よりも、どういうふうにかかればいいのか、どういうことを表現すればいいか、という導きを求めて、瞑想し祈っているような気持ちでいる時間の方が長いんですよ。



リアホナ/1999年3月号



個展会場にて。3部作のうち「竹」の屏風。

何を表現しようとしているのですか

教会員の方にはよく分かっていただけだと思いますけど、『高価な真珠』の中で、万物は霊によってまず創造・組織されたというふうに書いてありますね（モーセ3：5参照）。わたしの絵の力強い線はすべてのものの中に走っている勢い、流れ、つまり目に見えないけれど在るのが分かる「^{スピリット}霊」そのものを表現しようとしているのです。「森林浴」という言葉があります。別に何か動いたり走り回ったりするわけではありませんが、森林浴をすることによって元気づけられ清められるような気持ちになるのはなぜだろう、と思うと、その木の霊を描きたくなくなってしまいうんですね。

芸大にいたころ、一度わたしの先生に、「あなたはキリスト教文化圏だからね、分かるわけないんだけど、日本画の人たちはみんな日本人の古来持っている山の神様、岩の神様、みたいなことを信じているんだから、そういう大和魂みたいなことを思って日本画が描けるんだから」というようなことを言われました。そこでわたしは、「違いますよ先生、ほかの宗派とは違うかもしれませんが、わたしは、神様が、わたしたちのために美しい自然を創造されたと信じています。それらが美しいのは、すべてに魂が宿っているから」というふうに言いました。すると先生は、「ああそうですか、じゃあ西洋人

で最も日本画を描くのになさわしい人かもしれない」みたいに言ってくださいました。

また預言者の言葉には、万物創造を含む救いの計画をわたしたちが前世で教えられ自分なりに理解したとあります。万物の創造は、組織されていないものが組織されること……物になるうとする動き、その秩序と無秩序の境界線……非常に興味深いことですよ。それも表現のテーマの一つです。それは芸術家の誕生かもしれません。なぜ物を創造するのか、どういうふうに創造するのか、それを最も模範的な主の「万物創造」に照らして深く考えなければいけないですよ。ある意味で、忘却の幕をのぞき込もうとするようなこと……それが芸術家の活動かもしれません。わたしがこういう絵を描くのは、その創造の場にいたことを必死に思い出そうとして、自分なりに何かを生み出そうとする行為なんですね。

なぜ屏風絵を描くのですか。

普通の展览会だと、壁に沿って展示しますから、絵という「物」になってしまいます。そうではなくて、「環境」になりたいんです。だからもちろんサイズも大切ですね、ただ単にでっかい絵を描きたいということではなくて、視野をいっぱいにして、あなたが入り込めるこういう美しい世界があるとい

うことを指し示したいんです。無機質なビルの中でそういう空間を作り、しかもその空間はやっぱりちょっと神聖な所であると感じてもらいたい。外側から見るとただの黒い円柱ですが、中に入ると、外から見るより断然広い世界に入って来たような……。

神殿の壁画を連想させますね。

昔、神殿の壁画を描くために召された絵画宣教師という人たちがいましたが……。

まさに、わたしの気持ちとしてはそういう形で教会に非常に貢献したいんですよ。絵画宣教師という制度がなくなったのは残念だけど、強くなって自分でやるしかないと思います。実際に王国の建設のために時間と才能をささげるとき、絵描きは大いに役に立てるのに、と思います。だからいつでもその準備をしているという気持ちがかんかにあります。

わたしの弟は、子供のときからずっとロシアへの伝道で役に立ちたいという気持ちが強くあってロシア語を勉強していました。普通の人から見れば、当時冷戦下だからこんなあほらしいことはない。でも、彼は頑張って勉強して、高校のときから第2外国語はロシア語で、大学でもロシア語を勉強しました。そして伝道に行くとき、ロシアには伝道部がないから、結局召されたのはフィンランドだったんですね。そ

れで宣教師訓練センターに入ってフィンランド語をいっぱい勉強して8週間たちました。ところが空港に向かおうとするところで止められてこう言われたのです。「ちょうど今日、ロシアへの伝道が始まることになりました。最初の8人の宣教師の1人として行ってもらえますか？」そうして、ずっとモスクワとか、レニングラードで、間もなく名称がサクトペテルブルグに戻ったんですけど、まだレニングラードのころから行ったんですよ。だから信仰を持って備えをすれば、後々そういうことが生かせると強く感じますね。

わたしはワシントンD.C.の出身ですけど、ワシントン神殿の壁画も末日聖徒でない人に発注したらしい、というわさがあったんです。事実でないならわたしが悪いんですけど。もし、まともに依頼できる末日聖徒の作家がいなかったら、悲しいことです。そのことから強く使命感を持っていて、頑張らなくてという気持ちがあります。

わたしが思うに、強い証^{あかし}と深い信仰を持つ人なら、どんな絵を描いても、福音に基づいた良い霊^{たまご}というか影響力を持つんです。神殿の絵や再臨の絵を描かなくても、それはちゃんと出るんですよ。教会員のために描く絵なら、「最初の示現」といった絵を描くかもしれません。しかし自分の持っている真理を一般の人たちのために表現するときに、あまり濃い宗教色が入っていると拒絶されることがあるんです。例えば『モルモン書』のベニヤミン王の話をおラトリオに作曲する人もいれば、「歓喜の歌」を作曲する人もいます。それで『モルモン書』に関心のない人たちだったら、どんなにすばらしい音楽であっても、残念ながらほんとうに悲しいけれど拒絶されるのが今の現状なんです。しかし「歓喜の歌」だったら、受け入れられてより良い影響力を持てるかもしれませんよ。

例えば、無秩序で混沌^{こんとん}とした環境の

中にあってもわたしたちは影響されなくてもいい、といったメッセージは、吹き荒らされるような世界に静かに息づく植物たちを表現することで、説教的ではなく印象として、伝えられるのではないのでしょうか。……だから、展覧会では毎日必ずと言っていいくらい、「こんなに力強いエネルギーな作品なのに、不思議に、静かな落ちつきを感じる……非常に良い気持ちになります」って言われるんですね。そんなときは、訴えたいものが伝わったんだな、と思って非常にうれしく思います。そういう形で教会のお役に立つのが今のところはいちばんいいのです。でも、もしもそのうち教会のために描くようにと召しが来たとしたら、それは喜んで受け入れたいですけど。

人生の目的、昇栄ということと絵を描くことはどうかかわっていますか？

わたしが絵を描くのは……わたしたちは生まれて来たとき、幾つかの賜物^{たまもの}・才能を与えられ、いろいろなことを期待されていますよね。しかしそれを重んじなかったりばかにしたりして、例えばちゃんと才能があるのに、偉くなりたいから東大に無理をして入るとか……でも、もしかするとその人は世界一の量職人になるべき人だったかもしれないですよ。

わたしたちが与えられる賜物、持っている可能性、主に期待されていること……それにどれほど一致した生活をするかも昇栄するために必要なことの一つです。……結局、人生は罪を犯さないで無難に過ごすだけで昇栄できますか？ そうじゃないですよ。(笑) 現世で積極的にどういう役割を果たしたのか、果たすべきだったのかということも関係すると思うんですよ。それを探るのも楽じゃないですよ。だけどやっぱり……みんなそれぞれに使命がありますから、考えなければなりません。

だからわたしの場合は、まあ絵を描

くことによっていろいろな……人間として必要な経験、これから期待されることなどを、少しずつ分かってこられたらいいかなと思います。結局、例えば才能を与えられ医者となるように期待されていたとして……癒^{いよ}しの賜物とか、みんなそれぞれ賜物を与えられますよね……それを生かそうと頑張っている人と、医者というのがすごく立派な職業でたくさんの人に偉いと思われるからやろう、と思う人とは、全然違うでしょう？ きっと仕事の姿勢も違うし、結果も違うと思いますね。そう考えると、最後に裁かれるときにはどうなるんだろうと思います。それはすごく恐いですよ。だからわたしは自分の仕事ですごく頑張っていかなければ……。

もう一つには、様々な職業があると思いますけど、いろいろな形で人々と接することによって、死後にまで影響が残りますよね。例えば学校の先生だったら、子供たちを育てる手助けをして、そして彼が亡くなくても遺産がその人たちに宿り続けます。そういう意味では絵は、人の精神に影響をもたらすものでもあるし、人間の寿命よりは断然長く残る分だけ、すごい責任を感じます。なぜなら自分の与えた影響によって裁かれますからね。人々に良いこと、建設的なことを与えたのか、それとも悪いことを……そう考えると重い責任を感じます。それこそ自分の表現にも責任取っていくつもりで描かないといけませんよ。だから末日聖徒の絵描きは少ないんだと思う、恐いから。(笑)

もう一つ、美術界というところで生活していくのは、経済的な意味でもやっぱり恐いです。いわゆるこの世的な意味で成功することも……成功したければこの世的な標準の絵も描かなければなりませんし、成功することはばかり気にしていると、あまりいい仕事もできないし、結局、描くべき絵を描く一心で努力するしかないですよ。□

職業と福音

職業 息づく福音

特集

医師 中村良昭 兄弟

中村良昭兄弟は1931年生まれ、熊本市出身。病弱な幼少時代を通じて感じた主治医への信頼感から医師を志す。熊本大学医学部卒業、国立東京第1病院（現在の国際医療センター）での研修医時代に日本初の心臓手術を見学して感激、心臓外科医となる。熊本大学大学院の講師として2年間ニューヨークへ留学、人工心臓を研究する。その後熊本、宮崎の国立病院に勤務。宮崎県で初の心臓手術を執刀する。医学博士。1988年からは東京神楽の副神楽長として2年間奉仕された。熊本ステーク祝福師。現在、熊本県阿蘇郡久木野村にて営まれている診療所に中村先生を訪ね、お話をうかがった。（編集室）

信仰とお仕事はどうかかわっていますか？

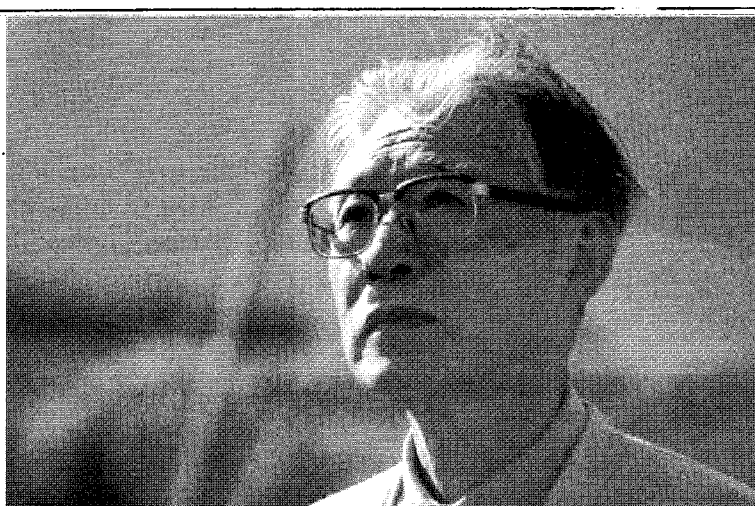
わたしは改宗する前の年、熊本大学の大学院で講師をしていました。そのとき心臓の手術は熊大でしかできなかったんですが、手術を希望している方がいっぱいいるし、どこかもう1か所できる所がないかという県からの要望で、熊本の国立病院が引き受けて、わたしが行くことになったんですね。そのときには、わたしが心臓外科を担当することが信仰生活と結びつくなんて夢にも思わなかった。

1971年1月に国立病院に移って、3月の末に、戸別訪問で宣教師が来られたんです。そして7月に改宗して、最初の心臓の手術は9月でしたから、9月にはもうわたしはお祈りをして手術を始められる立場になっていました。今の心臓の手術はかなり安全にできますけれど、そのころは死亡率も非常に高く、患者さんに「あなたの手術の成功率は五分五分です、そのくらいのしっかりした覚悟を持って

ください」と、面と向かって言っていた時代ですね。わたしとしても、ましてや第1例を失敗したらもう後が続かないですから、まったくの背水の陣で臨まなければならない。そのときにやっぱり、わたしのような未熟者がスタートを切るに当たっては、神様の力が要するというので、宣教師が来たんじゃないかと思ったんですね。だから、わたしは神様に見守られて手術ができるっていうことを、強く感じたわけです。そして、自分の信仰生活というのが、心臓外科ということを中心にして動き出したと感じたのです。

こういうこともありました。国立病院に移って2年たったころ、わたしは副支部長をしてたんです。火曜日が支部長会でした。で、心臓の手術も火曜日にしていた。心臓の手術が終わったら、だいたい5時ごろ手術場を出て、病棟に戻って、ある程度容態が落ち着いたのを見極めて病院を出るのが7時か7時半。それから支部長会に出て、手術当日は一晚中ついてないといけませんから、また病院に行き泊まり込む。そんなことをしていました。

ところが、その年の2月の末に副支部長を解任になって地方部の評議員になったから、いやあ、これでもう支部長会はないし、じゃんじゃん手術ができると思っていたら、4月から心臓手術が中止になったんです、労働組合と病院の事情で。それで、せっかくなかったのになあ、と思っていたら、6月に支部長に召されたんです。それからはもう、土地を買うことや教会堂の建築のことで、相当駆け回りました。地主が、国立病院の近くに事務所を持っていたので、お昼休



みに出て行って交渉したり。建築が始まると建築現場に朝寄って、病院に行く、そうすると病院に現場から電話が来て、建築宣教師がけがしたとか、何が足りないとか……。だからもうほんとうに、支部長時代に心臓の手術が軌道に乗ってばりばりやっていたら、わたしは体力も続かなかったと思います。それで、4年たって建築が終わったところでわたしは支部長を解任になりました。すると心臓手術がその翌月から再開したんですよ。わたしが支部長だった4年間は心臓の手術がストップしていた……。そのことをわたしは何の気なしに思っていたけれども、このとき初めて、ああ、神様が止めてたんだな、やっぱり神様は生きておられて、わたしが支部長の間は心臓手術を止めてくださったんだと分かりました。

手術中に神様の助けを感じますか？

神様の助けなしでは、やれません。人間の力というものは、ほんとうに弱いものですよ。よく、おれが治したって言う人がいますけど……。

わたしの学生時代に、内科の教授が、医者が病気を治す、その役割は何パーセントあると思うかって言うんですよ。「一人の患者さんが重体になって入って来た、でも一生懸命治療して治って帰って行った。じゃあこの患者さんが治るに当たって、医者は、どれだけの役割を果たしたか、100パーセントか80パーセントか50パーセントか」。って。で、教授は、実は医者



中村医院

役割は40パーセントだって言うわけですよ。後の40パーセントは本人だって言うわけ。本人の努力なしでは、病気は治らない。ところが40プラス40で残りが20パーセント残るでしょ。じゃあ残りは何かって言うと……分かりません。20パーセントは、それは神様の力かもしれないって、それを大学の教授が言ったんですよ。わたしは、それが非常に心に残りましてね。思い上がるんじゃないって。自分が治したと思っただって、自分の力は4割しかないんだって。それはいつも思ってたし、ましてや心臓医になった場合に、心臓が止まったときにはどうしようもない。自分がどんなに努力したって、心臓が動いてくれなきゃどうにもならない。だから、神様の助けなしには……。しかし、それだけに、どんなにお祈りしても助からない人もありましたしね。それはそれなりに、その人の寿命かもしれないし、自分としても反省することもたくさんあるだろうという悔い改め、反省をしながら臨床をやってきました。

現在の診療所を始められた理由は？

神殿宣教師になるという時点で、帰って来たら何をするか、第2の人生を考えなきゃいけなかったわけです。わたしの場合はあくまでも、医者としての能力を発揮して、教会のお役に立ちたい。特に日本にはLDSホスピタルがないから、お年寄りや癌がんの患者さんなどが、安心して療養できる場所を提供したい。それはもう、第1の目標でした。具体的にはいろいろ研究しましたが、結局母の故郷でもあるこの久木野村にまずこの診療所をつくりました。それを中心とする老人ホームやホスピスをそばにつくるのが目標だったんです。

ところが今度、教会の人たちが中心になって、福祉施設を作るという動きが出てきました。これはまた、わたしには思いがけないことが始まったわけ

です。長嶺ワードの監督さんは、社会福祉法人の保育園を持っているんですね。社会福祉法人というのは営利企業ではなく、まったく利潤を追求しない。だから、福祉施設を非常につくりやすい法人なんです。それで、彼もかねがね教会員のために老人福祉施設をつくりたいという考えを持っておられたわけですね。ところが、熊本に建てようかと思ったら、熊本はもう行政上の枠がいっぱい建てない。ところが久木野村にはまだ枠がある。それで経営コンサルタント会社の役員をされている兄弟といろいろ相談しているうちに、それじゃあ、久木野村に建てようということになったのです。設計は、一級建築士をされている兄弟がいらっしゃって……いろいろな条件がそろってきたんですよ。

たまたまそれと前後して、久木野村の村長さんは患者さんとしてちょくちょく診療所に来られるんですが、話していたら、「先生が久木野に福祉施設をつくってくださるなら、とっっても助かる」とおっしゃった。ですから村としても願ってもない話なんですよ。平成12年度予算で、来年建築が始まるように持っていけると思います。

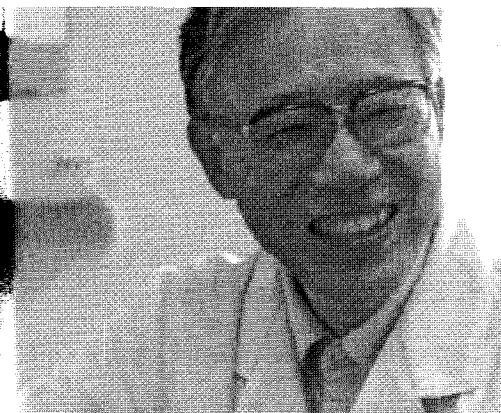
急転直下、医療機関を中心としたシオンを久木野につくりたいというわたしの目標が、具体化しそうで……。でもこれはほんとうのワンステップであって、日本各地に末日聖徒のドクターがたくさんいらっしゃるから、まあ、モデルケースとしてね、各地にそういうものができたださったらいいなと思っているんですよ。教会の根本理念は自立ですから、特に福祉としては、自立できるようにしてあげることもとても大事だし、金銭的な意味だけでなく、奉仕という意味でも、大いに活躍していただいたら、それが伝道にもなるし、資金的にもいいという一石何鳥にもなるんじゃないかと思うんですよ。そういう時代が来ると思います。

一般の医師と、末日聖徒の医師とのいちばん違う点はどこでしょう？

それはもう、霊の存在を知っているということですよ。ほかの医者は、霊の存在を否定します。だって、証明しようがないんだもの。あるいはせせら笑うかもしれませんが。霊の存在を知っているということが一つ。それから、命も神様のものであるっていうこと。これがわたしは、決定的な違いだと思います。

霊の存在というのを経験したことが一度あるんですよ。これは奇妙な話なんですけど、女性の患者さんが針が刺さったって騒ぐんです。刺さった刺さったって言うから、ずうっと調べていたら、針が心臓に来ていた。流れてきたわけね。そんなこともあるんですよ。だから心臓を開けて、それを取ってあげたんです。そしたら手術が終わって元気になってから、「わたしは先生たちが手術中にしゃべったことを全部知っている」というわけ。で、どんなこと知ってるの？と聞いたら、確かにわたしたちが手術中にしゃべったことで、ほかのところや彼女の前では絶対話していないことを全部知っている。それで麻酔の先生に、「あんたね、患者さんにどんな麻酔かけたの？」って言ったら今度はその先生が怒っちゃってね、わたしは完全な麻酔をかけたから、そんなの聞こえたりするはずは絶対ないって言うわけです。不思議だなあと思ったけど。今から20年前のことです。

ところがごく最近ドイツの学術誌に、深い麻酔がかけてあったにもかかわらず、会話を聞いたり、実際の場所を見ていたという人が40数人いたって報告が出てきた。これは臨死体験じゃなくて麻酔中なんです。だけど、肉体から霊が離れれば、見ることはできるのね。20年も前のことだけど、これは事実なんですよ。だから霊の存在ということ、わたしは確信していますね。



中村兄弟が考える、あるべき医療の姿とはどんなものですか？

わたしは、「自分はどうような死に方をしたいか」ということをもうそろそろ考えてもいいんじゃないかなと思うのね。クオリティ・オブ・ライフという言葉があるんです。例えば重病で半身麻痺になっても、車いすがあればどこにでも行けるでしょう。あるいは肺の働きが非常に落ちた人には、魔法瓶みたいな液体酸素のボンベが今はあります。それで酸素を吸うと、旅行もできる。だから、車いすがあったり、酸素ボンベがあったりすると、生活の質が向上する。そういう意味です。それと同様にクオリティ・オブ・デスという言葉もある。これは一言で言えば、豊かな死に方。

わたしは、堂々として死んだ人と、静かに死んだ人と、それから豊かに死んだ人とね、3つの経験があるんです。

堂々とした方はね、肺癌で、……おれはあと1か月の命だって自分で言い出して、それでもう財産は処理するわ、息子さんたちを呼んで、遺言して、事業を引き継がせて。そして質素な葬式をしてほしい、弔辞はだれにして、写真はこれを、と全部手配して死んだ人。それは堂々とした死ですよ。

それから静かに死んだ人は……「わたしは天涯孤独だから、わたしが死んだらすぐ大学に送ってください」って言って、献体してあるから、葬式なんかしなくていいというわけですよ。わたしは、日曜日に亡くなったら大学は引き取りに来るだろうかと心配になっ

て問い合わせました。そうしたらそんな人は献体していないって言う。びっくりしてね、どうしたらいいかと相談したら、村長が身元引受人になって、わたしが立会人になって書類を作ればいいということになった。それで本人に「実はあなたの献体はまだできていなかった、あなたのサインが要るんだよ」って言ったら、彼は寝ながらサインして。そうして書類を送ったら、明るくなる日すうっと死んじやった。安心したんでしょうね。

もう一人の人は、前立腺癌でした。時々意識がぼこっとなくなることはあったけれど、二日もたてば回復していた。ところが1週間たっても意識が戻ってこないからこれはもうだめだと思って、家族を呼びました。ところが1週間たっても死なない。家族が大至急って言われて仕事ほったらかして大阪東京から飛んで来ているからね、「これ以上延びると困るけどいつ死ぬか？」と言われて……わたしは予想もつかないし、「じゃあ申し訳ないから、もうお別れをして、今度はお葬式のときに帰って来られたらどうですか」って言いました。そこで、じゃあそうしましょうかって、おじいちゃんお酒が好きだったから、もう意識のないおじいちゃんの枕もとで、みんなでわいわい言って夜を過ごした。明るる朝ね、すうっと亡くなった。家族はもう前の晩にお別れをしているから、全然悲しみが無いのよ。それでわたしは、死後の処置というのは普通は家族を追い出して看護婦さんがするんだけど、「みんな手伝ってください」って言って、おじいちゃんに何着せようか、と着替えからお化粧からみんなでしたら、全然涙のない、豊かな死というか幸せな死というか……みんながこんな死に方をしたらそれは良からうなあと思いました。

人の死を決めるのは医者の仕事なんです。「あなたは何年の何月何日何時何分に死にました」と診断書を書く。その権限は医者を持っているんですよ。ほ

かのだれも持っていない。その権限を持った医者は、その人が亡くなるときに、どのような亡くなり方をしているか、というのを大いに反省すべきだと思うんですよ。なぜかとうい、集中治療室とかで一生懸命、危篤状態の人を看護しますよね。ところが、その時点では家族は全部、追い出してしまっただけで立入禁止なのね。そうして亡くなりましたと家族に言う、もう冷たくなったところに、家族が入る。これは惨めな死だと思うんですよ。やっぱり、一人の人が、来世に旅立って行くというときには、家族がそばにいて、いちばん信頼の置ける人が手を握ってあげていてもいいんじゃないかって。そういうことを考える医者はまだいないでしょう。これはねえ、わたしは医者のおごりであると思います。

わたしは、人々が豊かな死を、その人らしい死を迎えることができるように配慮してあげることは、医者のもっとも大事な役割だと思う。しかしこれは、聖文の中にはっきりと「わたしたちは肉体と霊からできている」と書いてある、その「霊の存在」ということを十分に考えたならば、当然、行き着くことなのです。死んだときに肉体から霊が離れますからね。そのときの霊は、自分が死んだところを見ていると思う。やっぱり死というものを医者は演出していいんじゃないかと思うんですよ。自分なりにね、納得のいく死に方をするように。必ず人間は死ぬんですからね、惨めな死に方をさせてはいけません。……そういうことを、少しずつ啓蒙していこうと思っております。□



診療所の裏には畑があり、奥様の式子姉妹が、無農薬で高菜や野菜を作っている。姉妹が献立を作る入院患者さんの食事にも使われる。中村兄弟は「晴耕雨読の日々です」と笑う。

専任宣教師

1999年1月(232期生)5人 海外1人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



いものりな
今野梨那
福岡伝道部
東京南ステーキ
渋谷ワード



さかもとけいすけ
坂本圭介
札幌伝道部
大阪ステーキ
関目ワード



たかぎ すけむ
高木 進
札幌伝道部
東京北ステーキ
越谷ワード



ふかわ けんいちろう
府川 健一郎
札幌伝道部
高崎ステーキ
高崎ワード



ふるかわ
古川かおり
札幌伝道部
名古屋ステーキ
大垣支部



鉄骨構造、地上6階、地下1階のビルディング。地下1階は駐車場、1階は駐車場とエントランス。180人収容の礼拝堂を含む2階・3階部分は広島光ワードと広島ステーキのために使用される。3階には教会教育部の事務所もある。4階から6階までは広島伝道本部が入り、伝道部の事務所、夫婦宣教師と長老たちの宣教師アパート、伝道部長のアパートとして使用される。



いなば しんじ
稲本真司
ソルトレーク・シティー伝道部
仙台ステーキ
上杉ワード

役員の変動

1999年1月9日から1999年2月10日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の変動(敬称略)

- 大阪ステーキ阿倍野ワード
監督: 勢志 昇
- 大阪ステーキ平野ワード
監督: 榎南 史郎
- 大阪ステーキ羽曳野ワード
監督: 横尾 孝男
- 山口地方部宇部支部
支部長: 井上 倫智
- 熊本ステーキ大牟田支部
支部長: 野田 啓二
- 京都ステーキ大津ワード
監督: 山里 純利
- 日本東京北伝道部
第二副部長: 渋谷 信居
- 日本那覇ステーキ
ステーキ会長: 金城 正之
第一副会長: 与那嶺 真弘
第二副会長: 喜納 正
- 日本宜野湾ステーキ
ステーキ会長: 安里 吉隆
第一副会長: 金城 寛
第二副会長: 伊波 貴
- 那覇ステーキ与那原ワード
監督: 福山 朝光
- 東京北ステーキ浦和第1ワード
監督: 野出 吉広
- 東京北ステーキ浦和第2ワード
監督: 原 三城
- 東京北ステーキ越谷ワード
監督: 松永 則昭
- 東京北ステーキ春日部支部
支部長: 丸谷 昇
- 宜野湾ステーキ宜野湾ワード
監督: 外間 一哉
- 宜野湾ステーキ石川支部
支部長: 安富祖 清一

皆さんの原稿を募集しています

◎地域のニュース、皆様の証などをお
寄せ下さい。ご投稿の際には連絡先、
教会での責任、所属ユニット名を記入
しお送りください。

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリス
ト教会 『リアホナ』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

奉献された教会堂

広島光ビルディング

所在地 〒732-0052 広島県広島市東区光町1-11-26
電 話 082-261-7009
竣工日 1998年10月28日
敷地面積 330.43平方メートル
建築面積 251.28平方メートル
延床面積 1,523.81平方メートル